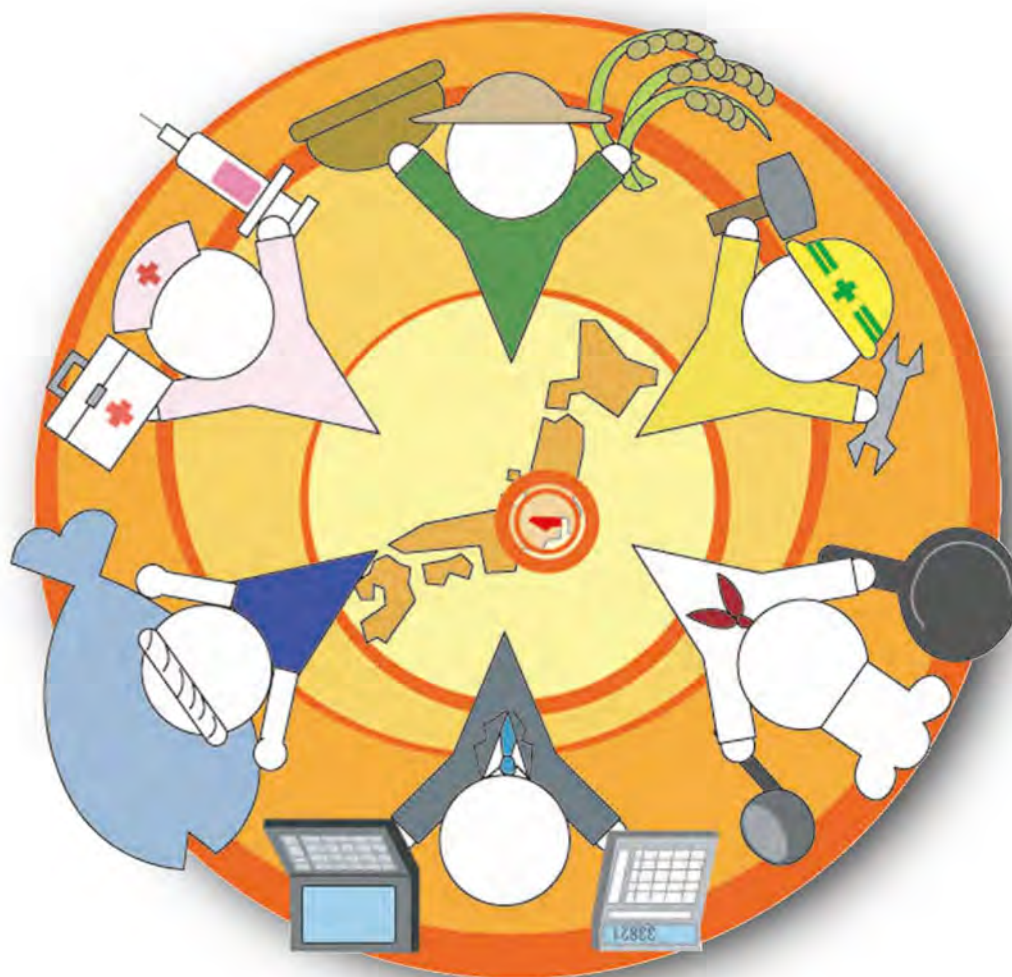


# 東京の産業教育

特集 「新しい日常」における産業教育の推進  
—各校・各学科の取組—



令和3年度 第59号

東京都産業教育振興会

# 東京の産業教育 第59号 目次

巻頭のことば 「若者の最大限の能力開発に向けて」  
東京都教育庁指導部長 藤井大輔・・・1

## 特集 「新しい日常」における産業教育の推進—各校・各学科の取組—

- 1 「新しい日常」における専門高校の取組  
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 小野寺 伸 樹・・・2
- 2 『新しい日常』における産業教育の推進—東京都立瑞穂農芸高等学校の取組—  
東京都立瑞穂農芸高等学校長 吉野 剛 文・・・4
- 3 感染症防止対策を踏まえた工業教育の推進～地域企業と連携した就業実践の取組～  
東京都立葛西工業高等学校長 穂積 振 司・・・6
- 4 新型コロナウイルス感染下における本校の教育活動について  
東京都立江東商業高等学校副校長 藤田 直 美・・・8
- 5 コロナ禍における学校運営と地域性・専門性を生かした教育活動の取組について  
東京都立八丈高等学校教諭 古我知 和 子・・・10
- 6 『新しい日常』における産業教育の推進～ものづくりを生かした感染症対策への取組～  
東京都立世田谷総合高等学校長 佐藤 信 孝・・・12
- 7 感染症対策と教育活動の両立  
日本工業大学駒場高等学校副校長 川上 美 範・・・14
- 8 新型コロナウイルス感染症下での高等学校看護教育  
愛国高等学校・愛国高等学校衛生看護専攻科校長 織田 奈 美・・・16
- 9 ICT、オンラインを活用した都立小石川中等教育学校の取組  
東京都立小石川中等教育学校長 鳥屋尾 史 郎・・・18
- 10 コロナ禍を契機とした新たな授業運営への取組  
学校法人川口学園早稲田速記医療福祉専門学校長 橋本 正 樹・・・20
- 11 新型コロナウイルス禍の中、本校の取り組みについて  
香川調理製菓専門学校長 古川 瑞 雄・・・22
- 12 コロナ禍における都立産技高専品川キャンパスの取組  
東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス教務主事 富 永 一 利・・・24

## 東京の産業界

- 1 民間で教育・福祉を実践する喜びと覚悟  
株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役学院長 芦澤 唯 志・・・26
- 2 日本の経済を支える人材育成  
一般社団法人東京工業団体連合会副会長・一般社団法人大田工業連合会会長  
株式会社昭和製作所取締役会長 舟久保 利 明・・・28

## 情報スクエア

- 1 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校

	の取組（第1年次）「八丈やろこんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～		
		東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一	・・・30
2	文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校の取組		
		東京都立五日市高等学校長 久保田 聡	・・・32
3	厚生労働省「地域発！いいもの」好事例に選出されて		
	大田区教育委員会主催「ものづくり教育・学習フォーラム」		
		大田区立大森第七中学校長 増元 啓彰	・・・34
4	栄養専門学校における基礎学力定着の取り組み		
		学校法人後藤学園武蔵野栄養専門学校長 久保 淳	・・・36
5	（インタビュー）東京オリンピック女子レスリング金メダルを獲得して	安部学院高等学校	・・・38
6	第18回創造ものづくりフェア in TOKYO		
	東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 大田区立蒲田中学校副校長 保谷 満		・・・40
7	第31回全国産業教育フェア埼玉大会	さんフェア埼玉2021	事務局・・・42
8	第63回全国産業教育振興大会（埼玉大会）		事務局・・・43
9	江戸川・葛飾 企業・専門高校・中学校・都産振懇談会		事務局・・・44

## 報 告

1	令和3年度 総会・講演会報告	・・・45
2	令和3年度 講演会・講演要旨	
	「近代日本社会の創造者 渋沢栄一をさぐる」	
	公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事・渋沢史料館館長 井上 潤氏	・・・46
3	令和3年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰	・・・60
4	令和3年度 東京都産業教育振興会後援事業	・・・61
5	令和3年度 産学懇談会（第1回）	・・・62
6	令和3年度 産学懇談会（第2回）	・・・64
7	令和3年度 産学懇談会（第3回）	・・・66
8	令和3年度 第32回東京都産業教育振興会作文コンクール	
	(1) 入選者一覧	・・・68
	(2) 最優秀作文	・・・70
	(3) 応募校一覧	・・・73
	(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移	・・・74
	(5) 作文のテーマ別応募者数一覧	・・・75
9	東京都産業教育振興会ロゴマークの商標登録について	・・・76

## 本会の概要

1	令和3年度 事業経過報告（令和4年2月20日現在）	・・・78
2	令和2年度 決算	・・・80
3	令和3年度 予算	・・・81
4	令和3年度 東京都産業教育振興会役員	・・・82
5	令和3年度 東京都産業教育振興会各委員会委員	・・・83
6	東京都産業教育振興会会則	・・・84
7	令和3年度 会員名簿	・・・86
8	入会案内・編集後記	・・・112
	広告目次	・・・113

## 巻頭のことば

### 若者の最大限の能力開発に向けて

東京都産業教育振興会理事

東京都教育庁指導部長

藤井大輔



暮らしや働き方など「新しい日常」が叫ばれ実践される中、教育においても、令和4年度から新しい学習指導要領のもと学校の教育活動がスタートする。今般の学習指導要領の大きなねらいは、子供たちが未来社会を切り拓くために必要な資質・能力を社会と共有しながらもてる能力を最大限に伸ばすことである。社会がますます激動化する中、子供たちが、たくましく生き抜くためには獲得した知識を応用・発展化し、予想できない課題に対して迷うことなく柔軟に対応することができる発想力や創造力を持ち合わせることで、そのためには、知識理解の質をより一層高めることが重要となる。

専門高校では、これまで専門的な概念の知識理解の定着を図るために実習や課題研究等を中心に実践を積み上げてきた。しかし今後は、これまで積み上げたものを基本に、時代の要請に確実に応える必要がある。子供たちと何のために学ぶかを共有しながら授業の創意工夫や教材等の改善を行い「何ができるようになるか」を明確化し授業実践することが望まれる。その際、子供一人ひとりが自己分析できる力を身につけ、学習した内容を深化させ、現実社会や社会問題などとのつながりを実感させることが求められる。実習、観察、課題研究を通して、一定の知識理解を最終目標とするのではなく、子供個々の学びがどれだけ深化できるか、その具体的な方法やアウトプットは何か、個々に最適化した学びについて学校ごとの取組が望まれる。

現在、多くの専門高校ではPBL（Problem based Learning：課題解決学習）の手法を取り入れた課題研究等を実践している。基礎的な知識のもと、答えが一つとは限らない課題に対して様々な角度から自由な発想でより良い解を見つけることを通して知識技能を深化させるものである。教員はファシリテータとしての役割を担い、何よりもこの手法により学習者の活動が能動的となり学んだ知識が問題解決レベルの深い知識としてとどまるなどの成果をあげている。

専門高校で学ぶこと、それは「人々の生活を豊かにすること」へ自ら参画することでもある。それをPBLなどの主体的な学びを通して自分のことと実感させ暮らしを豊かにすることに結実するだけでなく、持続可能な社会の実現に向け諸課題を解決するSDGsの考えにもつながる学習であることを実感させたい。

専門高校には実学を通して子供たちを直に感じることでできる取組が多々あり、それが教員と子供の絆をつくり子供の社会性や人間性を育ててきた。激動する社会を踏まえ、これまで多くの諸先輩方が築き上げたこの取組を発展させ、子供たちのこれまで見ることはできなかった表情や能力に気づき、その可能性に期待し伸ばし育てることが重要だと考える。今、日本は非常に多難な局面を迎えており、解決に向け社会の第一線で活躍する発想力や創造力、コミュニケーション能力に長けた人材の育成は急務である。多くの専門高校と関わりのある企業や大学など、社会全体で子供たちの成長を見守り、日本を支える有為な人材育成を産学官一体となって取り組むことが今正に求められている。

## 特集 「新しい日常」における産業教育の推進 —各校・各学科の取組—



### 「新しい日常」における専門高校の取組

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 小野寺 伸樹

#### 1 はじめに

令和3年8月、東京都における新型コロナウイルス感染症の1日当たりの新規陽性者数は、5,000人を超え、緊急事態宣言が延長されるなど徹底した感染症対策が求められる状況にありました。

東京都教育庁新型コロナウイルス感染症対策本部は、令和2年5月28日に「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン【都立学校】～学校の『新しい日常』の定着に向けて～」を策定以後、令和3年9月28日の改訂版 ver.4まで、都立学校の感染症対策と学校運営の両立に向け、各都立学校における感染症対策の具体的内容、教育活動に係る運営方法、感染者が出た場合の対応等を示してきました。各都立学校では、本ガイドラインに基づき、感染症対策を徹底して行うとともに、学校とオンライン学習等による家庭学習を組み合わせた教育活動に取り組んでいるところです。

本稿においては、多様な実験や実習を実施している専門高校の感染症対策の工夫を紹介します。

#### 2 都立専門高校の概要

都立専門高校（以下、各学校という）は、本稿で紹介する農業や工業、商業等の産業教育を担う学科がある学校の他、国際や総合芸術、体育等の分野に関する様々な学科がある学校があり、生徒

一人一人の能力や特性、興味・関心、進路希望等に応じて学ぶことができます。

#### 3 昨年度の教育活動の実施状況

令和2年度、各学校は、前年度から続く臨時休業期間を経て、分散登校や時差通学を継続しながら授業を行いました。

##### 【農業系高校の取組】

農業科では、野菜や草花等の農場の様子や家畜の飼料に関する説明、造園技能士検定の実技試験等の動画を配信し、時期を逃がさない学びを保障した実習を実施しました。

##### 【工業系高校の取組】

工業科では、旋盤加工に関する動画や、機械の名称・動作に関する動画を配信し、具体的な技術の理解を促すとともに、対面での実習に向けた事前学習を行いました。

##### 【商業系高校の取組】

ビジネス科では、企業等との連携を継続し、模擬株式会社のオンライン会議等により実践的に学習しました。

各学校は、主体的・対話的で深い学びを具現化する授業改善の視点から、徐々に整備が進むオンライン学習の環境を活用し、対面で行う実習と同様の成果を得るための学習方法の工夫を重ねてきました。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

令和3年度、各学校は、基本的な感染症対策の徹底とオンラインを最大限に活用した密を避ける工夫により、学校運営を継続してきました。緊急事態宣言下における分散登校の期間はもとより、年間を通じて時差通学を継続しています。また、登校時の検温による健康チェックや教室等の密集回避、換気やアルコール消毒を実施するとともに、オンライン学習を併用するなどして、生徒の学習の機会を確保してきました。

#### 5 特色ある教育活動の取組

各学校では、実験や実習における基本的な感染症対策に加え、これまでのノウハウに更なる工夫を施して様々な実習を実施しています。

##### 【農業系高校の取組】

農業科では、実践的・体験的な学習活動の実現に向け、地域や産業界との連携が重要になります。地域や産業界の関係機関と連携した実習を実施するため、東京都教育庁新型コロナウイルス感染症対策本部が策定したガイドラインの徹底にとどまらず、関係機関と感染症対策を検討し、参加生徒の事前の健康観察や生徒間の距離の確保等について認識の共有を図ることで、校外の花壇の活用や民間企業と連携した生産物の販売等の実習を安全・安心に実施しています。実習に参加した生徒には、日頃の教育活動の成果を発表する機会を得ることができ、達成感を得るとともに、更なる学習意欲の向上がみられました。

##### 【工業系高校の取組】

工業科では、ものづくりに関する確かな知識や技術等に裏付けられた思考力、判断力、表現力等を養うことが求められます。製図等の授業や電気工事士の実技試験がある資格取得に向けた授業では、事前に課した課題等について、教員がオンライン上で作業工程を説明し、双方向での授業を進め、学習状況の確認と適切な助言により、確かな

知識や技術の習得を図っています。また、グループごとの動画編集や製作物の企画等に関する話合いに当たっても、オンラインを積極的に活用しています。

##### 【商業系高校の取組】

ビジネス科では、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことが必要です。そのため、他者との協議を通して課題の解決に向けた方策の考案等、オンラインを活用して、他道府県の高校生と商品開発の取組状況や今後の連携の方向性を話し合っています。遠方の学校や専門家との交流や継続的な関わりが可能となり、地域や特色の異なる学校の生徒の考えに耳を傾けることで、新たな「対話」や「深い学び」を生み出しています。

#### 6 今後の課題

各学校は、これまでに実施してきたICT機器を活用した取組について、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する方策の一つとして、積極的に工夫していくことが求められます。

また、東京都では、Society 5.0時代にふさわしい先端技術を活用した教育が実践できるよう、実証研究校を指定し、授業等での活用を通して、その効果を検証し、成果や課題を整理しています。例えば、農業分野では、温室や本校舎から離れた実習地にIoT機器を設置し、農作物の生育環境の把握と遠隔管理を実践しています。生徒は、営農支援ツールを活用し、作物の生育状況、温度や湿度等の栽培環境等の情報を共有し、グループ学習を通してよりよい栽培方法の話合いなどに取り組んでいます。このような取組を更に加速させ、対面やオンラインにかかわらず、産業界における高度な技術に触れる機会を積極的に取り入れていきます。

今後も、「新しい日常」にふさわしい実験や実習となるよう、更なる工夫に取り組んでいきます。



## 『新しい日常』における産業教育の推進 —東京都立瑞穂農芸高等学校の取組—

東京都立瑞穂農芸高等学校長 吉野 剛文

### 1 はじめに

本校は、COVID-19 感染症の影響により一定期間オンラインを活用した授業と、今しかできない成長の記録を自宅学習として行った。この取組を、どのように年間計画へ組み入れるか試行錯誤の2年間であった。自宅学習では、動植物の写真などをホームページへ掲載する中で、実際の実習に近い内容となるよう作業手順やポイント、注意事項を深く理解させ様々な要因に紐づけて考えさせた。休校明けには、自宅学習でのイメージを基に実習を行い習熟させた。これまでとは異なる「新しい学習形態」の模索は継続中である。

### 2 学校概要

本校は、狭山丘陵の西端に位置する自然環境豊かな学校である。歴史を紐解けば、昭和24年に東京都立農林高等学校定時制課程瑞穂分校として開校し、今年度で創立72年目を迎えた。西多摩地域唯一の農業科と家庭科の専門的な知識・技術を学べる専門高校であり、『生命(いのち)に学ぶ学校』をキャッチフレーズにしている。



全日制課程は、農業に関する学科として園芸科学科、畜産科学科、食品科を、家庭に関する学科として生活デザイン科を設置しており、すべての学科が生命に関わりあひながら学習に取り組んでいる。また、定時制課程は、農業科と普通科を選択できる併合科を設置している。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

未だかつて経験のない異常事態の中で農場管理や授業を行った。本校は、大型動物の牛や豚そして、50種500匹以上の多様な動物がいる学校である。日々の農場管理を生徒がいない状態で行うために、次の管理体制を整えた。特に畜産科学科は、必要最低人数を5名と仮定し、養豚班、酪農班、実用動物班の3班固定体制とした。動物管理では、一部の動物を増額申請により委託管理とし、それ以外は教職員が一丸となり管理に当たった。園芸科学科、食品科の教職員もローテーション担当に加わり、その日の担当者以外は自宅勤務とした。また、園芸科学科の春作教材などを予定していた数の8割減、食品科も同様に実習内容を変更した。

学校行事などが延期又は中止となる中、4月6日には自宅学習課題一覧表をホームページへ掲載すると共に、課題及び教科書などを郵送した。また、スクールカウンセラー相談体制を整え、生徒の心身の状況や学習状況などを把握する目的で、担任より各家庭へ連絡を行った。

農業科の取組は、動植物の様子や学習につながる情報をホームページへ掲載した。

畜産科学科の実用動物類型は、インターネットに接続した定点カメラの設置により、24時間ライブ配信が可能な体制を整備した。類型選択者は、自宅にて犬の様子(出産など)を観察することができたことから教育効果は高いと考える。

園芸科学科は、植物の栽培方法や農機具の説明など、分かりやすい資料の提供に心がけた。掲載内容は、①メロン受粉、②ラッカセイの播種と発芽、③小菊の挿し芽、④ランの交配、⑤メロン玉つりなどである。

食品科は、安全・衛生に配慮した実習授業のために、①ボイラー定期点検、②ライ麦パンの製造、③米みその製造、④イチゴジャムの大量生産、⑤圧力計の整備点検などを掲載した。その他、普通科の各課題は、随時学年別一覧表としてホームページに掲載し、質問などをメールや電話にて受け付けた。さらにその解答や補足資料を情報発信することで、全生徒へ安心感を届けられるように努めた。

ここでの課題は、生徒の自宅におけるネット環境と携帯電話通信データ量の制限もあることから、臨時休業が続く時には限界があった。

5月29日からの学校再開後は、日々の健康観察記録を紙媒体と併用してMicrosoft Teamsを活用した入力方法を導入した。健康観察は、土・日、祝日も必ず記録することとし、体温が37.0℃を超えるときは、自宅で休養させる指導を行った。

授業では、ホームページに掲載した課題のイメージを、改めて対面授業により結びつけるよう工夫した。また、資格取得や外部のコンクールへも積極的に取り組む指導により、『毎日農業記録賞』で優良賞を受賞することができた。このような制限のある学校生活の中でも、日々の研究活動を継続することで学びにつながった。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

令和3年度も行事の延期や中止による教育活動の変更、日々の健康観察やCOVID-19感染拡大防止策を講じた授業方法の検討、さらに学びを止めないために、ICT機器を活用した教材開発の取組を行った。特にMicrosoft Teamsなどに対応するべく、オンライン教材を授業や活動内容に応じて作成した。時差登校と短縮授業を継続し、感染対策を講じながら生活時程を極力通常形態に近づけた。実技を伴う活動などでは、隣との距離を十分確保してマスクを外す場面はあるが、座学では基本的にマスクの着用を必須とした。

4月12日から5月11日までの期間で、学校における感染症対策の徹底やデジタル機器の積極的な活用などを駆使し、授業の継続を図った。また、土日祝日における農場管理実習は、原則どちらか

1日(3時間程度)と変更して動物管理に当たった。

学校行事では、6月の体育祭を9月に延期し、実行委員会を機能させて学年ごとの体育的行事を実施することができた。密にならず、応援せず、種目を制限しての実施であったが、生徒たちは積極的に参加していた。また、予定していた防災訓練、保健講話、セーフティ教室などは、一斉開催ができないことからTeamsを活用して教室で実施した。

9月の平日3日間は、完全オンラインを活用した同時双方向型の授業や教育活動(SHRなど)を、原則1日1回以上取り組んだ。農業科目では、ポケットWi-Fiを別途契約して動植物を授業中に見せ、解説する取り組みを行った。また座学ではパワーポイントの活用、板書を投影する授業を複数回行ったことから、9月時点で教員のオンライン技術力が向上しており、比較的スムーズに授業展開ができたと考える。

#### 5 特色ある教育活動の取組

生徒の健康状態を効率よく把握するためにMicrosoft Teamsを導入した。メリットは、入力確認を迅速にできるとともに、COVID-19感染症対策として生徒の意識付けにも役立っている。

同時双方向型の授業では、少数ではあるが教科担当者が毎時間の板書をTeams上にアップした。併せて、プリントや小テストなどのデータも全て閲覧できるように努め、緊急時に自宅学習ができる環境を整えた。その他、取組工夫としてTeamsでの小テスト配信、スライドの画面共有、さらには、オンライン授業の様子を録画して、後から見返せるようにした。自宅オンライン授業前日には、目的及び取り組み姿勢について校長から説明を行い、生徒の意識醸成にも取り組んだ。

#### 6 今後の課題

本校の課題は、オンライン授業に必要な教材開発とコロナ禍における農場管理の在り方についてである。特に、緊急事態宣言期間中の動物管理体制は、しっかりと検討を行い具体的な対策を講じる必要がある。





## 感染症防止対策を踏まえた工業教育の推進 ～地域企業と連携した就業実践の取組～

東京都立葛西工業高等学校長 穂積 振司

### 1 はじめに

令和2年、世界で新型コロナウイルス感染症が拡大し、日本においても緊急事態宣言が発令されました。あれから1年が過ぎ、現在は感染状況が減少傾向ではありますが、依然として厳しい社会情勢となっています。教育現場では休校、学校行事の中止や延期など、様々な影響がありました。しかし、このような状況下の中でも教育活動の重要性を踏まえ、感染症拡大防止対策を取りながら、教育活動を実施していくことが求められています。そこで、本稿では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえ、工業教育を推進してきた取組実践について報告します。

### 2 葛西工業高校の概要

東京都立葛西工業高等学校（以下、本校という）は、今年で創立59年を迎えた学校です。本校(図1)は、昭和37年に開設し、優れた技術者を輩出してきた歴史と伝統ある工業高校で、校訓『真理を愛し、勤労をたっどび、責任を重んずる。』のもと、人間性豊かな人材の育成をしています。また、平成30年度からは、デュアルシステム科を設置し、学校と企業とともに生徒を育成させ、地域企業を活性化させることができる学校として取組んでいます。



図1 東京都立葛西工業高等学校

### 3 昨年度の教育活動

令和2年4月、緊急事態宣言が発令され学校教育は7月まで休校となりました。その後、学校が再開され、本校においても感染予防に努め、時差通学及び短縮授業を令和2年7月6日より令和3年1月6日まで行い、授業時数の確保、習熟度別授業、少人数授業等により、生徒の理解度に応じた授業を展開してきました。また、各科の課題研究発表会やデュアルシステム発表会は2月及び3月に実施しました。なお、2学年対象のインターシップは中止にしましたが、デュアルシステム科の就業実践においては、1学期は中止、2学期は10日間と期間を短縮させて実施しました。

体育祭やマラソン大会などの学校行事は、中止としましたが、3学年の球技大会は感染防止対策を徹底して取組むことができました。なお、保健だよりを年10回発行するなど、日々の健康増進について呼びかけ、周知徹底してきました。

### 4 今年度の教育活動

令和3年4月、感染症対策を徹底して入学式を生徒と教職員のみで実施しました。感染拡大を防ぐために、教育活動は時差登校、分散登校、リモート学習を行いました。授業においては、引き続き、時差通学及び短縮授業を実施し、リモート学習ではICT機器を活用した取組を実践しました。例えば、teams用いて、SHRの出席確認、授業の課題提示と提出などを行いました。

学校行事においては、大人数での移動による感染を踏まえ、校外学習を中止しましたが、手洗い、消毒、密にならないようにするなど、感染予防を

徹底し、体育祭を球技大会へ変更して行いました。また、5月にはデュアルシステム科2年生と3年生において1か月間の就業実践ⅠⅡを実施しました。なお、現在は緊急事態宣言が解除され、段階的に通常時程へ戻しています。

## 5 特色ある教育活動

本校の特色として、平成30年度からデュアルシステム科を設置しました。「デュアル」とは「二重」という意味の言葉で、本校では「学校」と「企業」のことを指します。学校では、授業を通して職業人として必要とされる基本的な知識や技能を学びます。また、企業では授業の一部として実際に仕事をしながら、社会性と専門的な技術を学びます。

1年生の科目である「働くこと学ぶこと」で就業実践へ行くために必要な知識を学校で指導します。例えば、授業内容としてマナー研修を行っています。これは、身だしなみやあいさつ、敬語・礼儀の指導、守秘義務についての説明、名刺の受け渡しなどを行います。また、マナー研修以外にも企業で就業実践を行うために必須である企業情報を調べ、実際に企業を見学することも行っています。さらに、就職するときに必要な書類と同様に、書類作成（協定書、履歴書、守秘義務に関する誓約書等）を作成、準備しています。

1年生では、11月に4日間、2月に4日間、就業実践基礎及びインターンシップを実施しています。2年生になると1か月間の就業実践Ⅰを5月から6月、10月から11月にかけて2回実施しています。3年生も2年生と同じ時期に就業実践Ⅱを実施しています。

就業実践先は、1年生の時から3年生まで基本的に違う場所で行うことになっています。ですが、生徒の希望により同じ場所に行くことも可能です。進路決定においてミスマッチがないよう、自分の適性を見極めることが重要です。その結果、生徒が就業してきた場所に就職することもあります。また就業実践を行うことにより、企業内が明るくなり、地域企業の活性化へもつながります。

今年度は、昨年度に引き続き感染対策を踏まえ、2年生、3年生による就業実践を5月から6月にかけて実施しました。図2は、その就業実践の様子です。なお、2年生、3年生において、同時に20日間の就業実践を実施したのは初めてのことです。また、秋には後期就業実践、インターンシップ、1学年から3学年までデュアルシステム科全ての生徒が企業へ出向き就業実践を実施します。



図2 就業実践の様子

## 6 今後の課題

引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐために、感染防止の基本を徹底していくことです。例えば、生徒においては、家庭と連携した毎朝の検温、手洗い指導、消毒などがあります。教職員においては、健康管理の徹底や勤務に関する配慮などが挙げられます。また、リモート学習を今後はさらにスムーズに行うことができるよう学校環境の整備が課題として挙げられます。

## 7 おわりに

新型コロナウイルス感染症拡大の中、学校教育の運営が難しい場面が多くありました。しかしながら、感染症防止対策を徹底することにより教育活動を継続することができました。また、各企業の皆様には、新型コロナウイルス感染症拡大の中、就業実践を実施していただき、心より感謝申し上げます。優れた技術者を育成するためにも、引き続き、よろしく願いいたします。



## 新型コロナウイルス感染下における 本校の教育活動について

東京都立江東商業高等学校副校長 藤田 直美

### 1 はじめに

令和元年12月に発表されたGIGAスクール構想への取り組みは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、急速な進展が求められた。デジタル化へ向けてICT環境やネットワーク活用の対応が前倒しされる形となった。本校が感染症の拡大予防対策と並行し、学びの保障に向けて、昨年度(令和2年4月)から今年度(令和3年10月)までにオンライン学習に取り組んだ教育活動を記す。

### 2 学校の概要

本校は、明治38年(1905年)、亀戸尋常高等小学校に亀戸実業補習学校として併置設立され、本年度で創立116年となる。現在は、全日制ビジネス科、学級数は各学年5クラスの規模である。商業教育を核とした教育活動を通して、次の教育目標を掲げ、社会に有為な人材の育成を目指している。

- (1) 社会で活躍・貢献できる人材の育成
- (2) ビジネス三言語、AI、IoTと共存しながら、それらを道具として活用できる人材の育成
- (3) 「生きる力」を備えた人材の育成
- (4) 望ましい職業観や勤労観をもつ人材の育成

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

昨年度の教育活動の体制は、4月の緊急事態宣言発令による約2か月に及ぶ自宅学習、6月からの出席番号別の時差・分散登校、7月からの時差登校、1月の再度の緊急事態宣言発令による学年単位での午前と午後の時差・分散登校、2月からの午前中授業と感染症拡大予防を最優先させた。

対面授業が全くできなかった年度当初は、本校ホームページと緊急連絡用ツールを活用し、プリント教材とともにスタディ・サプリやNHK高校講座内のコンテンツを課題として指示をした。家庭でのPC保有率が約4割とのアンケートの結果により、スマートフォンを主なデジタル機器と想定し、限定公開でのYouTubeオンデマンド授業やZoomでの双方向授業への取り組みも開始、自宅学習の充実を図った。スタディ・サプリは、HR活動、個別連絡や健康観察ツールとしても効果的であった。

11月に統合型学習支援サービス「Microsoft Office 365」が本格導入された。学級タブレットを含めて全教職員に1台ずつICT端末を配付し、専用端末で授業準備に取り組める環境を整えた。支援員による研修会を週1回実施。機器の操作やソフトの活用方法という基本的な内容から開始し、対面授業においてもICT機器の活用を推進した。「ビジネス・アイデア」での高大連携授業での講義やワーク作業や調査、「財務会計I」における解法解説動画のオンデマンド配信など、オンライン授業の先んじた取り組みを教員間で共有し、生徒の満足度や積極的な取り組み姿勢が報告された。

学校説明会や保護者会もオンライン開催にシフト。対面実施でなくても同等の成果が得られること、また、オンラインならではの成果や効果があることも共有された。

### 4 今年度の教育活動の実施状況

今年度も引き続き感染防止対策を徹底した教育活動が求められた。4月12日からまん延防止等重点措置、同26日からの3回目の緊急事態宣言、

6月21日からまん延防止等重点措置、7月11日から4回目の緊急事態宣言の発令、10月1からはリバウンド防止措置、10月25日から11月30日までの基本的対策徹底期間となった。通知に応じて時差登校、時差・分散登校を実施している。

年度当初に、Teamsのチームやチャンネルの整備を行い、使用ルールや方法の周知を図った。オンライン授業の取り組みには消極的な部分もあったが、とにかく先ずできることから始めようと、全教員が双方向のオンライン授業を行うための悉皆研修を1学期と夏季休業中に実施した。研修を通して、教員個人のスキル状況を把握し、個別の研修も実施。教員からの質問や問題点から共通の課題を割り出し、必要に応じてワンポイントマニュアルを作成し、教員間で共有した。(本年度から常駐となったデジタルサポーターがオンライン学習推進の大きな原動力となっている。)

人流抑制のため、都からの指示で二度の自宅学習期間が設けられた。初回の4月29日～5月9日は戸惑いや混乱が少なからず見られたが、9月18日～9月26日は全教員によって全時間割、全クラスでスムーズにオンライン授業が実施された。感染防止のために急遽、オンライン授業を実施しなければならない場合も、欠席している生徒のために対面授業とオンライン授業を併用したハイブリッド授業が必要な場合も、すぐに対応できる校内体制が取れるようになった。

オンライン授業を通して、対面授業を新しい観点から俯瞰でき、自身の授業を一考する契機となったという教員も多い。対面授業のICT機器の活用にもつながり、画面共有や実技や黒板の投影、書画カメラの活用、小テスト出題、採点とフィードバック、アンケート作成・集計など、効果的、効率的な学習方式が生み出されている。自習課題や小テストの指示を担当教員が自宅から配信するなど、生徒へのフォロー体制も取りやすくなった。

## 5 特色ある教育活動の取組

BYODの実施にあたって、本校で各教員が工

夫した取り組みを一部紹介する。

### (1) Forms複製による全校生徒アンケート

ICT端末でTeams、Formsを利用するメリットの実感と今後活用を促進が目的

### (2) オンライン授業と対面授業で遜色なく討議できるブレイクアウトルームの活用

Teams会議で授業用PPTを共有。ブレイクアウトルームの自動振分でルーム分けし、話し合いを行わせる。教員は随時議論を促す。

### (3) NikeRunClubアプリを活用して軽くジョグしよう！

NikeRunClubアプリを活用し、ランニングした実施結果が見える化し、共有。運動での健康保持増進のモチベーション維持につなげる。

### (4) StreamとTeams課題機能でKOSHO English Podcast！

英語科教員とJETの英会話をPPTに録音。Streamで公開し、Team課題で確認テストを生徒へ配信。結果は即時フィードバックされる。

### (5) 書画カメラが左右反転しない対面授業とオンライン授業のハイブリッド授業

ハイブリッド授業では画面が小さい、書画反転の問題があった。CAI-ACEとモニターとTeams会議を組み合わせることで問題解決された。

## 6 今後の課題

令和4年度入学生から、生徒一人1台端末を活用した新たな学びが始まる。DX時代における「主体的・対話的で深い学び」の実現や情報活用能力の育成に向けての新たな教育活動である。

導入にあたっては、保護者側からの家庭の通信環境の整備や購入代金に関する負担や支援策等への不安の払拭や校内での個人端末の管理方法など、準備段階からの丁寧な対応が必要である。

一人一人の教師自身がICT活用指導力の向上の必要性を理解し、自ら研鑽を深め、授業改善や進路指導の変革、校務効率化による働き方の改善等に向けての取り組みが重要である。そのための更なる校内研修の充実が喫緊の課題である。



## コロナ禍における学校運営と地域性・専門性を生かした教育活動の取組について

東京都立八丈高等学校教諭 古我知 和子

### 1 はじめに

令和2年2月に新型コロナウイルス感染症が国内で発見されて以来、緊急事態宣言やワクチン接種等、様々な感染予防・防止対策が施された。八丈島は島外とは状況が異なり、病床数が限られており徹底した感染予防・防止対策が求められる。八丈高校でも東京都教育委員会からのガイドライン、他校や島内の状況を踏まえ、様々な対策を実施した。本校の取組について報告する。

### 2 学校の概要

東京都立八丈高等学校は昭和23年に創立、令和元年に70周年を迎えた。伊豆諸島最南端の高校であり、地域に唯一の高等学校である。全日制課程に普通科・園芸科・家政科、定時制課程に普通科を設置しており、全生徒数は153名である。全日制課程の教育目標「誠実・慈愛・自立」の実現に向け、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいる。また、「地域協働・探究学習」「Hawaii研修」「企業連携・都立大・産技大等との高大連携」を3本柱とし、教育内容の充実と進路実績の向上を目指して八丈高校独自の授業展開や地域との交流、外部との連携を多く取り入れている。

### 3 昨年度 of 教育活動の実施状況

昨年度は3月から約3ヶ月間臨時休校となった。入学式をはじめ、体育祭、文化祭などの行事も中止した。臨時休校期間中は自宅での学習が継続できるように様々な工夫を凝らした。担任を中心として各クラスでのオンラインHRを実施した。また、ClassiやTeamsなどの媒体を活用して課題を配信した。TwitterやHPなどでは今後の予定や取組について定期的に掲載し、保護者、

生徒はもちろん、島民との連携も図った。

学校再開時には短縮授業等を実施し、消毒の徹底、健康観察シートを用いたチェックを欠かさず行いながら段階的に再開し、平常授業へと戻っていった。12月にはHawaiiとのオンライン生徒交流や球技会を実施した。生徒は主体的に球技会の種目数を多くし、接触が少ない競技やルールを考えながら工夫して取り組んだ。2月にはロード記録会、学習成果発表会を行い、日頃の取組を報告できる場を設けることができた。様々な行事が実施できない中での久しぶりの行事ということもあり、生徒の喜びや達成感は大きいものであった。

### 4 今年度の教育活動の実施状況

今年度は昨年度 of 新型コロナウイルス感染症対策を継続・徹底し、更に現状に合わせて平常授業を実施してきた。また、入学式をはじめ、体育祭、文化祭などの行事も行うことができた。行事の開催にあたっては実施内容の見直し、ルールの変更、一般公開なし、ソーシャルディスタンスを保つなど、例年とは大きく異なり、様々な変更を繰り返しながらの実施となった。無事に実施するためにどうすればよいのかなど、創意工夫し主体的に取り組む生徒の姿が見られた。全学年対象の学習では、学年ごとに教室を分けオンライン配信を行うことで密を避けるようにした。オンライン活用により、島内外の外部の方と連携を図った取組なども実施することができた。

### 5 特色ある教育活動の取り組み

本校は島特有の地域性を生かして様々な授業を展開している。例えば『海洋文化』ではスキューバダイビングの技術習得や、八丈島の海岸生物の

採集・観察など島ならではの授業内容となっている。また、八丈島の自然、歴史、文化、産業等について探究学習を行い、地域の課題解決策を提案し実践することにより、島内外から八丈島を支える人材の育成を目指した授業『八文学』など、地域協働にも力を入れている。

園芸科では、草花、野菜、食品製造、販売実習など専門学科ならではの取組をしている。また、島唐辛子やネリ（オクラ）など島の特産物の栽培や空港植栽なども行っている。

家政科では講義だけでなく食物や被服を中心に実習を行っている。専門学科ということもあり、実習が欠かせない。昨年度に続き調理実習では1台につき2人まで、マスクの交換、手洗い、消毒、黙食などの新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら授業を展開してきた。

令和2年4月から八丈町の企業家からの求めに応じて、八丈島の旅行者向けに島弁当のレシピを事業者へ提供するために、島の食材を生かしたレシピ開発『手ぶらでごはんプロジェクト』に取り組んでいる。昨年度はレシピ考案や試作を重ねた上に「島彩り弁当」を考案し、令和2年12月に教職員他関係者向けに60食を調理し販売実習を行った。9マスのお弁当箱にうみかぜ椎茸の肉詰め、島唐辛子の卵焼きなど、多くの島食材を使用した献立となった。

今年度は昨年度の取組を生かし、旅行客が購入しやすいお手頃価格でインスタ映えする弁当を考案した。本校園芸科で栽培・製造したネリ、なす、トマトケチャップを使用した島野菜たっぷりのハンバーグ弁当や、島レモン、島のり、園芸科製造の梅干しと味噌を使用した豚丼などである。多くの世代の人に買って頂けるようなメニューは何かを考え、八丈島産野菜の素材の味を生かした味つけや、食材の食感が楽しめるように大きめに切るなど生徒のこだわりが詰まっている。教職員他関係者向けの校内販売後、夏休みに町のスーパーにて弁当販売を実現させることができ、連日、完売した。本校園芸科で栽培・製造している食材の提供を受け、打合せ、調理、販売を行うにあたって、社長をはじめ、従業員の皆様のご協力など学校全

体や地域のサポートがあってこそ実現できたプロジェクトである。生徒自身も自分たちが考案、製造したお弁当を多くの人に食べてもらえる喜びを感じつつ、商品として売り出す難しさを知るなどたくさんの学びを得ることができた。その経験を様々な授業で生かしていくとともに、今後も島内飲食店やスーパー、製造業へのレシピ提供等も視野に入れながら取り組んでいきたいと考えている。



【昨年度考案した「島彩り弁当」】



【スーパーでの調理・販売の様子】

【本校HP】



【家政科のページ】



## 6 むすびに

コロナ禍での新たな発見や学びを生かしながら、八丈高校として「今できること」を考え、実践し、今後も地域と協働しながら本校、そして島を盛り上げていきたい。



## 『新しい日常』における産業教育の推進 ～ものつくりを生かした感染症対策への取組～

東京都立世田谷総合高等学校長 佐藤 信孝

### 1 はじめに

令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症対策として、本校における「ものつくりを生かして取り組んできた活動」を紹介する。

### 2 学校の概要

本校は平成20年（2008年）に開校し、創立14年目を迎えた総合学科高校である。「高い志と逞しさ、そして柔軟な感性」の涵養育成を目指し、これからの時代を充実した人生と共に生き抜く人間の育成を目指している。

6系列に分類される多様な選択科目と必修科目の組み合わせから、各個人がそれぞれ時間割を作り学びを深めている。

今年度は、令和3年度海外学校間交流推進校の指定を受けた。校内における国際交流推進組織としてSSICI（Setagaya Sogo International Cultural Immersion）を立ち上げ、様々な国際交流に向けて活動を開始しているところである。

また次年度に向けて、第2外国語の学習環境の拡充と美術工芸分野が中心となる「ものつくり系列」を通じた、更なる進路実現に向けて校内体制を整備しているところである。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

一昨年度3月に臨時休業となり、その後令和2年度当初より、通常時程である8時30分からの始業を40分繰り下げ9時10分始業とすることとし、現在に至っている。通常を45分の短縮時程とし、状況を見てさらに5分短縮する時程等を組み合わせながら教育活動を進行してきた。2時限目の終わりに10分間のSHRを挟むが、3限を5

分後に始め、昼休みを45分間とすることで第6限の終業は15時15分になるため、平常8時30分始まりの50分時程に比べて15分後終業が遅くなるだけで、放課後の活動への影響も最小限に抑えられている。

本校では8時25分に毎朝全職員による職員朝会を行っているが、この後、始業まで十分に時間が取れるため、各学年分掌がそれぞれ綿密な打ち合わせと情報共有をすることができるようになり、この流れが既に定着している。また職員朝会が案件により多少長引いても、授業に影響が出ることがないため、十分な全職員での時間共有が可能となり職員会議を補完するものとして機能している。



朝の健康観察健康観察 検温シートの確認

職員朝会後は、日直と同様の割り振りで、各分掌学年から毎朝5名の職員が、登校する生徒の健康観察と、健康カードのチェックのため、校舎棟に入る前に全生徒が通る通路に立ち確認を行っている。本校の建物の構造上、必ずこの場所を通して校舎内に生徒を誘導することが可能であるため生徒の健康観察チェックのすり抜け等は皆無であり、極めて効果的である。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

昨年度に引き続き令和3年度においても4月当初より、同様の時程と健康観察を続けている。Office365 チームズの本格利用に向けて、全職員が基本的な授業動画の作成とオンライン配信について研修し準備を進めてきた。またオンデマンド型の動画作成を各教員が行い、様々な不測の事態に備えて教材の蓄積を行ってきた。本校のYouTube チャンネルに限定公開で学習動画をアップすることや、チームズ内で各学年や学級、各教科科目でチャンネルへの配信を行っている。この9月末に、BYOD ネットワークのアクセスポイント設置工事が終わり、いよいよ本格利用に向けて動き出したところである。本校には体育館が二つあり、感染症対策の観点から、文化祭の開会式を第1体育館と第2体育館の2カ所に分割して行った。その際、第1体育館で実施している様々な実際のセレモニーをオンラインで第2体育館に生中継するなど、本校の特徴を生かしたICT 機器活用の取り組みも始まっている。

#### 5 特色ある教育活動の取組

すべての教科や課外活動において感染症対策に取り組んでいるが、本校の大きな特色である、「ものづくり系列」においては、様々な「防止対策グッズ」を作成し、校内各所での利用を図っている。



足踏み式消毒装置：消毒液の容器に手を触れることなく液が噴霧可

夏季休業中には、ボランティアを募り、広い校内の各所に設置するためのベンチづくりボランティアを募ったところ80名の生徒が申し出て、大変技能の高い工業実習担当職員の指導の下、素晴らしいベンチを作成して設置している。



#### 6 今後の課題

コロナ禍の中、学んだこと、実践して蓄積されたことはとても大きい。平時に戻っても、それらを大切に引き継ぎ活用していきたい。





## 感染症対策と教育活動の両立

日本工業大学駒場高等学校副校長 川上 美範

### 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和2年3月からおよそ3ヶ月にわたって臨時休校を余儀なくされました。初めての経験で難しい局面もありましたが、何とか令和2年度を終えることができました。令和3年度になり、首都圏の感染者は波状的に増減を繰り返している状況です。制限を受けながらも前年度の経験を活かし、感染症対策を徹底した上で、生徒の学びを進めているところです。

### 2 学校の概要

明治40年に東京小石川に東京工科学校を設立したのが本校の始まりです。その後神田に校舎を移転し、昭和23年に新制高等学校として現在の所在地である目黒区駒場に東京工業高等学校を設置しました。その後平成2年に校名を日本工業大学附属東京工業高等学校に改め、平成17年に、四年制大学進学を進路目標に据えた理数工学科、国際工学科を設置し、翌18年にはこの2学科において初めて女子を受け入れ、男女共学校となりました。創立以来工業教育、技術者育成に努めてきましたが、平成20年に普通科を併設し、校名を日本工業大学駒場高等学校と改め、普通科（特進コース・理数特進コース・総合進学コース）、理数工学科、機械科、建築科、電子情報システム科の5学科編成としました。学校創設以来最も大きな変革です。後に機械科、建築科、電子情報システム科を創造工学科にまとめ、普通科、理数工学科および創造工学科の3学科編成となりました。そして令和3年に理数工学科、創造工学科を募集停止としました。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

令和2年1月頃から新型コロナウイルス感染症がにわかには広まり始め、政府より緊急事態宣言が発出されるに至って、3月から臨時休校を余儀なくされました。年度末の時期でもあり、卒業進級に向けてその対応に苦慮しました。

新年度の平成2年度になっても、学校を再開することはかなわず、2ヶ月にわたって臨時休校が継続される前代未聞の状況となりました。この間オンラインによるホームルームを構築し、担任と生徒がコミュニケーションを持てるようになったことは、万全ではないものの一つの前進であり効果があったと思います。各教科において課題プリントを作成し、郵送にて課題のやりとりをすることで学習面のフォローを行いましたが、そこには教員と生徒との実質的なやりとりは生じにくく、それぞれの一方通行という形になり、残念ながら効果的な学習とはならなかったと思います。

6月になり、ようやく学校再開となりました。分散授業、短縮授業の形で対面授業を実施することになりました。各教室および校舎出入りに消毒液を設置して手指消毒を徹底し、教室の扉、窓を開けておくことで教室の換気を確保しました。また工業科の実習では様々な生徒が同じ設備を使用するので、実習後に工作機械や製図板などの消毒を徹底しました。とくにパソコンのキーボードの消毒は手間のかかる作業になります。このような感染防止対策を施しながら、対面授業や実習を進めていきますが、何よりも大切なことは、教員さらに生徒の感染防止対策への意識付けになります。担任や教科担当が話

すだけではなく、朝のホームルームの時や4時  
限目終了時（昼休みになってすぐに）校内放送  
で感染対策の意識を高めました。

6月下旬から分散登校をやめ一斉登校に切り  
替えましたが、2ヶ月間の臨時休校のため、学  
校再開後も分散授業や短縮授業のため学習の遅  
れは否めません。少しでも遅れを取り戻すため  
に、夏休みや冬休みを大幅に短縮するなどして  
授業時間数を確保しました。工業科の実習では、  
教員が実習の準備（本来であれば生徒自身が準  
備するものも含めて）を整えて、有効に時間を  
使う工夫をしました。

夏休み以降、首都圏の感染状況や政府の緊急  
事態宣言発出を鑑みて、時程の変更などを行な  
いながら、普通教科も工業科の座学や実習もカ  
リキュラムの遅れが生じることなく令和2年度  
を終えることができました。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

令和3年度は入学式（2部制）を行ないスター  
トしました。昨年度の経験をいかしながら教育  
活動を進めています。今年度の1年生からタブ  
レット購入をお願いしています。ICT教育推  
進の一環ではありますが、感染状況の悪化によ  
るオンライン授業への準備でもあります。7月  
下旬あたりから感染者数が急増し、生徒にも感  
染者が出てきました。学校内で感染が広がった  
事例はなく、ほとんどが家庭内での感染にとど  
まりました。夏休みが終わり、9月になっても  
感染状況は悪化の一途を辿っていましたので、  
30分短縮授業とし、午前中で授業を終了する措  
置をとりました。昼食の時間を設けないことで  
感染を防ぐ意図です。

10月になると感染者が急激に減ってきました。  
それを受けて平常時の時程に戻しています。昨  
年からほとんどの学校行事は中止、あるいは縮  
小され、部活動は制限されました。感染防止の  
徹底をこれまで同様に行ないながら、学校生活  
の彩りを取り戻していきたいと思えます。感染  
者は減少していますが、コロナ感染状況を予断

することはできません。むしろ第6波、第7波  
があることを想定しておくべきでしょう。状況  
に応じて判断していきます。

#### 5 特色ある教育活動の取り組み

学校の概要のところで記しましたが、令和3  
年度入試から工業科（理数工学科・創造工学科）  
の募集を停止しました。高校1年生には工業科  
の生徒は在籍していません。

普通科の生徒たちに対して工業教育を行なっ  
ていくことはできませんが、これまでの伝統、  
すなわち技術者育成に向けて懇切丁寧に行なっ  
てきた指導姿勢や、ものづくりの過程で得られ  
る楽しさや自らの手で作り上げた時の喜びを体  
感させることなどを普通科教育の中に盛り込ん  
でいきます。既存の3コース（特進・理数特進・  
総合進学）に加えて文理未来コースを新設しま  
した。普通科4コースの特色の違いを特設科目  
（総合的な探究の時間に設定）で表しています。  
文理未来コースの特設科目では、幅広いものつ  
くりをテーマとしています。1年生では2単位  
の実習が行なわれ、技術科、美術科、家庭科、  
国語科が担っています。6ショップに分けられ、  
生徒たちはローテーションしながらその実習を  
受けています。その他の特設科目に「科学技術史」  
があります。工業科のように、エンジニア育成  
に直接かかわることはありませんが、理工系大  
学への進学に導くことを通じて、間接的にかか  
わっていくこととなります。

#### 6 今後の課題 ～最後の工業科生～

令和4年度は最後の工業科の生徒が高校3年  
生になります。彼らの進路実現もさることなが  
ら、今まで以上に熱を込めて工業科教育にあたり、  
立派に卒業させ、有終の美を飾ることが工業科  
を閉じるにあたって最後の使命となります。



## 新型コロナウイルス感染症下での 高等学校看護教育

愛国高等学校・愛国高等学校衛生看護専攻科 校長 織田 奈美

### 1 はじめに

高等学校での看護教育は中学校卒業を入学要件とする准看護師養成施設として昭和39(1964)年に開始されました。その後、平成11(1999)年12月に「保健師助産師看護師養成所指定規則」の一部改正が行われ、看護教育を継続する高等学校は「5年一貫教育(高校3年と専攻科2年の5年で看護師国家試験受験資格を取得)」「准看護師教育(高校3年間で准看護師受験資格を取得)」「看護専攻科教育(准看護師資格を有する者が2年で看護師国家試験受験資格を取得)」「看護進学教育(高校では資格を取得せず看護系大学等へ進学)」「技能連携校(近隣の准看護師養成施設と連携する定時制・通信制)」のいずれかの課程を選択して今日に至りました。令和3年度の全国看護高等学校長協会の会員校は北海道から鹿児島奄美までの97校、併設を含め5年一貫教育79校・准看護師教育16校・看護専攻科教育6校・看護進学教育2校・技能連携校4校となっています。

### 2 学校の概要

愛国高等学校は学校法人愛国学園を経営母体とした創立83年の女子校で江戸川区の北部に位置し、普通科・商業科・家政科(調理師養成施設)そして昭和41(1966)年に准看護師3年課程の衛生看護科を、同55(1980)年に看護師2年課程の衛生看護専攻科を開設し、校訓「親切正直」の下で看護の「知識・技術・態度」の研鑽に努めています。また、建学の精神に標された「経済的に独立する」「一家幸福の源泉となる」女性を育成すべく、社会で役立ち家族を支える公的資格取得にも力を注いでいますので、指定規則改正の際には高校3年間で准看護師をさらに2年間の専攻

科に進級して20歳で国家資格の看護師を目指す課程を選択し、現在では東京都で唯一の看護高校として医療の充実に寄与する優秀な人材を輩出しています。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

公的機関からの要請を受け、本校でも令和2年度は5月28日まで臨時休業・細やかな指導での家庭学習とし、6月1日の入学式翌日から授業を開始しました。午前・午後の分散登校を経て6月15日からは9時登校40分授業、夏季休業は8月13日～24日に短縮し、その後は状況に応じて登校時間や日課時限を柔軟に変更しながら時間割通りに全校での対面授業を継続しました。

安全な学校運営のため学校医はじめ公衆衛生学や感染症関係の医師講師と綿密に相談をして指示を仰ぎ、マスク着用・換気・手指消毒・飲食時の私語厳禁などの基本的な感染症対策の他にも各教室の空気清浄加湿器をフル稼働し、個人体調管理表で同居家族も含めた健康状態を確認、学級編成を少人数にして密集・密接を回避しました。

看護科ではさらに特別な対策として実技の授業ではマスクの上にフェイスシールドを着用し、アルコール消毒薬を常に携帯しました。また、実習病院からの要請を受け、生徒だけでなくご家族についても、会食は同居家族のみ、感染症対策が講じられていない混み合う場所への立ち入りや感染多発地域への不要不急の外出の自粛という旨を文書でお願いし、ご理解ご協力をいただきました。

残念ながら10月からの臨地実習は見学のみ为数日間後述の校内実習に代替となりましたが、緊迫した病院の様子と医療に携わる方々の献身的な姿を肌で感じ、生徒も引率職員も身の引き締まる思いでした。

#### 4 本年度の感染症対策

本年度は4月から通常授業となりましたが、第4波・第5波で緊急事態宣言発出の際は校内実習とし、状況の改善に合わせて専攻科は大学病院・総合病院・保育園・健康サポートセンター・訪問看護ステーション・精神科病院、高校生は総合病院と保育園での臨地実習を行いました。患者さんはじめ実習施設の方々、生徒・教職員・家族の安心安全のために1日4回検温し、保育園実習では無症状の肺炎の有無の確認のため酸素飽和度の測定も行い万全を期しました。

特筆すべきは、江戸川区と江戸川区医師会のご理解ご支援で看護科の生徒が医療従事者に準じる者として早期のワクチン接種を実施できたという事です。臨地実習を行う専攻科2年生・高校3年生と看護科教員は6月24日と7月15日に、准看護師資格を有する専攻科1年生・戴帽式を控える高校2年生は8月26日と9月16日に、学校医と医師講師および看護スタッフが出勤して看護師・保健師の資格を持つ看護科教諭の会場運営の下、保護者保証人の承諾を得た希望者全員に看護実習室でファイザー社製コロナワクチンの集団接種を行いました。これにより実習受け入れ可となった施設もあり、生徒は感染症で家族との面会が叶わない患者さんの心と体を癒そうと努めました。

#### 5 特色ある教育活動の取り組み

看護科に入学した生徒は専門用語が並ぶ教科書で知識を養い、安全安楽な看護技術を習得するため手取り足取りの指導を受け反復練習します。臨地実習におけるチーム医療では協調性が重要となり、より良い看護を提供するためには洞察力やコミュニケーション力、敬語も不可欠です。また、看護学生といえども高校生、辛い時には同じ志を持つ友人と励まし合い支え合って乗り越えることも含め、理解を深める対面授業・人と関わる集団生活の必要性を改めて感じる学科です。

この2年で病院や施設が実習生の受け入れ停止となった期間は、文部科学省・厚生労働省のガイドラインに従い校内実習で代替しました。乳児・幼児・成人の人体モデル、フィジカルアセスメントが可能なシミュレーション人形に加え、新規に

多職種連携ハイブリッドシミュレーターモデルや老人介護モデルを準備して実習再開に備えました。ペーパーペイシエント（紙上患者）を設定し病状に合わせた患者役の教員から情報を収集して検討するという模擬実習や、生徒同士が患者と看護者になっての実習も行いました。また大学病院の教育担当者と生徒とでオンラインのケースカンファレンスや実習反省会を行うこともありました。

看護の勉強にはモチベーションも重要です。毎年11月中旬に、校訓を実践し知識・技術が基準に達したと判定された高校2年生に戴帽式を挙行します。呼名されてステージに上がり純潔・博愛・高貴を象徴する純白のナースキャップを戴く「戴帽の儀」。蝋燭の灯を高く掲げるナイチンゲール像から自らのキャンドルに火を頂く「点火の儀」。全員で唱和する「ナイチンゲール誓詞」。看護の精神の継承です。今年度は第55回、感染症下でも途切れることはありません。戴帽した2年生はPCR検査を受け全員の陰性を確認して1月からの総合病院での基礎実習に赴き、大きな成果をあげました。



戴帽式「ナイチンゲール誓詞」唱和

#### 6 今後の課題

2020年1月末に国内でも感染が確認された新型コロナウイルス感染症は世界中を席卷し変異を重ね人々を苦しめています。しかしこの厳しい状況でもベッドサイドに立ち、臆することなく看護の途を歩む高校生がいます。生徒たちが「何もできないコロナ世代」ではなく「コロナの中で多くを学んだ頼りになる世代」として成長し、病める方の心に寄り添い闇を照らす光となりますよう、関係各位のご理解ご支援をお願い申し上げます。



## ICT、オンラインを活用した 都立小石川中等教育学校の取組

東京都立小石川中等教育学校長 鳥屋尾 史郎

### 1 はじめに

昨年度に引き続き、本校においては、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、ICTを活用した学習を推進する取組を行っている。特に、office365を活用したオンライン学習や、スクールGIGA構想による前期課程生徒（中学生）のタブレット端末の活用など、より学習効果の高い取組を行うなどの工夫をしている。本稿では、こうしたICT機器を活用したオンライン等の取組を紹介する。

### 2 本校の概要

都立小石川中等教育学校は、平成18年4月に中高一貫教育校に改編した学校である。大正7年の創立以来、「立志」「開拓」「創作」を教育理念とし、「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を教育の柱としている。スーパーサイエンスハイスクールにも指定されていて、高度な理数教育や「小石川フィロソフィー」などの探究学習が特徴的である。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

昨年度は年度当初2ヵ月間、学校は臨時休業となり、臨時休業期間においては、課題配信や授業動画配信により生徒の学習を確保した。6月以降、生徒の登校が再開した後も、部活動や学校行事に制限があり、通常の教育活動がなかなかできない状況が続いた。6月から7月にかけて都立学校全校にMicrosoftのoffice365のアカウントが配布され、teamsが使用できるようになった。また、本校では、教室のWiFi化（BYOD）工事が11月に完了し、それまで教育ICTの回線だけであったネットワーク環境が改善され、オンライン学習が実施しやすくなった。3月には国のGIGA

スクール構想として、前期課程生全員にタブレット端末が貸与され、本校では本格的にteamsやformsの機能を活用する教育活動がスタートし、校内ではICTやオンラインを利用した様々な教育活動が試みられるようになった。

office365の利用については、教育活動だけではなく、それまでzoomで行っていた会議や集会などにおいても活用するようになった。

また、本校ではオンラインによる教育活動の円滑化のため、校内組織としてEdTechチームを立ち上げ、オンライン学習の環境整備を進めた。

### 4 今年度の教育活動の実施状況

校内で急速に活用が進んだICTやオンラインを利用した学習活動は、今年度においても様々な新しい試みがなされている。今年度の活用例を3例紹介する。

(1) イスラエル・パレスチナ自治地区ガザ地区在住の高校生との交流活動



本校の特色ある教育活動の一つである「小石川フィロソフィー」において、6年生（高校3年生）の国際交流のグループとパレスチナ自治地区のガザ地区在住の高校生とで、オンラインによる交流を行った。ガザ地区では5月に、実効支配するイスラム組織ハマスとイスラエルとの間で戦闘があ

り、多くのロケット弾がガザ地区に降り注ぐという  
ことがあり、本交流活動は、そうした戦闘終了直  
後の6月に実施した。本校の担当教諭が国際協力  
機構（JICA）に依頼して実現した取組である。

交流の最初はロケット弾が飛んでくる恐怖など  
が話題となったが、やがて話題が将来の夢になっ  
たときに、ガザの高校生が自分のスマホの画面を  
PCのカメラにかざし、アーティストになる夢を  
紹介して、本校の生徒がそれに深く共感する瞬間  
があった。PCのカメラを通して、互いのインス  
タグラムのアカウントを交換し、遠く離れた日本  
とガザとで、高校生たちが自分のスマホの画面を  
通して同じ空間を共有する交流となった。

## (2) イギリス・カーディフ大学との高大連携 (大学教授による本校生徒への講義)



本校の特色ある教育活動である高度な理数教育・国際交流の一貫として、イギリス・カーディフ大学への生徒派遣がある。例年であれば10数名の生徒をイギリスに派遣して、現地での講義・実習に参加し、本校の生徒が研究成果を発表して大学教授から直接指導を受ける機会としているが、今年度はオンラインで同大学の教授から講義を受けるとともに、本校生徒が日頃研究していることを英語で発表し、教授から指導を受ける取組とした。同大学の教授の英語による専門的な科学に関する講義や指導は、きわめて難解かつ高度であったが、科学に対しての探究心、「知」への憧れを刺激する内容であった。海外の大学教授から講義や指導を受ける経験をすることで、将来、海外大学に進学し、自分の興味・関心がある分野を研究したいと希望をもつ生徒が出ると期待できる。

## (3) タブレット PC を使った授業の展開



前期課程生徒に貸与されているタブレット端末は、授業において様々に使用されている。話し合い活動や調べ学習の成果を記録する、画面上に図形を描いて発想の助けとする、教員が作成した課題プリントを生徒がオンライン上で取り組み、提出するなど、こうした工夫から生徒の学習が大きく変化するような方法、より効果の高い授業のスタイルが生まれる可能性がある。写真で紹介している授業は国語の授業で、生徒たちは教員が示した「キーワード」について、タブレット端末を用いて、ペア同士で話し合いをしながら調べ学習を行い、さらに調べ学習を通して分かったことをformsに書き込んでいる。書き込んだ内容は、すぐに正面の電子黒板とタブレット端末画面に映し出され、調べ学習の成果を即時に生徒たちが共有できる授業となっている。タブレット端末でどんな機能を使ったか、それによってどんな成果を上げたのかを教員相互で情報交換し、PCの活用方法を習熟していくことが大切である。

## 5 今後の課題

ICTやオンラインを活用した学習は、より効果の高い方法についてまだまだ開発途上にある。海外との交流など遠隔地とのやり取りでは、オンラインは大きな効力を発揮し多くの学校で活用されているが、授業中でのオンラインの活用や、在宅生徒対象のリモート学習などは、従来型の対面での授業以上に効果的な学習方法を開発していくことが難しい。学校教育のICT化、オンライン化を一過性のものと考えるのではなく、日本の教育の質の向上のためにも研究、開発する必要がある。本校においても、ICT化、オンラインによるより効果の高い教育の開発に取り組んでいきたい。



## コロナ禍を契機とした新たな授業運営への取組

学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校長 橋本 正樹

### 1 はじめに

想定外の事態は、変化への敏速な対応を求める。一方で、これまでの「当たり前」を、ふと立ち止まり、考える機会となる。私には、今回のコロナ禍によって、本校の教職員が教育活動の当たり前から目覚め、新たな教育のステージに向かい、生き生きと躍動し始めたようにも見えるのである。学校教育とは、そもそもあらかじめ決められた学事日程に沿って計画的に進行していく。その意味において、今回のコロナ禍は極めて異例の事態であり、各学校の変化への対応力が問われたといえよう。「現状の危機への対処」はまた、よりよい未来に向かうための変化の機会でもある。現状の壁に阻まれて、これまで変えられなかったことや現実と乖離した理想にすぎないとされてきた新たな試みも、実現に向け、その第一歩を記すことが、今ならできるかもしれない。もう二度とコロナ禍の前の教育には戻れない。そういった覚悟で前を向き、よりよい教育のかたちを、教職員の協力のもと、作り上げることができればと思っている。

### 2 学校の概要

本校の教育の歴史は、1935年の「早稲田式速記普及会」に始まり、今年が創立87年目となる。現在、最も学生数が多い医療事務分野の教育においては、1972年に日本初の医療秘書科を開設し、開設50周年を迎える現在まで、医療秘書教育の伝統校として高い評価を受けている。厚生労働省関連の国家資格学科としては、介護福祉科・看護科を設置し、現時点で七つの学科と一つの専攻科を設置する、医療・福祉の専門学校である。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

年度当初から、集合型の学校行事はことごとく中止せざるをえなかった。授業についても、通学時の感染リスクを回避し、校舎内での三密の状態を避けるため、通常の対面授業が困難になった。

急遽、遠隔（リモート）教育の必要に迫られ、まず課題配信型、5月以降にZoomによる双方向のオンライン、さらにオンデマンドでの動画配信を利用した授業などを段階的に導入・実施した。

オンライン授業を実施するにあたっては、「一人の脱落者も出さない」を合言葉に、学生たちのネット環境整備の支援も並行して進めた。その運営の仕組みやガイドライン、ルールは、学内の教務委員会が中心となり、比較的短期間で構築できた。

6月に入って、オンライン授業と並行して対面授業を一部解禁したが、校舎内の混雑を避けるための分散登校や教室内を密としないための少人数クラスに分割しての授業運営が求められた。通常の対面授業は、7月になってようやく再開したが、酷暑の中、窓を開けて換気する必要もあるために冷房が効きにくくなった教室内で、マスク着用のコロナ防止対策と熱中症防止対策をいかに両立させるかに頭を悩ますこともあった。

10月以降の後期授業は、原則として対面授業で実施し、オンラインに適した一部の科目は、その後もオンラインのまま継続した。校内においては、休み時間や昼食の時間など授業以外の時間帯でも、なるべく会話は控えることを求められた。学生にとっては、学校教育の魅力の一つである、学内での授業以外の人的交流の機会が、残念ながら大幅に減少してしまった。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

令和3年度も引き続き、校舎玄関でのサーマルカメラによる検温と手指消毒、校内の換気といった基本的な感染拡大防止対策に加え、マスクを外しての会話をしないよう、昼食時には校内放送で注意を促している。空調機能を高めるため、今年度は空調設備の更新も実施した。医療や福祉を専門とする職業人を目指す学生たちに、新型コロナウイルスについて「正しく知り、正しく恐れる」姿勢を醸成するため、専門家の先生による最新知識の講演等も随時企画し、動画で視聴させている。

緊急事態宣言下においても、今年度は感染防止対策を十分に講じつつ、原則として、学生を登校させての対面授業を実施しているが、可能な範囲で、週1日程度のオンライン授業の日を設けている。オンライン授業に適した授業科目の多い一部の学科においては、週2日程度のオンライン授業日を設定することもある。入学式等の学校行事については、参加人数を制限して簡略化し、学園祭などはオンラインで開催した。

#### 5 特色ある教育活動の取組

変化の時代を、第一線で活躍する職業人として生き抜くには、卒業後も学び続ける姿勢が求められる。そのために、学生たちには、学ぶことの楽しさ、そして自らを成長させる喜びを、在学中に体験させたいと考えている。

本校の職業人教育は、コロナ禍の前は対面授業を前提としていたが、今後はオンライン授業や動画教材等も組み込んだハイブリッド型の教育方法を積極的に採用していく方針である。

病院受付実務などの対面型のシミュレーション教育のための学内施設をさらに充実させる一方、昨年度にコロナ禍で中止を余儀なくされた病院事務実習の代替授業に使用する目的で作成した動画教材等も、より充実させていく過程で、将来的にはVR（バーチャル・リアリティ）動画の活用なども視野に入れたい。

また、学生が必要に応じて繰り返し視聴できる検定試験対策の動画教材やスマートフォンで使う本校オリジナルの問題回答練習ソフトなどを順次作成し、すでに一部は学生に教材として提供し、活用されている。

#### 6 今後の課題

コロナ禍の後の未来に向け、これまで当たり前と思われていた既成の教育活動は、その細部に至るまで、有効性を再検証する必要を迫られている。本校においても、コロナ禍を経て、アフターコロナの時代に向けた職業人教育の再構築が、改めて求められる。ビフォアコロナの時代の高等教育は、アフターコロナの時代において、そのままの形で生き残ることは、おそらくできない。今回のコロナ禍が収束に向かい、やがて終息したからといって、その間になんら検証もされず、修正も施されないままならば、専門学校を含む日本の高等教育機関の多くは、時代の流れのなかで淘汰される運命を避けられないようにも思える。

とりわけ、アフターコロナの時代を職業人として生きる在校生には、知識を与えることに重きを置いた知識伝達型の教育にとどまらず、自ら判断し行動する土台となる、頭（知恵）と足腰（行動力）を鍛えられるよう、より深く考えさせる教育上の仕掛けを、この際、学校として提供しなければならない。専門に関わる知識伝達型の授業は、学生が内容を消化できる範囲にとどめておくべきである。むしろ、卒業後に職業人となってから自主的に学べるよう、学びのモチベーションを喚起することこそが、職業人を育成する本校の役割だと言ってよいかもしれない。

コロナ禍が発する渦の波をバランスよく乗り切り、自立できる職業人を育てるための具体的な計画と実行を、教職員と一緒に推し進めていきたい。ここでの我々の選択と判断そして行動が、選ばれるに値する教育機関としての本校の直近の未来を左右する。そう言い切っても、過言ではない。





## 新型コロナウイルス禍の中、本校の取り組みについて

香川調理製菓専門学校長 古川 瑞雄

### 1 はじめに

2020年初頭から新型コロナウイルス感染が世界中にパンデミックとして拡大し、国内にもその大きな波が押し寄せてきました。その波は日常生活に大きく影響し、世界中の経済活動や人の移動にも多大な変化をもたらしています。特に飲食の業界には大きなダメージを与え続け、いまだに収まる気配が見えない状況です。生徒のインターンシップや就職活動も影響されていますが、その中で今まで私たちが学校運営のために取り組んできた対策について報告いたします。

### 2 学校の概要

香川調理製菓専門学校は女子栄養大学、女子栄養短期大学部を併設し、1959年に調理師学校として東京都で最初に認可を受けた学校です。校内には一般のお客様を対象とした営業店、「菓子工房 プランタン」と「レストラン 松柏軒」を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶというカリキュラムを取り入れています。調理師科、製菓科、調理マイスター科が有り、調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。また、「高等教育の修学支援新制度」において3年連続で確認校に認定されています。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

2020年2月26日、学園では新型コロナウイルス対策本部が立ち上がりました。3月19日までに5回の対面とオンラインでの会議が行なわれ、政府発表の指針に従いながら、学園内の学事や教育活動の方針が決定されました。その後はWEB上に設定された対策本部会議で様々な情報を共有し、学園保健センターの専門的見解に従いながら教育活動について決定し、学校運営を続けてきました。

まずはこの年の卒業式、入学式ほか関連行事は中止となり、4月に発令された緊急事態宣言を受け、宣言が開けるまでの期間は休講となりました。例年は入学式後に新入生がスムーズな学校生活を開始出来るようにオリエンテーションが有り、白衣の着方から始まる実習授業では包丁の持ち方、野菜の切り方等、基礎的知識を教育する大事な時期ですが、対面での指導ができないため、和、洋、中、製菓、製パンの各部門や座学の一部の教員による3分間動画を数多く作成し生徒向けにYouTubeで配信しました。また、教科書や座学の課題プリントを郵送し、在宅で取り組んで頂きました。

6月に入り対面授業がスタート。生徒の登校時にはマスク着用、入り口でのアルコール消毒、サーマルAIカメラでの体温確認が有り、毎日シフトに組まれた担当教職員が不接触体温計で生徒の体温チェックをして学校生活の安全確保に努めました。



そして開始の遅れた授業は週末や夏休み期間にも組み込むことで遅れを取り戻す工夫をしました。

また、実習授業では実習台につく生徒が通常4名のところ3名以下とし教室の換気にも注意しての授業運営となり、作った料理の試食時には実習担当教員の手作りパーテーションを使用し、黙食と時間短縮を図ることとしました。

後期に入ると学校運営の更なる工夫が迫られ、座

学については資格取得に関わる授業のみ対面で、その他はプリント課題配布等の対応となり、実習授業はクラスごとの時間短縮授業とし、デモンストレーションと試食のみの授業も組み込まれました。

又、この1年間の学事はほぼ全て変更または中止となった中で3月の卒業式は生徒のみの参加で実施。卒業する生徒たちはホテルの大きなホールに間隔をあけて着席し、式の様子はライブ動画配信で保護者の皆様にも見ていただきました。

#### 4 今年度の教育活動の実施状況

2021年4月2日に新入生のみでの参加で入学式を開催。

オリエンテーションを挟み、対面授業を開始しました。

昨年同様のコロナ対策を基本とし、生徒には体調チェック表を配布。毎朝の体温と体調を記入して頂き、登校時にはサーマルAIカメラでのチェックと担当教職員によるチェック表確認をして授業に入ります。また、全生徒に携帯用折りたたみ式のアクリルパーテーションを配布、座学や実習授業前の担当講師によるデモンストレーション時に指定された各自の席で使用することとしました。順調にスタートした今年度ですが、4月25日に発令された再度の緊急事態宣言により、基本的には調理と製菓の実習授業のみの開催とし、座学は課題プリント配布での対応となりました。

6月21日から7月16日までは通常授業に戻りましたが、その後は更なる緊急事態宣言の中、夏休みを挟んで対面授業は実習と資格に関わる座学のみでの開催となりました。

さらに状況に応じての分散登校やクラス単位での授業、時間短縮等、細かな対応が続きましたが、現在は9月30日の緊急事態宣言解除を受け基本的コロナ対策継続の中、全て対面授業に戻しています。

#### 5 特色ある教育活動のとりくみ

##### 1) 集団給食調理実習

集団給食調理実習は調理師科とマイスター科1年生全員が対象で、クラスごとに9月を中心に組まれる授業です。

集団給食調理実習で作られた料理については、

コロナ禍前は学内教職員もチケット購入での食事ができたのですが、昨年からはコロナ対策の為、生徒のみの試食となりました。

##### 2) 営業調理実習

調理師科とマイスター科1年生の営業調理実習は学内にあるレストラン「松柏軒」の厨房に入って、卒業生の専属調理員の指導の下、実際のお客様に提供される料理作成に携わるという実習ですが、コロナ禍で外部のお客様のご来店がないため、学内販売用お総菜作製に関わる実習になりました。

##### 3) デュアル実習

本校マイスター科最大の特色あるデュアル実習は、マイスター科2年生が5月の1か月間ホテルやお店等の実際の調理現場に入って体験する実習ですが、有給実習となっています。昨年度からコロナ禍で受け入れ企業やお店が少なくなり、無給の実習となりましたが、今年度は都内の一部の企業とリゾートホテル等で受け入れていただくことが出来ました。

本来は有給実習ですので、生徒たちには学園からの補助金が支給されました。

#### 6 今後の課題

海外研修としてヨーロッパ料理研修とヨーロッパ洋菓子研修、台湾中国料理・文化研修が有りますが、数年前の海外でのテロ事件以降は開催されず、このコロナ禍の影響で開催が延期されたままです。

また、製菓科のプログラムにオーストラリア短期留学が有ります。7月の4週間、西オーストラリア州の首都パースにある州立職業訓練校の調理部門に現地でホームステイをしながら通うという留学ですが、このコロナ禍で昨年より開催されていません。

このように、昨年度から学事や部活動を含む様々なプログラムが中止、変更となっていますが、出来るだけ早い時期にこれらの教育活動が再開されることを願っています。教職員は常に生徒満足度を上げる努力を惜しみません。今後も学内でのコロナ感染が発生しないよう最大の工夫や対策を基に注意を払い、生徒が安全な学校生活を送れるように全員で取り組みます。そして日本の、世界のコロナ禍が早く終息するように願っています。



## コロナ禍における都立産技高専品川キャンパスの取組

東京都立産業技術高等専門学校  
品川キャンパス 教務主事 富永 一利

### 1 はじめに

高専の教育システムは大学とは異なり、中学校卒業後の早い年齢段階から5年間（専攻科進学の場合、7年間）一貫の実践的専門教育を行い、産業の生産現場での中堅的な役割を果たすことのできる技術者の育成を目指している。本稿では、コロナ禍での都立産業技術高専品川キャンパスにおける教育活動への取組について、事例を示しながら述べる。

### 2 学校の概要

東京都立産業技術高等専門学校は、平成18年に都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編されて開校した公立高専である。前身校の都立工業高専（現、品川キャンパス）と都立航空工業高専（現、荒川キャンパス）は、昭和37年に経済成長を支える科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成という産業界からの要望に応えるために、全国で初めて設立された高等専門学校である。ただし、都立工業高専は昭和10年に設立された東京府立電機工業学校まで、また、都立航空工業高専は昭和13年に設立された東京府立航空工業学校まで、その歴史をたどることができ、本校は首都東京で80年以上の永きにわたり、技術者教育の伝統を延々と受け継いできたと言える。

本校の本科は、ものづくり工学科1学科のみで、2キャンパスで8つの教育コースを持ち、全国でも最大規模となっている。特徴としては、1年修了時にコースを選べるコース選択性や、最新技術に対応した新コース（AIスマート、情報システム）の設置、融合・複合領域の教育研究を目指す、医工連携教育・研究プロジェクトの立ち上げなどがあげられる。

### 3 昨年度の教育活動の実施状況

実践的技術者の育成を目指す本校では、授業時間の約3割を実技科目にあてている。感染のリスクを避けるためには、オンラインによる遠隔授業が望ましいが、昨年度も可能な限り対面での授業を目指してきた。具体的には、4月から1ヶ月間臨時休校とし、課題プリント等の配信による自主学习対応とした。その後、5月から全面遠隔授業を開始し、6月から実技科目、卒業研究の実施日のみ対面授業を行う分散登校とし、7月からは全面对面授業に戻し、以降、1月までは通常授業を継続した。1月の緊急事態宣言発出に伴い、6月同様に実技科目のみ対面の分散登校を再開した。

学生への通常の連絡は、Google Classroomを用い、遠隔授業はGoogle MeetやMicrosoft Teamsで対応した。なお、家庭に自分用のパソコンがない学生にはノートPCを貸し出し、家庭のインターネット環境が不十分な学生には、学校のPCルーム開放などで、全学生の学習環境が確保できるよう努めた。登校時の感染対策としては、保護者、学生の協力も得ながら、学校全体で徹底して取り組んできた。

### 4 今年度の教育活動の実施状況

今年度も、昨年度と大きな方針変更はなく、徹底した感染対策を施した上で可能な限り対面授業を実施している。緊急事態宣言下で分散登校を実施する際も、実技科目の対面授業を優先している。また、新入生に対しては、入学直後にガイダンスを行い、スムーズに遠隔授業に取り組めるよう、指導を行った。

## 5 特色ある教育活動のとりくみ

他の学校でも取り組まれている感染症対策については概ね実施していると思うが、特徴的な取組としては以下のようなものがあげられる。

### 1) Google Forms を利用した健康観察アンケート

学生に対しての毎朝の健康チェックは、万が一感染してしまった学生が、校内で他の学生に感染を広めないために重要であり、全学生がもれなく自分の体調を管理することが望ましい。そのため、本校では、学生が毎朝の健康状態を Google Forms に入力し送信することで、学生室（学生指導を管轄する部署）、担任、クラブ顧問が、学生の健康状態を把握することが可能となっている。

**健康状態報告**

学校で学生の健康状態を把握するため、毎朝がならず回答して下さい。

@g.metro-cit.ac.jp アカウントを切り替える

このフォームを送信すると、メールアドレスが記録されます

\*必須

体温（整数部）\*

体温の整数部の数字を回答して下さい（36.4℃の時は「36」と回答）

選択

体温（小数部）\*

選択

症状確認\*

「咳」「鼻水」「咽頭痛」「倦怠感」「頭痛」「吐き気」「おう吐」「下痢」「匂い・味覚の変化」「平熱より0.5℃以上高い」の症状はありますか？

はい

いいえ

### 2) 非接触型体温計を全教室に設置

朝の健康チェックを学生に指示してはいるが、忘れてくる学生もいる。校内に、タブレット型のサーマルカメラも設置しているが、多くの学生を同時に検温することは困難であるため、後援会の援助を受けてすべての教室に非接触型の体温計を設置した。なお、体温計の下に web 入力用の QR コードを掲示して、その場で入力まで完了できるよう工夫されている。また、朝の授業担当教員からも、健康チェックの入力忘れ学生に対して、

検温と入力の指示を行っており、全員入力を目指して取り組んでいる。



### 3) 校内放送による注意喚起

学生達の感染対策への意識を高めるために、毎朝1時限目の開始前と昼休みに、学生室の担当教員が校内放送を行っている。内容は、健康チェック入力の確認と校内での行動についての注意喚起である。放送内容の概要は、以下の通りである。

- 健康チェック入力の催促
- 黙食の指示と食事時の注意
- 速やかな下校の指示

## 6 今後の課題

オンライン授業の質を向上させるために、校内FD研修を何度か行い、現在、学生も教員もオンライン授業には慣れてきた状況ではあるが、対面と異なり学生の理解度や授業への集中度を、教員がうまく把握できない部分もあり、今後も継続してコロナ禍における教育スキルの向上を目指しながら、感染対策を徹底して教育活動を行いたい。

## 東京の産業界



### 民間で教育・福祉を実践する喜びと覚悟

株式会社ツバサ・翼学院グループ

代表取締役学院長 芦澤 唯志

#### 1 翼学院グループの事業内容

私が経営する株式会社ツバサ・翼学院グループは、発達障害児・生徒のための学習塾、児童発達支援・放課後等デイサービス、相談支援事業所（開設準備中）、高校・大学卒業のためのサポート校、カウンセリングルーム、Benesseとの連携による英会話、出版・WEB事業を行っています。2020年10月発売の拙著「発達障害・グレーゾーンの子の受験を突破する学習法」（あさ出版）は4刷となり、全国や海外からオンライン塾への相談がひっきりなしにあります。お客様はもちろんスタッフや地域を大切にする経営が評価されて経済産業省、厚生労働省等が後援する「第7回日本でいちばん大切にしたい会社」大賞を受賞しました。しかしこのように事業名を並べるだけではどのような活動を行なっているかイメージしづらいことと思います。そこで翼学院での具体的な指導事例を挙げてご説明します（個人情報保護の観点から修正をした事例であることを付言します）。

#### 2 Aくんとのお会い

Aくんは中学3年生男子、小学4年生の時に両親が離婚、現在はお母様と同居しています。お父様からは日常的に暴力を受けていました。学力面ではアルファベットを書くことや正負の計算ができません。中学に進学後、お母様に暴力を振るうようになり児童相談所が介入しています。SC（スクールカウンセラー）や医師に相談しているのですが改善が見られず、学習面、メンタル面で困り果てたお母様が拙著を読み、藁をもすがる思いで中3の春に入塾されました。学校には登校できていますが、授業内容は理解できず「座っているだ

け」との本人の弁です。成績はオール1でした。

入塾時にアセスメントを兼ねて私自身が指導を行いました。知識量は少ないものの、快活で頭の回転の早いお子様でした。私が武道家であることから「将来、K-1（キックボクシング）の選手になりたい」と目を輝かせて話してくれました。指導後に「すごく考える力を持っているよ。でも学習が遅れてしまっている。だから遅れを取り戻そう。」と伝えました。Aくんは嬉しそうに「頑張ります!」と言いました。しかし塾も休みがちになり、お母様から保護者面談の申し出がありました。

#### 3 自閉スペクトラム症との診断を受けて

「芦澤先生からたくさん褒めてもらったこと、授業がわかりやすかったこと、自分のことを話せたことをとても喜んでいました。でもしばらく経つと『どうせ俺なんかダメだ』が始まってしまいました。最近、自閉スペクトラム症との診断を受けました。以前から学習や部活を投げ出す傾向がありましたが、診断を受けたことで『俺なんかどうせ障害があるから』と言って投げやりな傾向が増しました。」とのことでした。私は、発達障害が必ずしも学習の遅れを伴うものではないこと、自立して活躍している人がたくさんいることを伝えました。またKABC-IIという心理・知能検査を受けることをお勧めしました。この検査は個人の認知尺度（大まかに要約すると潜在的な力）と習得尺度（要約すると学習の成果）を対比することができる検査です。併せて継次処理（順に考えて行く方法）と同時処理（直感的にまとまりをつけて考えていく力）のどちらが得意か、などを測

定できます。お子様を評価するために行うのではなく、得意不得意を見つけて指導や生活支援に活かすために検査を活用します。今回はあえて翼学院グループ内で検査を実施せず、提携している大学を紹介して、A くんを受検してもらうことになりました。

結果、A くんは認知尺度が平均よりも高く、習得尺度がとても低いことがわかりました。「すごく考える力を持っているよ。でも学習が遅れてしまっている。」と最初の授業で言ったことはお世辞ではありませんでした。検査結果を見て A くんは一時気持ちが上がったのですが、やはり意欲は長続きしません。生育歴に起因する自己効力感(学習など様々なことをできると思う気持ち)、自尊感情(自分のことを大切に思う気持ち)の低下が影響していると考えた私がお母様にお尋ねしたところ「父から暴力だけでなく、『お前なんかダメだ』という発言が繰り返されていました」とのことでした。

#### 4 連携で支える

季節は中3の晩秋。「このままでは高校に進学できない。一層、生活が荒れてしまう。」お母様には切迫感が募っています。その気持ちは人の親として十分理解できます。でもお母様の焦る気持ちが A くんを追い詰めてしまっているように感じたため「15歳までに全てをやり直そうとせず、A くんが発達、心理、学習の成長に寄り添った目標設定を行いましょう。」とお伝えしました。

「在籍中学で『努力不足だから成績が悪い』と言われたので追い詰められている」とのこと、「学校も理解してくれるはずなので、発達検査や KABC-II の結果を共有しましょう。直接担任の先生や学年主任の先生と話しづらければ、SC の先生を通じて生育歴もお伝えしてみてもどうでしょうか。」「A くんは怠けているのではなく、発達障害や習熟の問題があり、心の面でも困っていると伝えてみてはどうでしょうか」とお母様にアドバイスしました。塾での学習指導だけではなく、総合的に支援を受けることをお勧めして、大学の検査者からも学校に所見を共有することになりました。

#### 5 A くんは春

その後、翼学院グループの心理専門職がお母様のカウンセリングを継続、強いご要望に基づき塾とは別に放課後等デイサービス「つばさクラブ」でイライラして暴力を振るった時の対処法の練習(ソーシャルスキルトレーニング)を行い、私自身も指導に頻回に入り「対話と定式化」の「芦澤式指導法」(いずれも商標登録)を行いました。翌春、A くんは、都立エンカレッジスクールに合格、今でも心の葛藤を抱えながらも、お母様へ直接暴力を振るうことはなくなり、K-1 選手になる夢を持ちながら、学校の先生に温かく育まれて高校に通学しています。

#### 6 自他に折り合いをつけて、得意を伸ばす

保護者様をはじめとする様々な方から「翼学院を学校法人にしてほしい」というご要望を頂きます。しかし私は「あえて民間で」教育を行う意味があると自負しています。学習だけでなく、生活、心理、福祉、どんなことでも相談できる場、地域資源と繋がる場として、黒子として、お子様や保護者様を支えていく。そのために慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員として LD 学会等の学会でも研究を重ね、大学客員教授として同志となる社会起業家の育成に取り組んでいます。

私自身も発達障害など様々な障害の当事者であり、今でもたくさんの困難を抱えています。このような私が自立してささやかながら社会貢献できているのも、支えてくださっている方々のおかげです。企業経営者の先輩方には常々「翼学院らしさ、君らしさを忘れないように」と心からのご助言を頂いています。身の丈に合わない成長を求めず、翼学院グループに通ってくださる方お一人お一人とスタッフを大切にする経営を続けたいと考えています。今でも指導・相談支援現場に立ち続けている私に「経営者に徹しては？」と心配してくださる方もいらっしゃいますが、可能な限り指導現場でも頑張り続けたいと思っています。

「自他に折り合いをつけて、得意を伸ばす」これからも翼学院グループ一同「すべてはお子様、それを支える保護者様のため」を一途に全うしていきたいと考えています。



## 日本の経済を支える人材育成

一般社団法人東京工業団体連合会副会長

一般社団法人大田工業連合会会長

株式会社昭和製作所取締役会長 舟久保 利明

### 1 はじめに

私は町工場の経営に半世紀余り携わって来ました。町工場は、以前は騒音・振動・異臭・水質汚染等の公害の元凶とされ、埋め立て地への移転を余儀なくされた時代もありましたが、現在では、地域住民との繋がりが重要視され、行政指導の下に円滑な操業が可能になりました。父の起業した町工場も今や息子の代になって地域住民との関係は良好であります。

### 2 会社の概要

(株)昭和製作所は、材料試験片（金属材料等の機械的性質を調べるための検査機器に適合した形状のもので、最終的には壊されてしまうので破壊試験片とも呼ばれます）加工を主業とする会社です。加えて現在では非破壊検査（UT: 超音波・MT: 磁気・ET: 渦電流・RT: 放射線・PT: 浸透・TT: 赤外線等による検査対象物を壊さずに行う検査）のうちで、特に超音波探傷用の試験片加工を行っています。ニッチな分野ではありますが、後者に関しては業界の大半を担っています。

### 3 地域工業団体への参加

先に述べた町工場と地域住民との共存の観点から私は20歳代から地域工業団体への参加を志すようになり、(一社)大森工場協会の青年部組織(YMクラブ)に加入しました。50歳代にその親団体の会長になり、しばらくして(一社)大田工業連合会の会長、更には(一社)東京工業団体連合会の会長を務めました。地域団体の会長として組織拡大に多少の貢献はしましたが、特に、大田区においては、“中小企業の次世代ものづくり人材育成事業”(大田区産業経済部)、東京都においては“中小企業の経営基盤強化事業”(東京都産業経済労働局)の予算を駆使し、ものづくり中小企業の存続発展に邁進し、応分の成果をあげら

れたと自負しています。

### 4 中国人研修生・実習生招聘事業

バブル崩壊前後の極度の人材不足から、様々な経緯を経て、1992年から2011年まで、大森工業協同組合で中国人研修生・実習生招聘事業を行い、約150人の招聘実績を上げました。彼らは概して真面目で仕事に熱心で、このまま就職してもらえればと思う人材が多くいました。よそで聞く、外国人差別などは全くありませんでした。この事業の終了の原因は、実習生の低賃金や実習生の持ち帰った技術が流失することにより、町工場の経営体質の弱体化をもたらす事実が気が付いたことによるものです。このことの経験により、東京商工会議所の「外国人労働者問題検討委員会」や、日本国際交流センターの「外国人材に関する円卓会議」にも参加し、現行の外国人研修生・実習生制度の問題点を勉強しました。現在の考えられる最良の解決策は、外国人労働者の入国時の一本化を目指す、いわゆる移民省の設置であります。ちなみに先進国に移民省のない国はありません。

### 5 就職時の学生と企業とのアンマッチング

10年前くらいから、就職時の学生と企業とのアンマッチングが社会問題となっていることに問題意識を持ち始めました。2001年から始まった「中学生の職場体験事業」は、文部科学省が力を注いでいる「キャリア教育」の一環として開始されました。「キャリア教育」とは、学校の中ではできない社会教育です。工場見学、職場体験、就業体験、インターンシップ等がこれにあたります。この事業が円滑に進められることを応援しようと大田区内の有志で「中学生の職場体験事業を支える会」が結成され、そのことを知って参加を決意しました。特に就職時の学生と企業とのアンマッチングが、新卒者の短期離職、新卒者の正社

員でない契約社員の一般化、進学しない高校生のフリーター化の増大等が、日本経済の負の要素として増大しています。これについては、個人的見解として、外国人労働者の増大と関係があると考えています。フリーターの内容は、普通高校に関しては進学、浪人、就職を除く学生の大半、工業高校に関しては、将来の人生展望無し、親の強制、学力不足の学生の大半が占めているとみられています。

キャリア教育の現状はその対象年齢を引き下げる傾向にあります。昨年、文部科学省から、小学校5,6年生の授業にその地方の特徴を生かした科目を設定すること、また生徒・学生が、小学校から高校までのキャリア教育の経験を記したキャリアパスポートを作成することが、通達されました。特に後者の場合、それが大学入試に活用されることが期待されています。これらは、制度そのものよりも、生徒・学生が自分の住んでいる環境を知ることが副次的に付与されると考えられます。即ち、いじめや不登校等の問題解決の一部にもなるということです。

私は、現在(一社)大田 CP21(キャリアプロモーション 21 世紀)の会長となり、キャリア教育のさらなる発展のために奮闘しています。もう一つ、大田区には就業体験と座学を両立させるデュアルシステム科を有する都立六郷工科高校があり、その科の導入から推進に至るまでの委員会にも携わっています。

## 6 職業能力開発センター

東京都産業労働局の雇用就業部が主催する「職業訓練委員会」があり、委員として10年以上の関わりがあります。その時勢に応じた職業能力開発センター(以下はセンター)で行われる職業訓練科目の内容を検討する目的で行われます。センターへの入校者はハローワークで紹介される場合が多く、失業者の技術習得による救済と就業者の現行以上の技術習得を目指しています。但し、センターの現行の受け入れ数、規模に比較して少ないということが残念です。委員会では、センターは今以上に高校・大学との連携を深めるべきであると提言していますが、法令的縛りが無い以上無理なようです。数年前より、自分の適性を確認するために「チャレンジコース」が創設されましたが、応募者が全く増えないのは残念です。

センターの訓練科目に関しては、ものづくり科目一般としての検査科目が欠如しているのが問題です。センターには最近三次元測定機が漸く導入されましたが、ものづくり企業にとって有用な「ISO9000」は、ものづくりの組織・命令系統・資材保管のほかに、検査・不具合処理等が定められています。ものづくりの場合、完成品出荷時において、検査表が必要になる場合が一般的になってきました。最近のメディアが、様々な不具合品が世の中に横行する状況を伝えるようになりました。但し、検査の内容は、寸法計測がすべてではありません。特に近年重要視されている各種の非破壊検査があり、その技術者は各種のそれぞれの非破壊検査の資格取得により高級技術者にもなります。その意味でいえば、工業高校で非破壊検査の科目が必須科目に昇格すべきと考えます。

## 7 おわりに

以上述べたことから思うことは、日本の経済を支える人材育成に関し、行政側からのまとまった動きが出てこないということです。人材育成は、以前は企業内で行われていましたが、グローバル化した経済の中では、新入社員に対してこまごました教育を行う時間がない状況になっています。短期離職から発する様々な問題は、学校教育にあります。そして、学校教育では成しえないキャリア教育が始まりました。他方、社会人を対象とした職業能力開発は、そのセンター入学対象者が増えないこともあって、抜本的に失業者対策となりえていません。

結論から言えば、学校教育と職業能力開発を結びつける行政からの動きが必要だと思います。キャリア教育に関しては、その中での問題は生徒よりも先生の地域との繋がりの無さが指摘されます。

センターに関して言えば、外国人労働者との繋がりが現状では全くありません。彼らのほとんどが日本語は十分でないで仕方がないというのがその理由です。しかし、現在外国人労働者は国内の20%前後を占めています。彼らへの失業救済はNPO法人の助けや、契約社員化した状況以外、何もなされていません。センターの就業者の現行以上の技術習得を目指す科目に関しては、現在働いている外国人はある程度の日本語が出来ているので、是非外国人への門戸を開いて入学できる下地を作ってほしいと思います。



## 情報スクエア



### 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校の取組（第1年次）

「八丈やろごんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～

東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一

#### 1 はじめに

東京都立八丈高等学校は、八丈島という文化と歴史のある地に設置された創立70年を迎えた伝統ある都立高校である。本校の教育目標は、全日制課程「誠実・慈愛・自立」、定時制課程「自主・健康・民主」である。校長の経営方針、教育方針のもと、「八丈高校魅力化プロジェクト ONLY ONE すべては生徒のために」を合い言葉に「教育内容の充実と進路実績の向上」を掲げ、学校が一丸となって取り組んでいる。

八高は、「主体的、対話的で深い学び」として、「分かりやすい授業」に加えて、「生徒が自ら学びたくなる授業」を目指し、eポートフォリオシステムなどITを活用して、全ての生徒の学力向上の取組を進めるとともに、生徒の進路希望の高いレベルでの実現のために、地域と密接に連携して、本校の教育内容の魅力化を図っている。

そして、Hawaii研修でのHawaii大学やWaiakea高校との生徒交流、都立大学や産業技術大学院大学との高大連携、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校による地域協働・八文学と探究学習のほか、専門家を招聘した地域連携授業等で多彩な学びを重ねながら、将来の国際社会を担う人材として必要な学力、教養、勤労観・職業観、道徳心、社会性、リーダー性、コミュニケーション能力など、生徒の柔軟な真の力を総合的に高めている。生徒には、思い出という宝物をたくさんつくって、全ての生徒に卒業してもらいたい。

八高の様々な取組は、本校ホームページやTwitterにおいて積極的に紹介している。

#### 2 研究の背景とねらい

八丈島には、豊かな自然、歴史、伝統文化があり、観光業をはじめとする産業が盛んである。本校は八丈島で唯一の高等学校であり、島内中学生の大半の生徒の進学先である。地域との連携や協働により、本校が中心となって、八丈町全体で子供たちを育てる環境がある。しかし、近年では人口流出が進み、30年後には人口が半減するという推計もある。八丈島の発展は、本校の活性化と表裏一体の関係にある。

そこで、八丈島の自然、歴史、伝統文化、産業等についての探究的な学びを行い、生徒が主体となって八丈島の未来のために必要な価値や課題を発見し、島内外の大人と連携・協力して解決策を考え提案し、実践する人材の育成が極めて重要である。なお、この研究開発のプロジェクト名を「八丈やろごんプロジェクト」とした。「やろごん」というのは、八丈言葉で「やろう」を意味している。

#### 3 研究の目標

本研究の目標は、小中学校からの系統的で、教科横断的な探究学習により「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」のもと、次のような人物を育成することである。

[本校のグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像]

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

#### 4 令和2年度の研究内容

研究の初年度として、第1学年に設置した学校設定科目「八丈学Ⅰ」を中心に次のような取組を行った。一学期には、八丈島の自然、歴史、文化、産業に関する講義を通して、八丈島に関する理解を深め、島の価値や魅力を見出させる学習を行った。その後フェノロジーカレンダーの作成を通して八丈島の地域課題に気付かせる取組を行い、二期末はHawaiiのWaiakea高校とオンライン交流し生徒から八丈島の魅力を発信した。三学期には学習成果であるフェノロジーカレンダーを活用して、島内小中学校のほか、羽村市立小作台小学校や都立立川高校、都立大学とオンライン等による学習成果発表や交流活動を行うとともに、令和3年12月に予定している「島民会議」に向けてコンソーシアム協議会を実施した。コンソーシアムは本事業の趣旨に賛同くださる自治体、高等教育機関、産業界と本校との共同事業体のことである。

主な授業として、7月に八丈町教育委員会から講師を招聘し「八丈言葉講座」の授業を実施した。生徒たちは八丈語がユネスコの絶滅危惧言語に登録されていることや、八丈言葉の使い方が万葉集の言葉の使い方由来していることを知ると八丈言葉の大切さを身に染みて感じたようであった。

11月に保護者会の研修講演として、本校の本事業の「カリキュラム開発等専門家」である帝京大学の増渕達夫教授が来校し「八丈高校が行う地域協働について」研修講演を実施した。講演後、保護者、教職員、地域有識者を交えてワークショップ「育成したい生徒像」の共有を行った。

12月に、HawaiiのWaiakea高校の日本語の選択授業を履修している生徒との交流を行い、八丈島についての紹介を八高生が英語と日本語でプレゼンテーションして交流した。八丈島の特色の理解を深めるとともに、同じ火山島であるHawaii島と比較することにより、生徒の視野が広がった。

令和3年3月には、Waiakea高校との交流とHawaii大学教授による講演会を実施した。

#### 5 令和3年度以降の研究計画

第1学年は「八丈学Ⅰ」を実施する。探究学習を充実化させるとともに、年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気付く力を育成する。

第2学年は「八丈学Ⅱ」を実施する。令和3年度開講の八丈学Ⅱでは、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う「島民会議」を実施する。そして島民会議で出された課題を基に個別研究で実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証する。生徒が地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考え、深めることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

令和4年度第3学年に設置予定の「八丈学Ⅲ」では、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けさせ、持続可能で実現可能な行動計画を立て実践する。1・2学期を通じて、観光甲子園や田舎力甲子園などのコンテストに応募し具体的な行動計画を発信する。年間を通して課題を解決するための実践力を養い、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表することにより、探究学習の成果を広く伝える力を育成する。

これら3年間の研究開発の結果、研究開発目標及び本校のグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けさせることを指定期間終了時のゴールとする。

#### 6 むすびに

本事業採択1年目の研究をコロナ禍のもと、文部科学省、東京都教育委員会、八丈町や町教育委員会、島内外の小・中学校、高校、大学、企業など、コンソーシアムの方々に御理解、御協力いただく中、生徒も担当教員も懸命に取り組んできた。これまで培ったことを土台に、今後の研究に生かしていきたい。そして、本事業終了後も八丈島と本校の発展のため、取組を継続していく。



## 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 事業特例校の取組

東京都立五日市高等学校長 久保田 聡

### 1 学校の概要

本校は、今年度で創立73年目となる。現在、3年生は普通科と商業科が設置されているが、1年生と2年生は普通科のみであり、令和4年度には全学年普通科となり、地域に根差した「特色のある普通科」の高校として出発する。日々の学習、探究活動、行事など全ての教育活動を通して、広い視野を持ちながら新しい社会に対応できる生徒、地域に貢献できる生徒、地域を愛し地域から愛される生徒の育成を目指している。

特色のあるカリキュラムとして、2年次からマネジメント・アウトドア・アドバンスの3コースに分かれ、生徒の興味・関心や進路希望に応じた教育を行っている。全てのコースで大学への進学も視野に入れて、学力の定着を図っている。

また、あきる野市、日の出町、檜原村の自治体や、近隣の大学や企業等と連携し、地域に密着したテーマや課題を中心とした探究活動を経験的に学ぶ「五日市メソッド」により、豊富な地域資源を活用し、地域と共に、地域に貢献できる人材を育成している。

### 2 取組内容

#### 「五日市メソッド」による探究活動

あきる野市、日の出町、檜原村の近隣の自治体、大学、商工会、企業、NPO等と連携し、生徒が、地域の課題や魅力発信などの地域に密着したテーマを設定し、実際に見たり、聞いたり、調べたり、積極的に地域の方々と関わりながら課題解決に向けて経験的に学ぶ活動を「五日市メソッド」と位置付けて、総合的な探究の時間、アウトドアコース、マネジメントコースを中核として、探究活動を行っている。

本報告では、先行して実施しているアウトドアコース、マネジメントコースの取組について報告する。

#### (1) アウトドアコースの取組

地域の専門家の協力を得て、地域の自然環境や環境資源及び特性を生かした体験活動から、地域理解を深めることや身に付けた知識や技能を生かして地域の活動等に積極的に関わろうとする姿勢を育むことなどを目的として行っている。

##### ①地域を知る

地域環境を活用した体験活動を実施し、体験するだけでなくアウトドア活動の企画・運営をする側の立場に立った時の視点や地域貢献するための視点を持って観察や考察を行っている。自分たちが地域活性化や地域貢献を担うにはどうすればよいかを考える体験授業を実施している。

##### ②探究活動

地域の特性等を理解した上で、地域に対してどのような貢献ができるのかを、自らの「提言」として発表できるように、今後の授業を通して深めていく。

#### [今年度の活動実績]

地域の関係機関と連携し、次の取組を行った。

- 東京裏山ワンダーランド、earth garden、(株) domo、五日市小中野地区等、外部企業と連携した地域探究活動
- 日本トレイルランニング協会、ハセツネ実行委員会と連携し、五日市地区で毎年実施しているハセツネカップボランティア講習の実施
- トレイルランニング実習（天竺山、今熊山、弁天山、網代城山、金比羅山 など）
- (株)東京チェーンソーズと連携した林業実習（道づくり、薪割り）

- ・秋川渓谷でのリバートレッキング
- ・ブッシュクラフト実習（火起こし）日本山岳スポーツ協会
- ・クライミングフロント・カランバと連携したボルダリング実習
- ・五日市保育園、五日市わかば保育園、五日市小学校の園児及び児童を対象としたボルダリング地域交流会等



ボルダリング地域交流会

## (2) マネジメントコースの取組

地域のために起業できる力を身に付けることや、起業した後、経営する力を身に付けることを目的としている。

### ①地域の資源を活用する

当初は、「あきる野の匠」をテーマとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から予定を変更し、多摩産材の認知度アップに向けたビジネスアイデアを考え、販売実習を目指している。ビジネスアイデアを考えるにあたり、連携している大学の先生や専門家から授業を受け重要な知識や技術などを学びながら進めている。

### ②地域の魅力を発見する

地域で活躍する起業家からの話を聞いたり、実際に仕事を体験したりすることで、地域で起業するために大切なことを学んでいる。

### [今年度の活動実績]

- ・嘉悦大学、東京経済大学との連携授業
- ・あきる野商工会と連携し紹介を受けて、鍼灸・シェアサロン TEEDA、(株)村尾組、秋川国際マス釣場、ふるさと整骨院、ラトリエサクラ、シビルエンジニアリングで就業学習3日間実施
- ・就業学習成果発表会を受入先企業の方を招いて実施
- ・日本トレイルランニング協会、ハセツネ実行委員会、(株)東京チェーンソーズによるビジネスモデル



秋川国際マス釣場での就業学習

ルの学習

- ・多摩産材の講演と多摩産材フィールドワーク  
多摩産材制作や、秋川木材協同組合出前授業及び多摩産材エコツアーの実施
- ・地元の起業家 earth garden 鈴木代表によるイベント企画学習等

## 3 成果と課題

### (1) 成果

実際にその場に行き、外部の方からの説明を受けたり、身体を動かしたりすることで、普段の校内での学びの中では得ることができない経験をすることができた。地元の良さや魅力をどのようにして伝えていくのかを考えたり、小さい子供から年配の方まで幅広い世代、大学の先生、企業の代表の方々と関わることによって、コミュニケーションの取り方を学んだりする場になった。

生徒が主体となって、地域を活性化していくための方法を探究していく中で、林業、農業、水産業など五日市ならではの自然環境や、多摩産材、のらぼう菜などの特産物について知ることができ、地域貢献に向けた具体的なイメージを持つことができた。

令和4年2月に地域の方を招いて、両コースの生徒による成果発表会と地域活性化策の提案に向けて地域の方々との意見交換を実施します。

### (2) 課題

#### ①アウトドアコース

これまでの取組を生かして、ボルダリング、トレイルランニング、野外活動の三分野において、地域の活性化や地域貢献に向けて、生徒が主体となって地域連携の企画、運営イベントを開催できるような力を育成していきたい。

#### ②マネジメントコース

経営やマーケティングに関する内容を充実させるとともに、パンフレット等の作成や広報するためのスキルを高めていきたい。その上で、全体の共通テーマを掲げて販売実習をするなど、これまでの取組を通して身に付けた力を生かせる機会を設けることで、起業に向けた学びを充実させていきたい。



## 厚生労働省「地域発！いいもの」好事例に選出されて 大田区教育委員会主催「ものづくり教育・学習フォーラム」

大田区立大森第七中学校長 増元 啓彰

### 1 はじめに

本区は都の区部最南端にあり、東は令和島、のりの養殖が盛んだった大森沖を埋め立ててできた、平和島・京浜島・昭和島・城南島、その中には野鳥の森公園と大田市場。そして羽田空港。蒲田・大森を中心とした繁華街・商店街。明治の文豪が愛した馬込。本門寺門前街の池上。勝海舟ゆかりの地である洗足池。大森貝塚と多摩川台古墳群。住宅地の久が原・田園調布。また糎谷・蒲田・矢口・下丸子をはじめ、多くの町工場がある。上空から図面を落とすと、翌日には製品ができあがるともいわれており、日本の最先端工業技術を支えている。このような大田区は、「日本の縮図」ともいわれている。

### 2 目的と開催趣旨

「工場の町」の特色を活かし、区内民間工場等に従事する技術者・技能者の協力を得たものづくり学習を行う。児童・生徒のものづくりへの関心を高め、創造性に富み郷土を愛する心を培うことを目的としている。

ものづくり学習を指導した教諭等や技術者が、ものづくり学習についての体験を語り合い、学習した児童・生徒が学んだ内容を発表することを通して、ものづくり学習の教育的効果を関係者が互いに認識する。また、学校でのものづくり学習や近隣の工場などでのものづくり体験など、区のどこにいても、ものづくりに触れ、無から有が生み出されるものづくりの様々な体験を通し、新たなものを生み出す創造的な価値を一般区民に啓発するとともに、区の産業の発展と日本の「ものづくり ひとつづくり くにつくり」の世論形成の推進を図ることを趣旨としている。

### 3 実施概要

#### (1) ものづくり教育・学習発表会

自分自身の体験を振り返り、大田区におけるものづくりの偉大さを知り、地域への誇りと愛着心を高め、体験の中での工夫や創造性などの発表を通してものづくりの体験や学習を広く伝え、ものづくりへの関心を高めることを趣旨としている。小学校は、社会科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間（以下、総合）の授業でのものづくり学習の体験と、作品並びに成果、事業所での製作体験や見学の発表を行う。中学校は、技術・家庭科、総合の授業でのものづくり学習の体験、作品並びに成果、職場体験における事業所での製作体験や見学の発表を行う。小学校・中学校共に、ものづくり振興事業との関わりをもたせている。区内都立・私立高校の学習実践事例発表も行う。



小学校の発表 ↑

#### ↓ 中学校の発表



(2) 作品・体験学習展示発表

小学校児童のものづくり学習の作品や成果・実践学習内容を展示、全60校を隔年で30校ずつの作品を展示。中学校全28校の技術・家庭科作品6点の展示発表。また、中学生職場体験、区内の都立特別支援学校のものづくり教育実践、作品を展示発表。



中学校作品 ↑



← 小学校作品

(3) ものづくり体験

区内の児童・生徒を対象に区民一般やものづくり指導者等による、ものづくりの楽しさが伝わり実感できる体験をおこなう。例年、18団体程度の協力がある。企業・団体の他、区内専門学校・高等学校の参加もある。内容によって、定員制で実施している。



(4) ものづくり競技会（コンテスト）

① 技術分野…1200×210×12の一枚板の指定した材料で、自由作品製作を行う。材料は事前



に参加生徒の学校に配付され、前日までに材料取り（けがき）作業を終わらせておく。当日は材料と使用する工具を持参する。午前・午後合わせて4時間で作品を完成させる。

② 家庭分野…1100×1000の一枚の布から、A4サイズ以上のものが入る大きさの袋を製作する。使用目的が明確な作品を完成させる。素材は問わないが、持ち手は必ずつける。午前・午後合わせて3時間50分で完成させる。



4 取り組みの経緯とまとめ

この取り組みは、今年度（R3）第20回を迎える。第1回は平成14年度（H15年1月）開催。それまでは、大田区教育研究会中学校技術・家庭科研究会で、全国ものづくり競技会に準ずる取り組みができないかという思いから始まった。夏季休業中に中学校の木工室・被服室を会場にし、競技会だけで始まり、同時に中学校の体育館で作品展示を行うことに、さらに体験などが加わり、池上会館展示室を会場にするなど、規模が大きくなった。有線コントロールによるロボットコンテストが行われたこともある。現在は、大田区産業プラザ「PiO」の大展示場と2階展示室が会場で行われ、大田区教育委員会主催の行事へと発展してきた。R3年1月開催予定だった、R2年度第19回は、新型コロナウイルス感染症拡大対応のため、中止となった。R元年度第18回は、参加・入場者総数6000人を超えた。当日は目的の体験をするために、開場前から並ぶ児童・生徒や、競技会に3年間続けて参加する生徒がいる。このように、ものづくりへの興味・関心、社会・産業の理解によって、ものづくりの大田区らしい行事へと発展してきた。今後も、様々な機関と連携し実施していく。（令和4年1月15日（土）に第20回ものづくり教育・学習フォーラムは、発表会と展示会を行わず、体験会と協議会の縮小で行われました。）



## 栄養専門学校における基礎学力定着の取り組み

学校法人後藤学園  
武蔵野栄養専門学校長 久保 淳

### 1 はじめに

近年、4年制大学をはじめ多くの短大・専門学校において、基礎学力に課題のある学生が一定程度存在している。そのため各学校の研究レベル、実務レベルに到達できるよう学内で特別な授業が行われている。本栄養専門学校でも平成26年度より、カリキュラムの一環として「基礎学力演習」を立ち上げ、課題のある学生をピックアップし、選択講座として設定した。今年度より、より学生に直接的な実務能力の成長につながるよう方法を大きく変更した。

### 2 ねらい

これまでの基礎学力演習講座は数学(計算実務)国語、化学の3科目で実施してきたが、栄養士の職務として最低限必要な実務を身につけさせるためには、より基礎的な計算実務に特化することが効果的であると考えた。これまでの方法を見直し、より学生に実効性のある基礎学力演習講座を提案した。

＜基礎的な計算実務＞

- ① 加減乗除、小数・分数
- ② 単位の認識(重さg、量ℓ、長さcm、時間分)
- ③ 百分率、割合、四捨五入、切上げ、切捨て
- ④ 平均値、BMI、カロリー計算
- ⑤ これらが複合された文章問題の認識。言葉を数式に置き換える認識、用語の認識

### 3 課題

対象となる学生は、基礎的な計算実務に難がある。これらの学生に百分率の問題ができないからそれを繰り返しやらせるとか、文章問題を数多くやらせるでは、根本的な解決にはつながらない。

数学の学習は積み重ねであり、積み重ねた知識を応用できるようにする学問である。どの段階で躓いているかを明らかにし、その部分を根気強く学び直し、きちんと理解させ次に進むことが彼らにとっての救済策である。

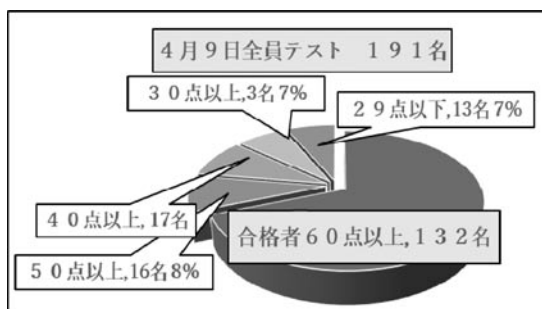
### 4 「ベーシック」学び直し授業の導入について

都立高校の中には、“エンカレッジスクール”という名称で「学び直し」を積極的に行っている学校がある。(秋留台、足立東、東村山、蒲田、練馬工業、中野工業)20年ほど前、私は赴任していた学校でその立ち上げにかかわった。「学び直し」を実践するにあたり、生徒たちの課題は多々ある中、「数学が小学校レベル」「分数、小数が分からない」など数学での躓きが大きな課題であることがわかった。

今回、本校の基礎学力演習講座にこの方法を取り入れた。教材(毎回のプリント内容)については栄養士必須の基礎学力となるものを想定し、新たに作り上げた。学生への共通した指導、統一された教材などにする事で、教員の負担感を減じることにもつながると考えた。また一つの講座に学生数を20名以下に絞り、担当者を4名にすることで、きめ細かく学生と接することが可能になり、学力向上におおいに変化が見られ事が期待できる、と考えた。

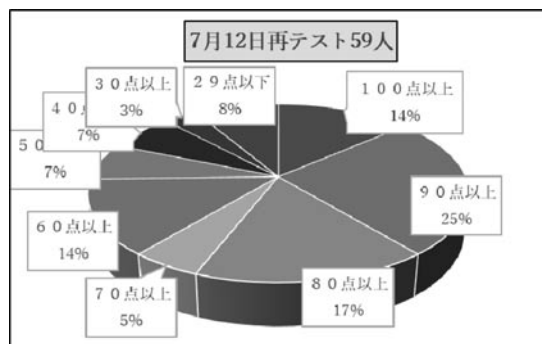
### 5 結果

4月9日に1学年191名全員に基礎学力テストを実施した。下記の円グラフはその結果である。100点満点のテストを行い、60点以上を合格、59点以下の学生を不合格とし、この59名の学生を今回の基礎学力演習の対象者とした。この59名



を3クラスに分け1クラス20人程度にした。指導教員には、各クラス4名配置した。1枚のプリントが出来たら、近くにいる教員に持っていき、○付けをしてもらう。教員にはあらかじめ解答されたプリントが準備されており、それを見ながら○付けをする。どの教員が対応してもできるように配慮した。また間違えた箇所はどこで間違えたのか、どこがわからないのか、親身になってアドバイスするなど、90分間の授業があつという間に終わるほど学生たちは集中し取り組む姿勢を見せた。

「1整数のたし算」から始まり、「11栄養に関する問題」まで60枚のプリントを12回の授業で完成させることを目標としたが、進捗についてはばらつきが多く出、早いものは9回目の授業で完成する学生が出る一方で、かけ算・割り算で難を示す学生も出た。様々な状況となったが、12回目の授業で4月に行った基礎学力テストを再度行わせた。もちろん学生には事前に4月と同じ問題を出すことは言わずに行った。その結果が下記の円グラフである。59人の4月の平均点は39.8点だったものが、今回は76.4点、また14名の学生が100点満点を取るなど驚異的な向上を見せた。4月当初出来なかった問題が3カ月の基礎学力演習を繰り返して行うことで、解き方を忘れていたことを再確認できたことや、小学校の時に解き方



をあいまいにしてきたものをきちんと理解することが点数の向上に結び付いた。特に「割合」の問題は解き方がわからない学生が多くいたが、解き方を繰り返して説明し、その結果理解できる学生も多く出た。しかしながら、今回のテストでも60点以下の者が14名ほど出、学生によっては4月と同様の点数となる者もいた。残りの3回の授業については、60点以下の学生を対象とし人数に絞り、躓いている箇所を具体的に、マンツーマンで対応する予定である。

## 6 まとめ

栄養士の業務内容に「栄養価の計算」「食料量の大量購入」など計算事務が必要な場面が多々ある。最近では栄養価の計算は専用のソフトがあり、パソコンで対応していると聞く。便利になっていく半面、基本的な考え方、単純計算は避けては通れない必須の資質となっている。今回、新たな試みで「ベーシック方式」を取り組み、ある程度の成果も出ていることから、次年度も継続して実施する予定である。携わった教員からも「学生の取り組みが良かった」「学生がどこで躓いているかわかった」「今まで担当になった者が教材を作っており、その手間が省けた」などの声が聞こえた。また学生からも「こんなに集中できたのが嬉しかった」「小学校の算数を思い出せた」「出来ると楽しい」という言葉が漏れ聞こえてきた。今後も教員からの意見、学生からの意見も取り入れ、方法などより学生の資質向上につながる内容を検討していきたい。さらなる研鑽を積む所存である。





## 【インタビュー】

# 東京オリンピック女子レスリング金メダルを獲得して

安部学院高等学校

令和3年8月1日～7日に開催された東京オリンピック2020のレスリング競技で安部学院高等学校の卒業生2名が見事金メダルを獲得しました。そこで、安部学院高等学校にインタビューをお願いしました。(事務局)



向田真優選手  
女子フリースタイル53kg級金メダル  
2016年3月 安部学院高等学校卒業

### 1. 金メダルを獲得した時、どのようなお気持ちでしたか？

抱き続けてきた夢が叶った瞬間で、一言では言い表せませんが、嬉しさ・喜び…最高の気持ちでした。

家族を始め、これまで指導してくださった方々への感謝の気持ちを感じました。

### 2. 色々な困難を克服して金メダルを獲得しましたが、どのような気持ちを持ち続けたのですか？

「オリンピック…、それも日本で開催される大会」は特別なもので、「必ず自分が出場して、金メダルを獲得したい」という強い気持ちを持ち続けていました。

### 3. 次の目標は何ですか？

2024年に開催予定のパリオリンピックに出場して、金メダルを獲得することです！

### 4. 安部学院での高校生活はどのように過ごしましたか？

学業とレスリングの両立を考えて過ごしました。学業面では、通常の授業を受けることと、商業科の学校ということから色々な検定を取得することにも頑張りました。

修学旅行・体育祭・球技大会…という学校行事も友人とともに楽しみました。

レスリング競技面では、専用の道場が備えられた環境の中で、練習に集中して打ち込むことが出来、多くの大会に出場して、戦績を残すことが出来ました。

### 5. 現役の高校生に伝えたいこと（メッセージ）は何ですか？

私が高校生だった時は、「オリンピックに出場して、金メダルを獲得する」という夢・目標を持ち続けていました。

どんなことでも良いので、「夢・目標」「自分が集中して打ち込めること」を持ってほしいと思います。

### 6. 金メダルを獲得して、今思うことは何ですか？

「母国開催のオリンピックで金メダルを獲得」という長年の夢を実現することが出来、喜びや達成感を感じています。

家族を始め、これまで指導してくださった方々への感謝の気持ちを改めて感じ、恩返しをすることが出来たと思います。

### 7. 小さい頃から親元を離れ、JOCエリートアカデミーでハードな練習に耐えてきました。

そんな向田さんにとって、安部学院での高校

### 生活はどのようなものでしたか？

質問4の回答に準じます。

#### 8. 決勝戦は0-4から逆転しましたが、どんなことを思って跳ね返したのですか？跳ね返すことが出来たのはなぜでしょうか？

終盤に逆転されて敗れることもありましたが、自分の戦い方は、「先取点を取って、試合を展開していく」というものです。

レスリングの試合時間は前半・後半3分ずつ…と限られたもので、決勝戦は、「相手選手に先行を許す」「自分は無得点」という厳しい状況でしたが、あの時は不思議と焦ることなく、落ち着いて試合を進めることが出来ていました。

4-4の同点に追いつくことで、自分の優勝となりますが、「5-4と逆転した形で優勝を決めたい」と思いながら、戦っていました。



須崎優衣選手

女子フリースタイル 50 kg級金メダル  
2018年3月 安部学院高等学校卒業

#### 1. 金メダルを獲得した時、どのようなお気持ちでしたか？

ずっと追いかけてきた夢が叶った瞬間だったので、本当に最高の気持ちでした。

今まで私に関わってくださった全ての方々への感謝の気持ちが込み上げてきました。

#### 2. 色々な困難を克服して金メダルを獲得しましたが、どのような気持ちを持ち続けたのですか？

「絶対に夢を叶えたい、東京オリンピックに出場して金メダルを獲得したい」という誰よりも

強い気持ちがどんな困難も乗り越えさせてくれました！

#### 3. 次の目標は何ですか？

パリオリンピックに出場して、金メダルを獲得することです！

#### 4. 安部学院での高校生活はどのように過ごしましたか？

安部学院の高校生活はレスリングに没頭し、最高の仲間と共に切磋琢磨できました！

#### 5. 現役の高校生に伝えたいこと（メッセージ）は何ですか？

夢を言葉にすることが私は大切だと思っています。

私は、昔から色々な人に「東京オリンピックに出場して金メダルを獲得します！」と言い続けてきました。

そうすることによって、自分で発した言葉を耳にし、改めて夢を叶えたい想いが強くなりますし、自分の言った言葉には責任を持つと思えました。

夢を言葉にすることによって周りの方々にも沢山応援してもらい、それが本当に力になりました。今、夢や目標がある方は、ぜひ言葉にしてほしいと思います。その言霊が必ず自分の力となって帰ってきます。

#### 6. 小さい頃から親元を離れ、JOC エリートアカデミーでハードな練習に耐えてきました。

そんな須崎さんにとって、安部学院での高校生活はどのようなものでしたか？

温かい先生方や優しく面白い友達に恵まれて、唯一リラックスできる場でした。

特に担任の先生は2年間お世話になりずっとずっと応援してくれた大好きな先生です。私の東京のお母さんのような存在です！

#### 7. 開会式で旗手を務めました、その感想は？

日本チームが良いスタートを切れるよう、元気いっぱい、力いっぱい堂々と歩きました。

#### 8. 圧倒的な強さで金メダルを獲得しましたが、その力の源は何ですか？

やはり応援してくださった方々です。



## 第18回 創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長  
大田区立蒲田中学校副校長 保谷 満

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学生が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、互いの創造性を伸ばす場として開催している。

- 1 **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会  
共催 女子栄養大学  
公益財団法人東京都学校給食会
- 2 **後援** 東京都教育委員会  
東京都産業教育振興会  
東京都中学校長会
- 3 **日時** 令和3年11月20日(土)  
令和3年11月23日(祝)(都ロボ)
- 4 **場所** 大田区立蒲田中学校  
世田谷立深沢中学校(おべんとう)  
豊島区立千登世橋中学校(都ロボ)
- 5 **対象者** 東京都内中学校に通学する中学生
- 6 **内容**
  - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(基礎部門・計測制御部門・応用発展部門)
  - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
  - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
  - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
  - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
  - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)
- 7 **開催へ向けて**  
創造ものづくりフェア in TOKYO も今回で18

回を数えることとなった。昨年は新型コロナウイルス感染症対策で開催中止となってしまい、今年度においても中止か延期かオンラインか、など感染状況をさぐりながらであったが、緊急事態宣言解除、そして「何よりもものづくりが好きな生徒のため」と「ものづくりの灯を絶やさない」という先生方の熱意によって開催することができた。

そればかりでなく会場校の校長先生をはじめ、ご来賓の方や運営に当たってくださった先生方のご理解ご協力とご支援の賜物である。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に蒲田中学校会場30名、深沢中学校会場10名、千登世橋中13名の体制で進められた。

### 8 開催結果

今年の参加者は、コロナ禍における大会実施の可否、見通しも直前まで不明瞭であったため、参加者は例年よりやや少ないものとなり、また、保護者の見学も控えていただいた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

<関東甲信越大会に向けての予選大会>

○「創造アイデアロボットコンテスト」

・基礎部門:「Ace in the hole」というタイ

トルで制限時間内にプールスティック8本をアイテムとして自陣の中央スポットにシュートしていく競技である。アイテムを正確に場所に立ていくための操作、技を20チームの生徒が競い合った。



・計測制御部門：「ドキドキ！ロボット収穫祭」というタイトルであるが、農業従事者の減少と高齢化の解決策としてロボット技術やICTの活用で労力を省き、品質を向上させる研究が推進されていることをイメージした競技である。カラーボールを作物と見立ててコート内を往復（収穫）する競技である。24チームが参加した。

・応用発展部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作される部門で、タイトルは「ロボットレスキュー隊出動！」である。



災害時に人が立ち入れない現場でも救助活動が行えるレスキューロボットをイメージしており、競技は有線操作によるメインロボットとプログラムによる自立制御による運搬ロボットによる対戦とした。取水エリア、消化エリア、救助エリア、搬送エリア、帰還エリアとそれぞれの場所での仕事を5チームが競い合った。

○「木工チャレンジコンテスト」には示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくるために各地区から選ばれた4名が参加した。



○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、授業内・授業外部部門の合計36の作品が会場を華やかに彩った。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、30名が応募し事前審査を経て、当日は12名が参加した。初の試みとして実際の会場



での競技ではなく、事前に調理作業の動画とレポートを提出してもらった上で、



さらにオンラインを活用した60秒プレゼンテーションによる審査を行った。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール 東京地区予選」ではレポートと作品提出で30名の参加があった。

＜東京都ロボットコンテスト＞

◇東京都独自に実施しているロボコンで、例年、参加チーム数も非常に多いことから密になることを避けるため期日を別に設け、祝日に千登世橋中学校をお借りして実施した。各校、定期考査シーズンという時期にも係わらず、111チームが参加した。受験を間近に控えた3年生も多く出場し、その輝く表情からも、つかの間の休息、楽しみとなっていたのではないだろうか。

## 9 成果と課題

昨年は実施できなかったものづくりフェア in TOKYOではあるが、ものづくりへの興味関心の高い生徒はコロナ禍であろうが依然として多く存在していること、ルール次第で実際に会場に足を運ばなくても競技ができることも実証された。

しかし、やはり面と向かってお互いが競い合い切磋琢磨する形式には及ばないことも感じた。今後もルール等をさらに工夫改善し、ものづくりの楽しさや魅力をさらに高められるかを課題とする。

開催会場の蒲田中学校、深沢中学校、千登世橋中学校、共催の女子栄養大学、東京都学校給食会にご協力を仰ぎ、そして全日本中学校技術・家庭科研究会平松功治会長を始め、多くのご来賓の皆様にも応援に駆けつけていただいた。

さらには、東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会からも表彰状をいただき感謝申し上げる次第である。

# 第31回全国産業教育フェア埼玉大会 さんフェア埼玉2021

事務局

第31回全国産業教育フェア埼玉大会(さんフェア埼玉2021)は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、会場での参加は、事務局及び各種コンテスト等の関係者のみとして、10月30日(土)にインターネット主体で開催されました。

1 期日 令和3年10月30日(土)

2 会場 ウェスタ川越、埼玉県立川越総合高等学校

### 3 開催内容

(1) 総合開会式・総合閉会式(オンライン配信)

(2) 作品展示(HP配信)

内容: 専門高校等で学ぶ高校生が実習や課題研究等において制作した作品及び研究成果

参加校: 東京都立新宿山吹高等学校

(3) 体験コーナー(招待制) ※川越市内の小中学生対象

(4) ネット販売

内容: 専門高校等で学ぶ高校生の実習等において制作した作品、製品、生産物及び実習取扱商品等の販売

参加校: 東京都立芝商業高等学校 ポン菓子「う米」3個セット、豆と野菜でつくった池田の豆乳スープ

(5) 作品・研究発表(オンライン配信)

(6) 意見・体験発表(オンライン配信)

(7) 文部科学省事業発表会(オンライン配信)

(8) 参加・交流イベント(オンライン配信)

(9) ファッションショー(オンライン配信)

(10) 彩の国商業高校生渋沢栄一シンポジウム(オンライン配信)

(11) 競技大会等

ア 第20回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト(オンライン配信)

イ 第29回全国高等学校ロボット競技大会(オンライン配信)

ウ 第41回全国高校生プログラミングコンテスト(オンライン配信)

内容: 工業に関する学科を中心とした専門高校等の生徒によるプログラミングを競う全国大会

参加校: 東京都立多摩工業高等学校 2位(電気科3年 大賀朋希、今野涼介、佐藤優澄)

エ 全国商業高校生リテールマーケティング・コンテスト(オンライン配信)

内容: 商業に関する学科を中心とした専門高校等の生徒によるリテールマーケティングに関する知識・技術等を競う全国大会

参加校: 東京都立芝商業高等学校、東京都立千早高等学校

オ 全国高校生クッキングコンテスト(オンライン配信)

カ 全国高校生介護福祉研究発表会(オンライン配信)

キ 夢の電車イラスト・アイデア弁当コンテスト(オンライン配信)

(12) 第63回全国産業教育振興大会(オンライン配信)

## 第 63 回全国産業教育振興大会（埼玉大会）

第 63 回全国産業教育振興大会（埼玉大会）は、参集型開催をせず、産業教育の振興のための決議を  
書面で行うことと致しました。決議文は、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校の一層の充実・発  
展に全力を尽くして取り組むことを謳っています。

### 【決議】

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以  
下「専門高校等」）は、職業に必要な専門的知識、技術・技能を身に付けた人材、及び職業との関連を  
深めることで社会において求められる人材を育成・輩出することにより、我が国の社会や経済の発展に  
大きく貢献してきた。

今日、我が国では、AI や IoT などの技術の急速な発展により、産業構造も大きく変化するとともに、  
併せてグローバルな競争も激化してきている。それに伴い、職業に必要とされる知識・技術も高度化し、  
これに対応した人材の育成が喫緊の課題である。併せて、少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少、  
若年世代の地方から大都市圏への流出による地方経済の縮小、深刻な人手不足など、多くの課題も抱え  
ている。さらに、昨年来からの「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大により、経済活動をはじめと  
して社会全体が危機的な状況に直面し、教育活動はもとより、生活様式や就労形態などの社会システム  
全体が大きく変わらざるを得ない状況となっている。さらに、その長期化も懸念されている。

このような状況の中、我が国が将来にわたり発展・繁栄し、豊かな社会を築いていくためには、自らの  
将来の仕事に対し、明確な目的意識を持って専門高校等で学ぶ生徒達の力は必要不可欠であるとする。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校等の一層の充実・  
発展に全力を尽くし、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体  
等におかれては、我が国の持続的な成長・発展に欠かせない専門高校等の充実・発展に格段のご理解と  
ご支援をお願いする。

一、新学習指導要領の趣旨を実現するための教育施設・設備の整備及び ICT 教育環境の整備をするため、  
地方財政措置の拡充及び私立学校に対する国庫補助の充実、並びに都道府県等における計画的整備の推  
進

一、専門高校等における教育を充実させるため、地域や企業、関係機関との連携などの特色ある教育活  
動、資格取得等のための検定試験、各種発表会やコンクールなどへの支援

一、少人数指導を可能とする専門教科担当教職員定数の改善、養成・採用・研修等の充実、社会人実務  
経験者の積極的な任用など、専門高校等における教育実施体制の充実・強化

一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への雇用機会の拡大、女子採用の促進、学業を優先した健  
全な学校教育を担保する地域の実情に応じた就職制度の適切な運用

一、専門高校等での学びを積極的に評価する大学等入学者選抜の実施・拡大、高等学校専攻科からの大  
学等への編入学の積極的受入

一、専門高校等の生徒（専攻科生徒を含む）の保護者の経済的負担軽減を図るため、就学支援の充実及  
び大学進学後の奨学金の拡充・充実

一、専門高校等についての理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援、中学校における技術、  
家庭の免許を持った教員の配置拡充、専門高校等と小・中学校及び大学等との連携した取組の推進とそ  
の支援

一、小・中学校や高等学校における職場体験活動やインターンシップ活動等の体験活動を取り入れた  
キャリア教育の一層の推進とコーディネータの配置等の支援

以上決議する。

令和 3 年 10 月 27 日

第 63 回全国産業教育振興大会（埼玉大会）

## 江戸川・葛飾 企業・専門高校・中学校・都産振懇談会

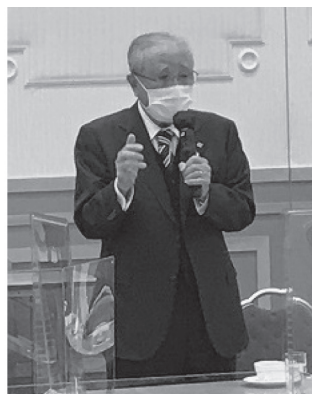


「江戸川・葛飾 企業・専門高校・中学校・都産振懇談会」が令和3年12月3日（金）午後3時～5時、タワーホール船堀2階「瑞雲」において開催されました。

この懇談会は、地元企業の魅力を地域の専門高校及び中学校に伝えることにより、「中学校→専門高校→地元企業」への若者の流れを構築することを目的として、東京商工会議所江戸川支部・葛飾支部が主催して、江戸川区・葛飾区の企業・専門高校・中学校の代表者及び東京都産業教育振興会事務局が情報交換・意見交換を行ったものです。参加者は20名でした。

○はじめに、東京都産業教育振興会副会長・東京商工会議所葛飾支部副会長の金子昌男様（カインズ株式会社相談役）からご挨拶とこの会の趣旨について説明がありました。

○続いて、企業側から西野輝彦様（(株)イチグミ代表取締役）、杉山博己様（(株)不二製作所代表取締役社長）、塩井薫様（松川電気（株）取締役会長、本会会員企業）、芦澤唯志様（(株)ツバサ・翼学院グループ代表取締役、本会会員企業、本会



金子昌男副会長

監事）の4氏が、活躍している社員の事例や、中小企業で働くメリット等の発表をしました。

○次に、専門高校側から穂積振司校長（東京都立葛西工業高校）、昼間一雄校長（東京都立葛飾商業高校）が高等学校の進路指導の現状、企業に求めるもの、専門高校のメリット等の発表をしました。

○また、中学校側からは、茅原直樹校長（江戸川区立二之江中学校）、沢田秀夫校長（葛飾区立新宿中学校）が中学校における進路指導の現状等の発表をしました。

○続いて意見交換とまとめを行いました。

<主な意見>

- ・中小企業では新入社員の適性をよく見て、適材適所の配置をしている。また、新入社員に寄り添い、時間をかけて人材育成をしている。
- ・専門高校の生徒の長所は素直さ・真面目さ。企業には、仕事内容や働きがい、やりがい、雰囲気の良い、若い人がいるかななどを重視。
- ・中学校の先生方にも専門高校を見に来ていただきたい。研究会の場所貸しなども受けている。
- ・中学校では、コロナ禍もあって、企業の職場体験・経験から学ぶ機会が少なくなっている。また、専門高校を知る教員や保護者が少ないので、専門高校を選びにくい現状がある。
- ・若い方々がやりたいことを見つけ、仕事に手ごたえをもてるよう、企業と学校が連携して支援することが必要である。
- ・地元を愛し、地元に貢献する人材の育成が必要である。
- ・このような機会は重要であり、継続して開催して欲しい。

○初めての取組でしたが、企業と学校がお互いをよく知る機会となりました。東京都産業教育振興会として今後もこのような取組を支援していきたいと思えます。（事務局）

## 報 告

## 令和3年度 総会・講演会 報告

令和3年度の東京都産業教育振興会総会及び講演会は6月29日（火）に、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、全商会館に来賓及び役員のみが集合して、会員の皆様はオンラインにより参加するハイブリッド形式のオンライン開催とさせていただきます。



総会の開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の谷恵理子都立学校教育部長から挨拶がありました。続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長の小堀卓二様（東京都立農芸高等学校長）、東京都中学校長会会長の新井紀昭様（練馬区立上石神井校長）からご挨拶を頂きました。



次に西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の10件の議案等を提案いたしました。

会員各位の慎重なる御審議の結果、報告事項4件及び議案6件は原案通り承認されましたので御報告いたします。

- ・報告事項（1）令和3年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項（2）令和3年度 教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項（3）令和3年度 産業界会員功労者永年会員）の表彰について  
○今年度は該当なし
- ・報告事項（4）東京都産業教育振興会のロゴマークの商業登録について
- ・第1号議案 令和2年度事業報告（案）
- ・第2号議案 令和2年度決算書（案）
- ・第3号議案 令和2年度監査報告
- ・第4号議案 令和3年度東京都産業教育振興会役員（案）
- ・第5号議案 令和3年度事業計画（案）
- ・第6号議案 令和3年度予算書（案）

総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。続きまして、本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁（留任）

副 会 長 金子 昌男（留任）

同 小林 治彦（留任）

同 高石 公一（新任）

（東京都立第四商業等学校長）

理 事 長 藤田 裕司（留任）

常任理事 谷 理恵子（留任）

同 落合 真人（留任）

総会終了後、講演会を開催しました。

演題：「近代日本社会の創造者 渋沢栄一をさぐる」

講師：井上 潤 氏

公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行

理事・渋沢史料館館長

出席者は39名でした。





## 講演会・講演要旨

### 「近代日本社会の創造者 渋沢栄一をさぐる」

講師：井上 潤 氏

公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事  
渋沢史料館館長

只今ご紹介賜りました、渋沢栄一記念財団渋沢史料館の井上でございます。本日は渋沢栄一という人物について掘り下げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、今、司会のほうからご案内ありましたとおり、2024年の上期に渋沢栄一肖像の新しい1万円札が発行されます。そして、大河ドラマの主人公にも決まるということで今本当に注目を浴びているような感じでして、私もほぼ毎日のようにどこかしこで渋沢栄一について語っているところです。そういった時だからこそ、改めて渋沢栄一という人物の真の姿、実像を、しっかりお伝え出来る良い機会が巡ってきたというふうに思っている次第です。



2018年にこの写真を私どもの館から国立印刷局にお貸したところから今日のブームといえますか、大注目がやってきました。その渋沢栄一について真の姿を探っていくということなんですけども、多くの事績を残した人ってということではよく存じ上げられている方多いかと思うのですが、あれをやりました、これをやりました、という話ではなくて、むしろ何故そういうことに手をつけた

のか、そういうところに目が向いたのか、そういうことを成し得た人なのか、何故そういうふうになっていったのか、というようなところからまず見ていきたいと思えます。いわゆる人間形成、渋沢栄一の人間形成というところからであります。

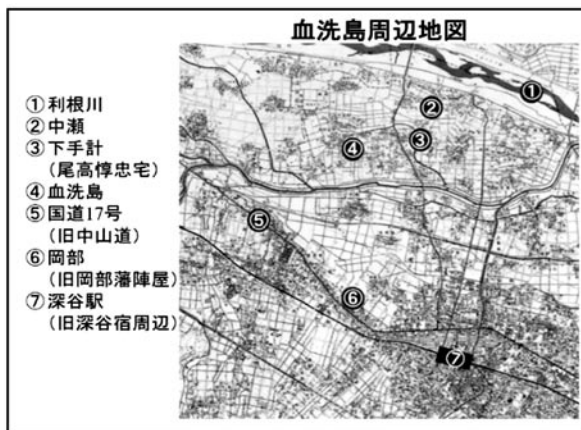
#### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

- ・生まれ育った地域の特性、そして家  
交通の要衝の地に挟まれ、貨幣経済が浸透した地域  
(先進性を帯びた地域)
- 由緒、家格、経営面において村内で中心をなす家  
地域のまとめ役をなす家
- ⇒ 当時の環境と実践の中で取得した経済観

往々にしてそういった部分を語る上においては、渋沢栄一の父親・母親の遺伝子、DNA、この影響というのは一番の強い要因になっていると思えます。それなくして渋沢栄一という人物は生まれてこなかったかもしれませんが、それだけに限らず、生まれ育った環境、これが渋沢栄一という人物をやはり育てていった、また創り上げていったと思えます。そういったところからお話をさせていただきたいと思えます。

まずは生まれ育った地域、そしてその家というようなところになります。渋沢栄一が、生まれましたのは1840年、天保11年、江戸時代もう間もなく終わりを告げようかというような時に、この世に生を授かったわけなんですけども、1840年というと中国では阿片戦争が起こった年なんです。西欧列強の脅威がアジアに押し寄せてくる、また

その脅威が間もなく日本にも押し寄せてくるのではないか、というようなことで非常に不安な雰囲気が漂う中で渋沢栄一は生まれました。ちょうどその頃から脅威を何とか排斥しよう、排除しようというような思いで外国籍の人たちを排除する運動、攘夷という考え方が生まれ、そして広がりつつあったというような状況下でもありました。



渋沢栄一は、当時の地名で言いますと、武蔵国榛沢郡血洗島村というまた物騒な名前の村に生まれております。現在の埼玉県深谷市大字血洗島というところになります。群馬県との県境を接する北関東の農村地域の一農村の農家の長男として生まれているのです。農村地帯と言うと、何の予備知識もなく聞いてしまうと、農作に明け暮れし、そこで苦勞に苦勞を重ねる中において何かしらきっかけを掴んで成功に導かれていく、そんな人生が描かれるかもしれません。果たしてそうだったのかということなんですけれども、血洗島の村の北に利根川が流れています。農村地帯の中に悠然と流れる大河。当時、この川というものは、物資輸送の大動脈を成していました。まだまだ陸上輸送が盛んでないこの時期は船を使った舟運が中心でした。その折の大動脈が村の北を流れている。また川筋には、その積み荷を上げ下ろしし、それを取り扱う多くの商店・問屋が建ち並ぶ非常に栄えた町場がありました。中瀬という所に、この地域における大きな河岸がありました。まず村の北に中瀬という大きな河岸、そして大動脈利根川が

あるというところを押さえていただきたいと思います。

そして村の南に目を移すと、国道17号、これは江戸時代の中山道ですね。これも大動脈、江戸時代の主要街道の一つでもありました。その街道筋には宿場というのがあります。深谷駅周辺に深谷宿があったと想定できます。渋沢栄一が生まれ育ったころ、深谷宿の人口は約1900名とされており、本陣1、脇本陣4、そして旅籠が80数軒あって、近江商人が土着したとも言われるような問屋、商人が集結をしまして、多くの商店が立ち並ぶ、ここも非常に栄えた町場でもありました。

今申し上げた通り、農村地域にあって、交通の要衝の地であり、また地域経済の要衝の地に挟まれた場所であるということで、人や物や金が絶えず行き交う。それだけに限らず、それに付随して様々な情報が行き交うというような地域でもあったということになります。

農村地帯とは言っても、米がほとんどとれない、出来ない地域でもありました。江戸時代は主たる税を米で納める「米社会」といわれる世の中において、この地域一帯は岡部という小さな藩に属していたのですが、その領主、安部(あんべ)という領主は、米で納めることが出来ないということからいち早く金銭で税を納めるシステム、「金納」のシステムを取り入れていたので、早くから貨幣というものに慣れ親しんでいる地域でもありました。そして農家も安定した耕作地が得られないということから、これも農作だけでは生業が立たないということで、諸職業に手を出し、養蚕が非常に盛んに行われる地域でもありました。

もう一つ特徴があるのは、藍染めに使う藍の葉が多く採れる地域。武州藍というふうにいわれておりますけれども、藍の葉を買い集めて藍玉という団子状の染料を作りまして、信州・上州の紺屋(こうや)に売りに行く、これが非常に財をなす元に

なっていたわけです。

今申し上げたとおり、農業だけではなくて商業、工業、諸産業が集約するところになります。一農村という言葉で一括りに出来ない、一種独特の先進性を帯びた地域だからこそ、近代化を推進させた渋沢栄一というような人物が生まれてきたといっても過言ではないということをおさえておきたいと思います。

さて、その村の中にある渋沢栄一の家になります。血洗島村というのは大体5軒ぐらいの家で開かれたと言われています。そのうちの4軒、福島・笠原・吉岡・渋沢というのがその後も受け継がれ、その内の1軒が渋沢栄一の生まれた家です。村の中において由緒ある家として非常に重きを置かれる家でした。そして渋沢栄一の父親、市郎右衛門が村の名主見習いという役割、村全体を取り仕切るような、全体を見渡してそれを上手くリードしていくような役割を担う人であった。そういう父親の後ろ姿を見ながら育つ。そして村全体を見渡して取り仕切るだけでなく、自分の家の経営にも非常に長けた才能を発揮した人でもありました。

栄一の父親は本格的に藍玉の商売を始めまして、渋沢の生まれた家を、村で1・2を争うような非常に富裕層に育てあげた人物でもありました。とても厳格な父親だと言われています。道義・道徳を重んじて真面目に忠実に職を遂行する、それが右肩上がりでの急成長に導いていった。由緒ある家、そして名字帯刀が許される格の高い家の長男として生まれた渋沢栄一ですから、生まれた時から周りから注目を浴びる、リーダー格として育っていくような環境がそこにも存在したと思います。実際に父親が始めた藍玉の商売を、渋沢栄一も13歳～14歳ぐらいから手伝いました。

渋沢栄一の家における藍玉の商売状況を見ていきますと、いろいろなお客さんがいたというようなところが見てとれます。平均してみると、1件の紺屋での売り上げはだいたい1年で100両ぐ

らいだというふうに想定できます。取引先がだいたい100件ぐらいと仮定することができまして、1年に1万両というような売り上げをみることが出来ます。今に換算すると億に近いような年商の家柄であったということで、まさにこの藍玉の商売をもって財をなしていくところが見てとれます。

その家業は右肩上がりでも成長し続ける、またそれを着実に進めていった父親の後ろ姿、背中を見て育った渋沢栄一は、決して経済学を身に付けてそれを実践に移していったというような人物ではなくて、まさに家業を手伝う中において、実践を通して経済、商売といったものを身に付けていったと思います。

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

#### ・独特の学問享受

尾高惇忠による特徴ある読書法で培われたもの：  
旺盛な好奇心、鋭い洞察力、柔軟な思考、  
広い視野(総合的判断)

⇒ 幅広い情報収集から指針の決定  
的確な情報発信

ただ、そうは言っても、学問、教養の必要も迫られるような家柄の側面もありました。満年齢でいくと5歳～6歳ぐらいから、まず父親に漢籍の類を教わったというふうに言われておりますけども、1年ぐらい経ったところで隣の下手計村というところに10歳違いの尾高惇忠という学者肌の従兄弟がいて、その人物から教わればいいということで、毎日日参するようなかたちで、渋沢栄一は尾高の家に通って学問を教わっていくこととなります。

この尾高の読書法が、渋沢栄一の人間形成において大きな影響を与えていたということをお伝えしたいと思います。当時、読書法を授けるといって、決まった漢籍の類でもある書を素読させる。そしてしっかり解釈を加えて、一字一句暗記させるというような読書法が主だった中において、尾

高は「ここからここまでのことについてはだいたいこういうことが書いてある」と言い、概要を伝えます。あとはしっかり自分で読んで理解を深めるというふうにしたのです。それは、講義を聞いてなんとなくわかったような気持ちで先へと進むのではなくて、自分でそれを徹底的に追求し続けて、わからないことがあれば自分に質問すればそれについては答えるということで、そういう読書法を授けて、まずは自分の力で内容を読み解いていく、理解を深めていく、そういうふうな手法をとっていた。そしてもう一つは、とにかく前へ前へと進む、次から次へといろいろなものに目を向けさせるといような読み方をしていった、数多くの文献に触れさせるといような読み方をしていったというところがあります。与えられた漢籍の類だけではなくて、興味関心のあるものだったらなんでもいいぞといようなことで、多くの文献に目を向けさせた。渋沢栄一も非常に読書好きだったので、貸本屋などに足を運んで、南総里見八犬伝のような小説の類も読みました。中国や日本の歴史書の類も数多く読んだといようなことを言っております。また、生まれたときに攘夷といような考え方が徐々に広まりつつある世の中において、攘夷に関する文献に徐々に染まっていくといようなことが見てとれます。

いろいろなものに目を向けさせたこの読書法が、どういうふうに渋沢栄一に影響を与えたのかといのと、あれも知ってやろう、これも知ってやろう、聞いてやろうといような、非常に旺盛な好奇心が養われていったところがあると思います。そして、いろいろなものに目を向ける中において、これはというものをきちんとつかむ、見抜く、そういう力、鋭い洞察力が培われていった。そして、いろいろな分野の情報に目を向けられるようなことになって、それについて柔軟に対処できるべく、やわらかい頭が備わっていった。そして最後に、やはり広くいろいろなものに目を向け

る。一点を深く追及し続けるのではなくて、ちょっと頭を上げて周りを見渡す、そういうような広い視野を持つ、その広い視野のなかで得られる幅広い情報のなかから総合的に自分なりの指針を導き出すといような判断基準が得られていった。そういうような人間形成がされたからこそ、後の多くの事績にうまくつながられていったのではないかなと感じる次第です。

渋沢は学問好きが高じまして、いろいろな分野にも目を向け始めました。そしてさらに深めたいといことで、江戸への遊学を父親に談判して認めてもらうことになります。海保漁村とい漢学の塾に学びました。また、千葉栄次郎が開いたといわれる道場で剣術を学んだりもしています。より深く学問を追求する、そして剣術を習って強くなるといような気持ちがあったのは間違いないところですけども、それ以上に、渋沢からすると、一地域で思い描いている自分の考えをいろいろなところからいろいろな考えを持った人たちが集まってくる塾や道場において意見交換をする中で、自分の考え、血洗島周辺で思い描いていた考えの位置づけをきちんと標準化できるといようなところもあって、この遊学を願い出たと思えます。いろいろな人との交流のなかで思い描いたのは、同じような思い、同じような考えを持つ人たちがずいぶんいるのではないかと。なんといっても攘夷の考え方、特に経済的な観点からの攘夷思想というのが強く意識の中に芽生えていました。

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

#### ・不条理に対する反発

「官尊民卑の打破」の芽生え、経済的観点からの攘夷

\* 合理主義(近代)的思考・未来志向の醸成

⇒ 暴挙の企て、そして中止

(高崎城乗っ取り、横浜外国人居留地の焼討ち)

もう一つは士農工商という身分制度に関連してのもので、事あるごとに領主から御用金を仰せ付けられる。税は税として納めているが、それ以上に、特に富裕層を狙い撃ちするようなかたちで、いとも簡単に日頃から汗を流して得られた益を搾取される。武士・役人が、ただ身分に甘んじるだけで、自分たち生産者側の努力をまったく無視したかたちで搾取する、これに非常に不条理なものを覚えてしまいます。官が尊ばれて民間が蔑まれる、そういう世の中をなんとか打ち破らなければいけない、そんな思いがどんどん強くなっていきました。このへんのところ、やはり近代化を目指す渋沢の未来志向の醸成というのがみとれます。

その不条理なものを排除していこうということで、江戸で知り合った仲間、そして血洗島周辺の仲間を募って、何か行動を起こそうと考え出されたのが高崎城の乗っ取り、そして横浜の外国人居留地の焼き討ちというような計画でした。尾高惇忠という学問の師の屋敷、その二階で議論を戦わせました。学問の師匠・尾高惇忠、従兄の渋沢喜作というような人物もそれに参加していました。だいたい70名くらいで行動を起こそうということになりました。

父親が得た利益、それをごまかすようなかたちで、だいたい150両くらい騙し取って、江戸へ出たときに武具を調達して、先ほど言った中瀬の河岸まで運び込んで、蔵の中に隠し、着々と準備を進めました。そういった中において、従兄の尾高長七郎という人物から問題提起をされました。同じような思いをもって、同じような行動をした人たちが幾人も見てきたが、それによって世の中が改まったとは思えない。攘夷も意を表されているとは思えないというところで、何が行われたかという、そういう行動に出た人たちが無駄に命を落としているところしか見てこなかったと。その問題提起にて、情報というものに敏感になってい

た渋沢は、やはり一石を投じて何かしら波風を立てさせて影響を与え、今後より良き道に進むのではないかというように思っていたけれども、そこで命を落としてしまって、本当に自分たちの思い描くような世の中に導けるのかということに疑問を感じた。そこで冷静になり、そうであるならばここで命を落としてその姿を見ずにして終わるのではなくて、本当に望むところは、この体制の中にどんなかたちでもいいから残る、生き残る。そういう中において自らが世の中を改める、という考え方に至り、結局のところは暴挙を中止にしていきました。そうはいつでも当時の警察権力からはもう目をつけられていました。しばらく身を隠さなければいけないということで、喜作とともに出奔したのです。

渋沢は出奔して村を出るのですけれども、ただ農民の姿で身を隠すといってもすぐに捕縛されて命を落としてしまうかもしれないということで、一案を講じました。江戸に遊学しているときに渋沢たちに目をつけていたのが一橋家の用人だった平岡円四郎という人物です。自分の家来にならないか、ひいては一橋家の家臣になれということをお願いしていた。それをずっと断っていたのですけれども、いざ自分たちが根無し草のような状態になったところに鑑みると、その誘いをうまく活用しようということで、平岡の屋敷を訪ねて、まずは家来という、いわゆる名目をもらう。また腰に日本刀を二本差して、武士の格好をして西へ西へと旅をしたのでした。

そしてたどり着いた京都において出会ったのが、一橋家当主であった慶喜です。正式に家臣となり、そのあといろいろな役割を忠実にこなしていく。そして能力の高さを認められ、本当に目をつけられていきます。一橋慶喜は、当時、禁裏御守衛総督という御所を守る役割を担っていましたが、兵力を増強させなければいけないということで、渋沢は、まず領地内の農民に声をかければ充

分兵を集めることができると、自分はしかも農民出身であるし、それに役割を与えてもらえればお互いの気持ちを通じ合っ、その役割を果たせませよ、というようなことを進言しました。自己アピールもあって人選御用の役割を担わせてもらいました。その人選御用では、平岡からつけてもらった渋沢栄一改め篤太夫、渋沢喜作改め成一郎の名前が記された「持触」という書類を持って、領地内を歩いて行きました。

渋沢は、行く先々においていろんな難題に直面します。無視されるようなところもありました。それをきちんと紐解いていって、原因を追究し、説得し、なんとか農兵の募集は成功裏に導けました。

ただ、与えられた役割を担うだけではなかったのです。渋沢はやはり情報に敏感であるということで、行く先々においていろいろなところに目を向けています。最初、関東一円を巡ってまいりましたが、そのあと西のほうの領地にも行きました。今の兵庫県、播磨の国において、木綿が多く採れる地域があり、一橋家の領地内の農民は、大阪の商人と直取引をしていて、安く買い叩かれている。ちょっと目を転じると、姫路藩は藩としてひとつの仕法を組み立てていて、農民からそれなりの額で買い取っている。そうすると農民も生産意欲が湧いてより質の高い大量の木綿を採取できる。同じように手掛ければ、一橋家用の質の高い大量の木綿、それが特産になるのだということを説明するわけです。それによって地域が盛り上がる、栄える。また一橋家の財政を潤すことになるのだと進言をしました。

また、米の質が高い。年貢米として全部流すだけではなくて西宮、灘といったところに有望な酒造家がいる。その酒造家に売るということを考えればさらにその酒造業が発展し地域が栄える。そして一橋家の財政を潤す。硝石という火薬の製造所をしっかりと作って商品化、製品化することに

よって財政を潤すことになるということで、財政政策案を次から次へと立案していく。財政政策をしっかりと理解していて、非常に優秀な人物であるということで、どんどん重用されていきました。

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

・渡欧体験 ⇒ 思想の転換、「新社会」との出会い  
西洋の生活習慣に触れる  
開削途中のスエズ運河の大工事：「公益」を感じる  
整備されたインフラ等視察：「合本法」を知る  
パリ万博を観る：盛大さ・各国の出品物に驚嘆  
日本の出品物の好(高)評価に喜び  
ベルギー国王のトップセールス：真の国力の意味を感じる

⇒ 人生の大転換点

そうこうしているうちに慶喜が15代将軍になります。慶喜による将軍職務が扱われるその前から、1867年パリの万国博覧会が開かれるということでナポレオン3世から招請状が届いておりました。

使節団を派遣する、出品をするに当たり、慶喜が国を離れることは非常に危険であるということで、水戸にいたまだ13歳14歳に満たない弟・昭武を名代に立てて、使節団を組むことになりました。その使節団の庶務・会計係として渋沢栄一が抜擢されましたが、非常にいいポジションを与えられたと思います。

ただ、ついこの間まで「攘夷、攘夷」と、外国籍の人を見たら切り捨てるのだ、みたいなことを言っていた渋沢なのですが、「ヨーロッパに行け」と言われると、「はいわかりました。」とすぐに受けているところが、なにか節操のない人物にも見て取れるかもしれません。けれども、その辺が先ほどの尾高の学問享受を経た影響かと思われませぬ。柔軟な頭の持ち主として、いつまでも過去の考え方に縛られるのではなくて、いざ体制の中に残ってよりよい社会を築こうと思った時には、より先を行っている先進国の文明文化にも触れてみたいというような思いに駆られるようになって

いるところもありまして、思想の転換が計られていました。柔軟性という点では、現地において和装から洋装に変える、鬘を切りますが、一緒に行ったメンバーからするとそれはなかなか耐えられず、応じないところがあったのですけれども、それを率先して受けている。まさに、柔軟なその姿勢から、現地において同化する、「郷に入れば郷に従え」で、その同化する中から多くの情報が得られるのだ、そんな思いをもって、率先してこういう行動をとっています。

使節団は横浜を出発して各地を転々としつつ、2か月ほどかけてパリに到着しました。そのときの記録は、『航西日記』という形で明治になってから出版されますけれども、そのときの記録を読んでいくと出発準備の様子から船の中での様子、ヨーロッパ滞在中の様々なことが書かれています。

その中において一つご紹介したいのは、スエズ運河に差し掛かった時のことです。彼らが通過したときには、スエズ運河はまだ開通してなかったのです。スエズからアレキサンドリアという所まで600キロほどの距離を、鉄道で移動しています。こんな輸送・交通手段を、ゆくゆくは日本にも必要なんだということを強く感じています。渋沢の事績を見ていただいても、いち早くその鉄道の敷設などにも着手しているところからすると、そのときの影響が強かったと思います。その車窓から見えた大工事、これはどこの国の政策かと思って見ていたようすけれども、これはレセップスというフランスの人物の会社が請け負ってやっている仕事だということがわかります。大資本家の事業主は日本にもいました。ただ、その一事業主がこういう事業を請け負ったところで自らの資本だけでこれだけの大事業はなかなか成し遂げることは出来ない。多くの人から資本を募る、それを集めることによって大資本化をはかり、組織体を作り、それがこういう事業を成し遂げられる基になっている。それは一事業主の事業ではなく、多

くの人々の事業として位置づけることが出来る、そういったところにも目を向けていました。

もちろんこれを引き受けたレセップスに大きな利益をもたらすことは当然のことではあるのだけれども、それ以上に、これが開通した折には、全世界のありとあらゆる人に大きな利益をもたらすのだということを渋沢は感じます。ヨーロッパからアジアに移動するにあたっては、当時はアフリカ大陸をずっと巡っていかなければいけない。その時間、労力、経費それをいかに削減出来るか、大きな利益をもたらせる基がここにあるということで、公益の追求者として後に語られる渋沢が、公益というものを意識したというその原点がスエズ運河にあったかもしれません。

パリに着きます。フリーリ・エラールという人の案内で市中をいろいろ案内してもらいました。名総領事だったフリーリ・エラール、もともとは銀行家だったのです。最初、銀行に案内されます。その他名所旧跡の他に例えば、株式取引所だとか、近代的な設備が整った病院だとか福祉施設だとか、学校教育の現場、研究所や娯楽施設等々を見てのわけです。また、道の下に道があるということで、そこにはガスというものが通っていて、そのガスによって灯される火が夜でも昼のように明るい。このような設備の必要性を感じ、また、水道設備が整っているなど、まさにインフラが整備されているところを見聞しています。ただ新しい施設、設備に目を向けるだけではなくて、そういうものがどのように経営維持されているのかというところをしっかりと学ぶところがありました。先ほどのレセップスの会社にしてもそうですが、資本を合わせる、それによって大事業がこうやって成し遂げられる。それから得られる利益を、出資してくださった方々に公平に分配される。それを渋沢栄一流に「資本を合わせる」と書いて合本の仕法、そしてそれによる合本組織が日本にも必要になってくるのだということを強く感じていました。

渋沢は、パリの万博会場にも足を運んでいます。当時としては最先端の技術、全世界から集まってきた盛大なこのお祭り、祭典というものに対して非常に圧倒されています。技術面においてはあまり関心を持っていなかったのですが、アメリカの農機具、そういった物に目を向けていました。

また、庭園部分に日本が出したお茶屋がありました。そこで非常に多くの人の目を引いたのが芸者がお茶を振る舞う光景でした。和装姿の女性に非常に多くの人たちが群がっていて、渋沢栄一は何で目が向くのか非常に驚いていたと言っています。もう一つは、出品物への注目です。例えば、浮世絵の類、陶磁器の類。日本の伝統文化というのは、初めて出品されたわけですが、非常にヨーロッパにおいて注目を浴びている、高い評価を得ている。極東の一小国の文化も決して侮れない評価、高い評価を受けて、表彰式においてもグランプリを得られるということで、渋沢栄一は喜びを待ち、また誇らしげにそれを語っています。

その後、ヨーロッパ各地を巡っています。ベルギーを訪ねたときにベルギー国王が、「これからの近代化、産業化が進められる各国において鉄が必要になってくる」「日本においてもそういう時期が来るだろう。その際には製鉄国ベルギーの鉄を買ってほしい。」と口にし、今で言うトップセールスが行われたのです。渋沢からすると国王自らが商売のことに口を出すという全く信じられないような光景がそこにありました。でも国を強くする、国力を増すということは決して政治の力、軍事の力ではなくて基盤となる経済の力、それに基づいたその産業の振興によって国力というのが増されていく。それは官も民もないんだと、一体となってそれを考える。まさに渋沢からすると理想的な姿をそこで見出しました。

本来であれば昭武の留学も絡んで4、5年向こうにいる予定だったのですが、大政奉還になって、また昭武が水戸藩を継がなければいけな

いということで帰国してまいります。

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

・民間の立場で産業振興を考える  
静岡で「商法会所」の立ち上げ

⇒日本における「合本法」の実践

最初に向かったのは静岡でした。なぜ静岡かというと、宝台院という寺院に將軍職を解かれた慶喜が蟄居状態、軟禁状態だったのです。そこで、慶喜のもとを訪ねます。無事の帰国の報告と合わせて、もう役人になるつもりはない旨、世の中を潤す基、繁栄に導く産業振興の事業に従事したい旨を伝えました。また、慶喜を本当に信奉していた渋沢からすると恩義を感じていた慶喜の身近なところでその事業に携わりたいということで静岡に骨を埋めるような気持ちでもあったわけです。

当時、新政府は各藩に貸付金をしておりましたが、静岡藩は53万両を借り受けていました。渋沢は役所に行って、年3分の利子で13カ年賦返済とのことであるが、きちんと返済する仕法を考えているのかということを探りました。そして、もし預けてもらえるのであれば、自分は合本組織による事業を会得してヨーロッパから帰国したので、その資金を元手に、一つの事業を興したいと進言しました。早速、商法会所というものを立ち上げるということでその規則書、いわゆる会社の定款のようなものを用意していたのです。その商法会所は今で言う銀行業務、商社も兼ね合わせたもので、大半は政府からの借入金で成り立っているのですけれども、静岡藩も出資し、静岡藩の市民も出資したということで、非常に原始的なんですけれどもここで会社組織的なものが立ち上がったということになります。



帰国して数ヶ月後には、こうやって具体的な形に出来るっていうところでは、渋沢栄一の能力の高さが見て取れると思います。

**渋沢栄一91年の生涯の中から  
読み取れるもの**

・官の立場での新たな国づくり  
民部省 改正掛の掛長

⇒近代経済社会の基礎づくり

その能力を放っておかなかったのが明治政府でした。明治2年11月、民部省租税正ということで、今で言う主税局長のような役割を与えられます。渋沢は租税のことを全く知らないわけではなかったのですけれども、そういう知識の無い私に役割を与えるのはいかなものかということで上司であった大隈重信に直談判に行きます。産業の振興に務めたい、静岡で一事業を行ってようやく軌道に乗りかかったところなので早く静岡に戻してもらいたいというようなことを言うわけです。けれども、大隈は大隈で、今のこの世の中において静岡で起こした事業が全国に伝播するのはとても考えられないと。そのためには今、全国においてそれが広がる基盤を整えなければいけない。政府においてそれを整えられる精鋭たちを集めているので、その1人となってもらいたいと告げ、渋沢を積極的にスカウトしたのでした。

渋沢は、役人になるということではなくて、新しい世の中をつくるのに参画できるという意味では非常に意義を感じて明治の2年から6年まで明治政府の役人として一時期を役人として過ごします。

ただそのときに与えられた租税の関係だけを担うのではなくて、精鋭たちが集まって何をするかを考えて、その為に調査をし、その調査に基づいて建議案にまとめる、実際に形にしていくというような、今でいうプロジェクトチームのような

ものを作ってもらいたいと進言しました。そうして設けられたのが「改正掛」というものであります。その改正掛の掛長として渋沢栄一は全体を取り仕切っていくことになります。

改正掛は、二年しか存続しなかったのですが、いろいろなプロジェクトに手を付けています。その二年間で扱った案件が約200件。今の我々の生活のベースになる部分は、形は後になるにしても、ほとんど手を付けたといっても過言ではない。その道のエキスパートを呼び入れて、着実に形にしていっていったようなところがあります。例えば、貨幣制度、銀行制度といったものの条例を形にしていっていったのです。また、会社を立ち上げる際に必要なマニュアル本のようなものも発刊し普及させていきました。あと生糸の輸出高が世界一位になる。安定した品質で大量の生糸が生産できるような大工場を作らないといけないということで、富岡製糸場も、改正掛の発案の下で動き出していきました。

明治の文明開化の様子を描いた様々な錦絵、そういった中で、この改正掛が成し遂げた仕事の数々が、例えば鉄道の敷設、銀行の設立、郵便の開設等々描かれています。まさにその近代国家を形作っていったところの中心を担ったのが渋沢、そして改正掛のメンバーであるということになります。

政府の中には、まだまだ富国強兵の、強兵の部分に力を入れる大久保利通のような人達がいる、とにかく各省庁から自由に予算要求をされる。歳入と歳出のバランスを考えろというのが、渋沢の考えでありました。それによって経済という基盤を確立することによって、日本というものが成り立ち、そして国際社会に打って出るということができていくんだということを強く主張するのですが、なかなかそれが聞き入れられないということで、自分の上司であった井上馨とともに面白くないということで辞表を叩きつけるような形で辞してしまいます。

## 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

### ・民間でのインフラ整備

金融基盤を確立させ、多業種の企業を設立・育成  
生涯関与した企業数：約500

### ⇒近代経済社会の基礎づくり

インフラ整備から「合本法」「道徳経済合一説」の  
実践、普及

その後ずっと民間を貫き通したということで民間の立場でインフラの設備に着手していきます。

最初に手掛けたのはやはり金融基盤。産業の振興のためにお金の流れをしっかりと確立させなければいけないと、金融基盤の確立ということで、改正掛で着手していた国立銀行条例の下で立ち上がった第一国立銀行、今のみずほ銀行になります。これの立ち上げに奔走し、非常に困難な道を歩みました。国の政策も途中で変えられたりもしましたので、資本を投じてくれた小野組が破綻したりで窮地に立たされました。出資者には、懇切丁寧に説明し、信用を得て無配の状態に耐えてもらいました。また、改革にむけて増資に応じてもらい、なんとか数年後にこれを軌道に乗せることができました。

その後、これからの世の中に必要な事業を会社組織でということ、ありとあらゆる事業に着手していきます。陸運もあれば、海運、保険、アパレル業界、そしてサービス業のようなものにまで目を向けて、本当に世の中全体を見渡して事業というものに着手していきます。

渋沢栄一が生涯関係した会社の数は約 500 といわれます。一人の人間がそれだけのものに全部目を向けることができたのか、手をつける事が出来たのかと疑問に思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、渋沢は、これら全部を自分のものにしなかったのです。独占しなかった、財閥を築こうとしなかったのです。事業自体を世の中に定着させるということが大前提に考えていたのです。優

秀な人材が育ち、事業が軌道に乗れば自分は持ち株などを売却して次の事業に投資していくという形でそれを展開させていきました。

その考え方に真っ向から反発したのが三菱の総帥・岩崎弥太郎でした。明治 11 年、考えの違いで袂を分かったというようなところもあります。渋沢は、岩崎とは私的な部分では昵懇であったと語っています。言われてみれば保険業務などは、同時に手を出して、最初から手を組んでいたところがあります。ただ、岩崎の独占をなんとか阻止しようとして、それに対抗していったところも渋沢にあったのです。

渋沢は、個別の企業を育てるだけではなくて、いわゆる企業間の意見交換の場の設立に取り組みました。それは世の中における民意の結集、世論の形成に繋がる。そういうような機関は、産業の振興に繋がるという位置づけで、今日の東京商工会議所の原型となる東京商法会議所を設立しました。その他にも、様々な団体を作っていく。個別の企業だけでない財界というものを形成していこうというところがあったと見て取れます。

### ☆近代経済社会の基礎づくり：官・民での インフラ整備 ⇒ 産業振興を目指す

↓↓↓

\* 日本の国際化と平和の推進

\* 社会福祉の整備

\* 教育・文化の整備

渋沢栄一は明治の 42 年、1909 年、古希を迎えたときに、ほとんどの役員をリタイアして後進に道を譲っていきます。ただ、そのあとも、あくまでも産業の振興を目指すということはゆるぎないところでもありました。そうしたところで何か相談事があればそれに応じていたような姿も見取れます。

実業界にいる時から、民間外交だとか、福祉だとか、教育だとか、そういう側面に目を向けて手を付けていたのは間違いありません。ウエイトが大きくなってこの三本柱が晩年の渋沢栄一の仕事となってくるところがあります。本人もそういうふうに言っています。これは産業振興を目指す自分の考えを貫き通すうえにおいて阻害する要因をなんとか払拭する、そのための事業であるというようなことでもありました。

1つは民間外交、代表的な事例として渡米実業団という51名からなる団を率いて、団長としてアメリカに渡ります。約60都市を3か月間かけて巡ります。現地の人と向かい合って語り合い、お互いの考えが理解しあえば、明治の末年にかけて非常に日米関係がギクシャクしたのですが、それをなんとか解決出来る、いい方向に導けるのだというような思いでそのような行動に出ていきました。

実際に現地アメリカの実業界においてもそれは受け入れられたのですが、アメリカにおいては移民というものを排斥する運動の中で、日本から渡った移民を全面的に排斥する排日移民法が1924年成立してしまいます。渋沢は非常にショックを受け、またアメリカとの関係を断たれてしまうのではないかという強い思いに駆られてしまいます。渋沢は、日米関係の協調なくして日本の経済発展はないということを強く思っていました。その関係をなんとか維持し続けなければいけない、改善に向かわせなければいけないということを感じていたのですが、それがなかなかならなかった。排日移民法の改正などにむけて民間の団体を組織して奔走するのですが、それが思うようにいきませんでした。

それならば今の時代だけではなくて、将来に向けてそれを担う人間に平和の念を受け継がせる、そういう行動に出た方がいいと思うようになりました。アメリカの宣教師シドニー・ギューリックが、

「日本には人形を愛でる風習があるから、子供たちに平和の念を訴えるために、人形をプレゼントしよう」と発案し、アメリカの優良人形12800体が日本に送られました。その日本側の受け入れ手の代表を務めたのが渋沢でした。それを受けて日本から1県1体を旨とする答礼人形をアメリカに送り返すということで、日米の人形交換をもって草の根の交流を図っていく、そして平和の念を受け継がせていこうという意図がありました。

#### 渋沢栄一にとっての民間外交、国際理解

- ①日本の立場・位置づけの明確化
- ②平和こそ、産業を振興し人類の幸福を増進する道
- ③人間性と正義の原則は国際関係において有効、商工業の利益と合致

アメリカだけではなくてアジアやヨーロッパの人たちとの交流も非常に盛んに行っていました。渋沢栄一からするとこの民間外交に力を入れる目的、それは当時戦争によって経済発展につながるのだということを主張する人々がいた、それを真っ向から反対するところから始まっています。なんととっても産業を振興し人類が幸福な生活を送る、その増進が図れる、その道筋をつける為にはなんととっても世の中の平和、これを望まなければいけない、そういう世の中にしなければいけないのだということを主張し続けました。だからこそ民間外交をもって、なんとか政府間レベルを補う意味で平和の念を訴え続けました。

もう1つは日本という近代国家、これが先進国とようやく肩を並べられるようになった。そういう国の位置付けを、国際社会の中に定着させたい、そういう思いからこの民間外交に力を入れていったと思います。

そして次に、取り上げるのが社会福祉事業。明治5年に、東京の困窮者を救うということで、養

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

・社会福祉の整備  
東京養育院を中心に

⇒ 偶然から必然の事業へ

育院というのが設けられます。渋沢栄一はその設立のときには係わっていないのですけれども、その2年後から財政的な面倒を見る。そして明治12年から、初代の院長となって事業全体に係わるようになっていきました。

渋沢栄一が産業の振興に奔走し続けて、それがようやく花開いて来るのが明治の20年代、30年代。数多くの会社が立ち上がり、それが軌道に乗り、経済発展が見られるようになった中において、同時に現れてきたのが貧富の差、格差というもの。日常生活についていけないような人々、地方から人々が都市部に流入する。地域における疲弊が見られる。また貧困層が町の中に溢れ出るというようなことに至って、この養育院の収容者が、スタート時点から明治の20年代、30年代になってその数が倍増してしまうことに対して、渋沢は自らやって来た経済発展の為の努力が何だったのかと自分の中でジレンマに陥ってしまいます。ようやく気付くのが経済発展の為の経済政策だけを推進させていたのではなかなか本当の意味での発展には繋がらないのだと。より良い社会を築く上においてはそこから溢れてしまうような困窮者の人達まで手を差し伸べて格差を無くしていく、全体を上手く取り纏めてより良い社会を築いていかなければ、本当の意味での経済発展、本当の意味でのより良い社会にはならないのだということに気付き、それにむけて奔走し続けます。

養育院の院長は、亡くなる年までずっと続けました。銀行より長く続けているのです。福祉の重

さというものを非常に強く感じているところがあります。

### 渋沢栄一の社会事業への想い

- ①偶然から必然の事業へ  
・東京会議所会頭として事業担当  
→将来を視野に入れて、施設・事業の必要性を説く
- ②松平定信への敬慕  
・「社会事業の先駆者」としての位置づけから
- ③「社会事業は私の義務」  
・救護法の施行にむけての行動・発言

自らも偶然の出会いだったというところがありますが、まさにその財政的な面倒を見る中において、偶然にその福祉の事業に出会っています。ただその事業自体が世の中にとって本当に欠かすことの出来ない必然の事業だったんだということに気付かされます。それに没頭し続けていった、その必要性を説き続けていった人であるということ、そして、晩年には、社会事業は私の義務であるというような言葉まで発するところまで至っていたことをお伝えしたいと思います。

### 渋沢栄一91年の生涯の中から 読み取れるもの

・教育・文化の整備

実業教育：商法講習所（現・一橋大学）  
女子教育：東京女学館、日本女子大学校

⇒ 国づくりのための人づくり

最後に1つお伝えしたいのが、新しい世の中を築くにあたっては人を作らなければいけない。政府の方でも目を向けていた教育事業の改革なんですけれども、江戸時代からの弊習であった商業蔑視観が拭い去られず、商業教育、実業教育、まさにこちらで行われているような産業教育の部分が手薄だった、目が向かなかったのです。そして女性の高等教育、ここにも手を付けていきました。

その出発点が、森有礼が開いたといわれる商法講習所。渋沢栄一は、そこを起点に東京高等商業学校を文部省の軋轢を何とか克服して大学昇格まで導きました。それから女子教育においては、まずは社交界で通用する女性をとということで女子教育奨励会の実践校たる東京女学館、その館長、理事長を務めます。また女性の総合大学を目指す成瀬仁蔵の強い気持ちに応えるべく後押ししました。そして自らが3代目の校長を務めて、女子教育の普及に努めました。まさにその国を成り立たせるためには人を作らなければいけない、その強い思いを持ってこの教育事業にも携わっていきました。

### 教育への熱き思い

- ・立国の重要な要素としての認識 ⇒ 国づくりは、人づくり
- ・官尊民卑の打破、将来も視野に入れて社会の安定をめざす
- ・経済と道徳の統合、女性の役割の再評価(男性と共に活動する環境づくり)、福祉を重視する社会の育成、国際平和の希求

渋沢栄一が生涯関係した会社の数は約500とされると申しあげました、社会事業の方は範囲が広くなりまして、数えると約600になります。

一人の人間が1000以上の事業に携わってこの国のことを思い奔走し続けたのでした。

その人物が1931年(昭和6年)11月11日に満91歳で亡くなっております。

### ☆いま、なぜ渋沢栄一なのか？

渋沢栄一のとった行動規範に注目

- ・企業倫理の実践者
  - ⇒ 道徳的な考えを持って正しく利益を求めることによって産業活動を活発化させる必要性を広め、実行した人物として
- ・儒教精神(東洋文化)を貫いた人物
  - ⇒ 今後の世界を考える上で中国古典にある教えや東洋の伝統を新しい視点で見直す時に、中国古典の教えを規範とした人物として
- ・社会貢献事業の先駆者
  - ⇒ 本当の意味での社会貢献事業を実行した先駆者として
- ・リーダーシップを発揮した人物
  - ⇒ 将来を見すえ、確固たるビジョンを持ったリーダー像をもつ人物として
- ・高齢社会の模範生
  - ⇒ 最後まで自分で身のまわりのことが出来て、「愉快に生きる」とした模範的な人物として

その人が亡くなって今年で90年、決して過去の事業・事績を称えるがために注目されているのではなくて、渋沢栄一が行った行動、そして放った言葉、それが今の我々に対して大きく意味あることとして受け継がれているところがあります。

企業倫理の実践者というところでは、『論語と算盤』という著作が今飛ぶように売れているということからしても、渋沢栄一の考えに目が向いているところがあるかと思えます。

その渋沢栄一は、『論語』を規範にして生きていたというところで、これからの世の中を考えた上において東洋の伝統文化、西洋的な文明を入れた渋沢栄一がずっと貫き通したその儒教精神が何かしらの意味があるのではないかということですから。例えば中国においても、儒教の儒に商人の商と書いて「儒商」という概念を広げようということで国際会議等が開かれております。この儒商たるもののモデルが日本の渋沢栄一ということで、私も何回か足を運ばせていただいております。

本質をついた社会貢献の先駆者。自分の事業自体をきちんと責任を全うする、それが本当の意味での社会貢献につながるのだということを主張し続けた渋沢の考え、これを今の社会貢献事業に携わる人々にも正しく伝えなければいけないのではないかと思います。

閉塞感に満ち溢れた世の中において一筋の光を差し伸べてくれるような強いリーダーシップを持った人を望まれる中において、渋沢栄一という人物像が非常に注目されるというようなところがあります。

そして最後に高齢化社会の中において91歳まで生きた。ただ長生きしただけではなくて、最後の最後まで自分のことは自分でやり、世の中のために奔走し続けた、またそれを「愉快に生きる」と称した人物として、今まさに超高齢化社会と呼ばれる世の中の模範生として注目を浴びているというところでもあります。

**単なる実業家でない  
「近代化のオルガナイザー」、  
「公益の追求者」・渋沢栄一**

**・渋沢栄一の行動から見出せる信念：**

政治に対する経済の優位

「公益」の視点に基づく民間の活動が、政府「官」の活動を補完するだけでなく、むしろ先導すべきものである。

⇒ 日本の発展、国際社会への貢献

2019年4月9日、新しい一万円の肖像になぜ渋沢栄一が決まりましたかということに対して、財務大臣から、日本人誰しもが知っている実業家であるからという説明がなされました。単なる実業家でないということは今日のお話の中でご理解いただければ幸いです。

日本全体をうまく組織化したそのオルガナイザーであり、なんといっても公益をまず第一に追い求め続けた渋沢栄一であるということ、官尊民卑の打破という考え方はずっと貫き通しました。ただ官と民が対立構造にあることだけを主張し続けたのではない、むしろ官と民が一体になればいけないというところを強く望んでいた人でもあります。その中において民間の人達はどうしても政府・官の方に重きを、思いを委ねてしまうところがあり、自分たちはその官の仕事を補完するような位置づけであるというようなことしか見えていない。そうではなくて、民間の人たちがむしろ世の中を引っ張っていく、リードしていくような形でなければ本当の意味での発展、本当の意味での社会への貢献につながらないんだということを主張し続けた人であるということを最後にお伝えしまして、今日のお話を締めくくりにしたいと思います。

どうもご清聴ありがとうございました。

(主な著書)

『渋沢栄一—近代日本社会の創造者(日本史リブレット人)』(山川出版社、2012年)

『渋沢栄一伝—道理に欠けず、正義に外れず』(ミネルヴァ書房、2020年)

## 令和3年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和3年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式は令和3年11月11日(火)に全商会館3階中会議室で挙行了しました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。西澤会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して吉田直子都立学校教育部高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長が祝辞を述べました。続いて御来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長小堀卓二様、東京都中学校長会副会長山田茂様から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立第四商業高等学校高石公一校長が謝辞を述べました。

今回の受賞者は次の方々です(順不同・敬称略)

### I 御下賜金記念産業教育功労者 (30名)

東京工業大学附属科学技術高等学校	教 諭	山 口	正 勝
東京都立園芸高等学校	教 諭	富 岡	昭 光
東京都立農芸高等学校	主 幹 教 諭	御園生	秀 樹
東京都立農産高等学校	主 任 教 諭	上 野	信 二
東京都立瑞穂農芸高等学校	主 幹 教 諭	佐 藤	敏 之
東京都立三宅高等学校	専修実習助手	井 口	伸 一
東京都立杉並工業高等学校	主 幹 教 諭	窪 田	真 一
東京都立杉並工業高等学校	教 諭	今	竜一郎
東京都立蔵前工業高等学校	校 長	三 神	幸 男
東京都立足立工業高等学校	主 幹 教 諭	新 田	実
東京都立足立工業高等学校	教 諭	江 口	博 文
東京都立本所工業高等学校	主 任 教 諭	千 葉	亮 一
東京都立多摩工業高等学校	主 任 教 諭	遠 藤	喜 宣
東京都立田無工業高等学校	非常勤教員	谷田部	時 雄
東京都立田無工業高等学校	専修実習助手	高 橋	広 行
東京都立田無工業高等学校	教 諭	井 手	正一郎
東京都立六郷工科高等学校	主 任 教 諭	渡 辺	伸 宏
東京都立六郷工科高等学校	主 任 教 諭	大 澤	泰 広
東京都立第四商業高等学校	校 長	高 石	公 一
東京都立荒川商業高等学校	校 長	新 井	智恵子
東京都立葛飾商業高等学校	主 幹 教 諭	川 内	理
東京都立江東商業高等学校	主 幹 教 諭	片 岡	隆 司
東京都立第三商業高等学校	校 長	皆 川	貢治郎
東京都立第三商業高等学校	副 校 長	中 神	孝 典
東京都立橘高等学校	校 長	菅 原	敏 雄

東京都立橋高等学校	主任教諭	石井正美
東京都立橋高等学校	専修実習助手	高野豊
東京都立晴海総合高等学校	校長	玉川弘文
広尾学園小石川高等学校	商業科教科部長	景山廣美
東京都立産業技術高等専門学校	教授	生方俊典

## II 中学校技術・家庭科教育功労者（9名）

中央区立銀座中学校	校長	平松功治
墨田区立墨田中学校	校長	杉浦伸一
品川区立源氏前小学校	校長	金児京子
中野区立北中野中学校	主幹教諭	古谷誠
荒川区立第五峡田小学校	校長	出井玲子
足立区立第十一中学校	校長	星貞年
小平市立小平第五中学校	副校長	深井明美
東村山市立東村山第五中学校	校長	安藤環
東京都立両国高等学校附属中学校	主任教諭	武田和子

## III 専修学校産業教育功労者（0名）

# 令和3年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の事業に対し後援を行いました。

番号	事業の名称	開催期間	主催	開催場所
1	第37回葛飾区産業フェア	工業展・商業展・観光展 令和3年10月16～17日 農業展・伝統産業展 令和3年10月23～24日	葛飾区	テクノプラザかつしか 東京都東地域中小企業振興センター
2	第28回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会	令和3年11月23日	東京都立工業高等学校校長会	東京都立工芸高等学校
3	第18回中学生創造ものづくり教育フェア in Tokyo	令和3年11月20・23日	東京都中学校技術・家庭科研究会	大田区立蒲田中学校 世田谷区立深沢中学校 豊島区千登世橋中学校
4	第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア	令和4年1月22～23日	全日本中学校技術・家庭科研究会	武蔵野総合体育館
5	第9回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会	令和3年12月18日	東京都高等学校総合学科教育研究会	東京都教職員研修センター
6	第8回多摩地区専門学校チャレンジプログラムシンポジウム	令和3年12月3日	多摩地区専修学校協議会	オンライン



# 令和3年度 産学懇談会（第1回）

令和3年7月2日（金）14:00～15:40  
東京都立八丈高等学校

令和3年度産学懇談会（第1回）は、東京都立八丈高等学校を会場に、令和3年7月2日（金）午後2時から午後3時40分まで、Webex 会議システムを利用してオンラインで開催しました。

参加者は、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育推進部職員等合わせて37名でした。

○はじめに、当会の西澤宏繁会長から御挨拶があり、次に会場校の佐藤俊一校長から御挨拶と学校の概要について説明がありました。

## ■ 都立八丈高等学校の概要

・都立八丈高等学校は、東京都内地から南に飛行機で約55分の八丈島にある唯一の全定併置の都立高等学校である。全日制課程には普通科と併合科（園芸科・家政科）を設置している。

・教育内容の充実と進路実績の向上を目指して、「八丈高校魅力化プロジェクト」に取り組んでいる。その3本柱は、「ハワイ研修」「地域協働・探究学習」「企業連携・高大連携」である。

・令和2年度に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業〔地域魅力化型〕」の研究指定校となり研究開発に取り組んでいる。



○次に、各担当の先生から地域と協働した特色ある教育活動を紹介していただいた。

(1) 普通科による文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業〔地域魅力化型〕」

## の指定校の取組（木村嘉尚教諭）

・「八丈やろごんプロジェクト」を立ち上げ、八丈島を支える人材を地域とともに育てる取組を行っている。

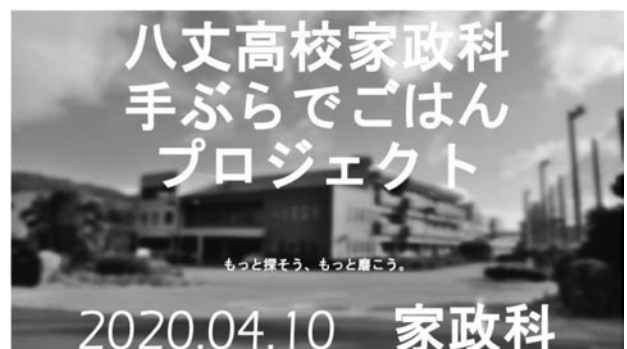
## 文部科学省指定校3年間の展望

- ①地域が学校教育に関わる
- ②教科横断的な学びの定着
- ③「継続性」をもった取り組み
- ④進路実績の向上
- ⑤全日制普通科・家政科・園芸科・定時制  
・青鳥特別支援が支え合う校内体制

生徒・島民・教員が  
「八丈島」ってすごいな  
「八丈高校でよかったな」と思える学校にしたい

## (2) 家政科による八丈島のお弁当のレシピ開発の取組（古我知和子教諭）

・令和2年4月から家政科では、八丈町の企業家の求めに応じて、八丈島の旅行者向けに島弁当のレシピを事業者へ提供するために、島の食材を生



かしたレシピ開発『手ぶらでごはんプロジェクト』に取り組んでいる。現在、島内のスーパーの八丈ストアさんでの8月販売に向けて、旅行客が購入しやすいお手頃価格でインスタ映えする弁当を現在考案中である。



**(3) 地域と協働した特色ある園芸科の取組（松橋彩子主任教諭）**

- ・農業のすそ野を広げることは、農業教育に携わる者の共通理念である。
- ・将来的に農業にかかわる人材の育成、長期的なビジョンも農業科を有する学校の役割である。

**八丈高校園芸科の果たす役割1**

**農業への関心の拡大 農業のすその拡大**

- 苗販売（販売実習～学習の発表の場）  
生涯学習の機会 植物に囲まれた豊かな余暇
- 保育園、小中学校への苗の有償・無償提供  
植物に親しむ経験に関心拡大のきっかけに
- 家政科調理実習、定時制給食への材料の提供  
食育（食文化や野菜の旬）の教材として活用  
おべんとうプロジェクト

- ・離島の農業文化の継承の一端を担うことが、八丈高校園芸科の果たす重要な役割である。
- ・食の魅力、園芸農業景観は観光の大きな魅力。
- ・農業の活性化が島の活性化につながる。

**八丈高校園芸科の果たす役割2**

**農業文化の継承**

- 遺伝資源（苗、種子）の保存  
保有する園芸品種・系統： 1000以上  
伝統野菜： 自家採種と自家増殖
- 技術継承  
遺伝資源は栽培しながら保存する



**【生徒による販売実習の様子】**

○懇談会では、参加者の自己紹介と意見交換を行いました。

**■参加者のアンケートから**

・八丈学や島外コンソーシアム、八丈弁当の開発など、意欲的な取り組みばかりでした。それらは、島の状況を検証し、問題点から導き出したものだったので、そのプロセスも大切だと勉強になりました。（高校）

・先生方の地域活性化にける情熱、学校を魅力的に作り上げていこうとする力に感銘しました。（高校）

・地域との協働を進め、地域の方に教師になっていただき、生徒たちにも将来の当事者としての意識をもってもらう働きかけの取組がとても印象的でした。（高校）

・地域に根差した産業教育を展開していると思いました。島嶼地区の課題は、産業をいかに振興し、雇用を確保するかだと思います。高校生が将来、島の担い手として活躍するために、新たな産業を考えていかなければいけないと感じました。（高校）

・「地元の人が先生」という柔軟な考え方、B to C企業の優秀社員の発想で、感心しました。（産業界）

・地域の課題を地域と協働して解決していこうとする八丈高校の姿勢は素晴らしいと思った。（行政）

○コロナ禍での開催に当たり、都立八丈高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。（事務局）

## 令和3年度 産学懇談会（第2回）

令和3年8月2日（月）14:00～16:00  
東京都立大島海洋国際高等学校

令和3年度産学懇談会（第2回）は、東京都立大島海洋国際高等学校を会場に、令和3年8月2日（月）午後2時から午後4時まで、Webex 会議システムを利用したオンライン会議により開催しました。

参加者は、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて29名でした。



○はじめに、当会の西澤宏繁会長、会場校の川口元三校長から御挨拶があり、次に東京都教育委員会を代表して吉田直子ものづくり教育推進担当課長から御挨拶をいただきました。

○続いて、川口校長から学校の概要について説明がありました。

### 1 本校の歴史

- ・昭和21年4月東京都立大島農林学校に水産科設置
- ・昭和25年1月東京都立大島高等学校水産科に改称
- ・昭和30年6月差木地分校として移転
- ・昭和45年4月東京都立大島南高等学校として独立普通科・水産科を設置
- ・昭和47年4月水産科を海洋科に名称変更
- ・平成4年4月類型（船舶、栽培、海洋スポーツ）導入
- ・平成18年4月学科改編大島海洋国際高等学校海洋国際科2クラス

### 2 教育の特色

- ・学校、寄宿舎、実習船を活用した三位一体の教育を行っている。
- ・実習船は大型実習船「大島丸」、小型実習船「みはら・りゅうおう」を有している。

### 3 令和3年度 生徒の状況

海洋国際科 1学年2学級 計6学級  
男子161名 女子41名 計202名（島しょの高校で最多数）  
寄宿舎生184名 通学生18名  
23区119名 市部61名 大島18名  
新島1名 三宅島1名 御蔵島1名  
八丈島1名

### 4 現在の教育課程

海洋国際科  
1年次 共通  
2年次 国際系  
海洋系（船舶・栽培・海洋スポーツ）  
3年次 同上

### 5 令和4年度入学生より学科改編

海洋国際科  
1年次 共通  
2年次 船舶運航系 海洋生物系  
海洋産業系 海洋探究系  
3年次 同上



航海実習



潜水実習



栽培漁業実習

## 6 連携事業

- 東京都農林水産総合センター大島事業所「成果報告会」「生徒訪問」
- 大島町貝の博物館「ばれ・らめーる」「ウミウシの展示」「海洋生物の図鑑作成」
- 大島丸見学会  
大島町在住小・中学生対象



## 7 令和3年3月卒業生進路状況

四年制大学 36%

短期大学 4%

大学校・短期大学校 13%

(水産大学校、海上技術短期大学校)

専門学校 24%

就職(公務員) 14%

その他 10%

○懇談会では、参加者の自己紹介と意見交換を行ないました。

### ■参加者のアンケートから

・島しょ部の高校の教育活動について、パンフレットでしかわからなかった素晴らしい教育活動の様子、生徒の姿を拝見することができてよかったです。大変勉強になりました。島しょにおける都立高校として寮生活・台風等の影響などご苦労は想像を絶するものと拝察いたします。存在価値のある素晴らしい教育活動を継続していただきたいと思います。(高校)

・通常では説明等を聞くことのできない大島海洋国際高校の様子を詳細に知ることができてよかったです。日本は四方を海に囲まれていて、海洋国際教育はとても重要であると思う。大島海洋国際高校に入学するには相当の覚悟が必要だと思うが、より多くの生徒に知らせて、希望者が多く応募するように中学校でもできることを行っていきたい。(中学校)

・地域との関わりを学校の特色を活かしながら行われていること、また、工夫がされていることが大変参考になりました。大島丸をはじめ教育教材等が大変充実していることをとても羨ましく思いました。先生方のご苦労もあると思いますが、生徒のあの笑顔を拝見する限り、生徒はのびのびとそして生き生きと島での生活を送られているなど感じ、すばらしいと思いました。(高校)

○コロナ禍での開催でしたが、都立大島海洋国際高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

## 令和3年度 産学懇談会（第3回）

令和3年11月30日（火）14:00～16:00  
東京都立産業技術高等専門学校

令和3年度産学懇談会（第3回）は、東京都立産業技術高等専門学校（以下、産技高専。）を会場に、令和3年11月30日（火）午後2時から午後4時まで、Webex 会議システムを利用したオンライン会議により開催しました。

参加者は、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて24名でした。

○はじめに、当会の西澤宏繁会長から御挨拶がありました。続いて、会場校の渡辺和人校長から御挨拶と産技高専の使命について説明がありました。



渡辺和人校長

・産技高専の使命：首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成

○続いて、吉澤昌純副校長から産技高専の概要について説明がありました。

### ①高専とは

高専の4つの特色

特色1：5年+2年の早期一貫教育

特色2：実験実習を重視した専門教育

特色3：卒業生は産業界から高い評価

特色4：高度な専門教育を受けるための専攻科学士の学位取得

### ②特色ある2キャンパス体制

・品川キャンパス、荒川キャンパス

### ③進路の多様性

・高専は就職以外にも、大学への編入や、専攻科に進学後、大学院への進学など、卒業後の進路の幅が広い。

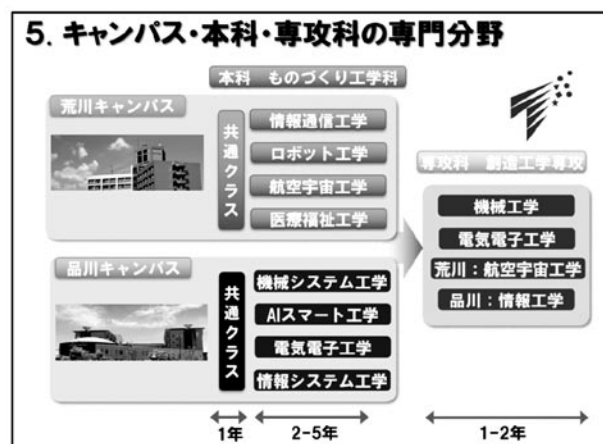
### ④カリキュラムの構成

・15歳からの早期専門教育

・くさび型カリキュラムにより、無理のない専門教育を実現

・実験実習科目の充実により実践力の育成を実現

### ⑤キャンパス・本科・専攻科の専門分野



### ⑥専門分野とコースの関係

### ⑦入試倍率の推移

### ⑧グローバル化の推進

### ⑨本科学生の進路状況（R2年度）

・卒業生 290名：就職 56%、進学 44%

### ⑩専攻科学生の進路状況（R2年度）

・修了生 30名：求人企業数 1200社以上

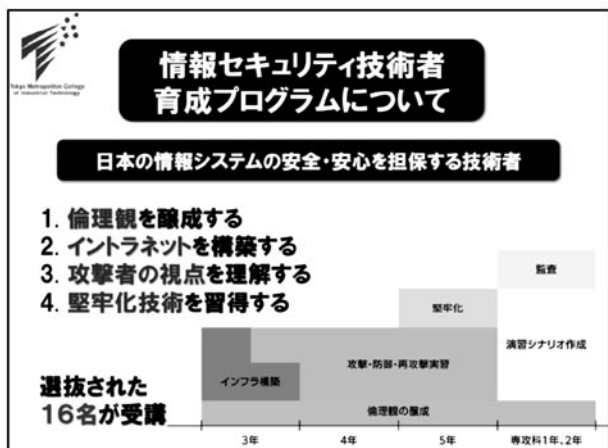
○続いて、富永一利品川キャンパス教務主事から品川キャンパスの教育について説明がありました。

### ①情報セキュリティ技術者育成プログラム

・日本の情報システムの安全・安心を担保する技術者

・主な活動

- 企業訪問、社会人向けイベント、中学生向けイベント
- 企業、大学との連携



②新コースについて

・スマート東京を牽引する技術者を育成するため、「AIスマート工学コース」、「情報システム工学コース」の新コースを設置した。

○続いて、山本昇志荒川キャンパス教務主事から荒川キャンパスの教育について説明がありました。



**当キャンパスの成長戦略**

首都機能の変遷・成長に合わせて

次期東京を担う人材の育成 教育↓施策	高度化・多様化する首都機能 技術↓施策
協調性+行動力 コンテスト競技活動の推進	高度な専門力 航空技術者育成プログラム
専門性+創造力 Active Learning, Engineering Design	幅広い応用力 医工連携/データサイエンス

①教育施策

- ・コンテスト競技活動の推進
- ・学業成果発表での受賞
- ・アクティブラーニング
- ・エンジニアリングデザイン

②技術施策

- ・航空技術者育成プログラム
- ・医工連携 教育・研究プロジェクト
- ・数理・データサイエンス・AI教育

○懇談会では、参加者の自己紹介と意見交換を行ないました。

■参加者のアンケートから

・高専の内容、取り組みの状況が分かり、参考になりました。学校の内容をどのように中学生に伝えていくか、課題は尽きないなという感じで聞かせていただきました。

・産業技術高専の理解が深まりました。工業高校とは明確に内容が異なると感じました。

・高専の入試倍率が高いことに驚いた。中学生ながら将来の職を見極めている姿勢にレベルの高さを感じた。

・指導計画立案に、企業等の協力を得ているとのこと。最新の情報が若い世代で学ぶことに魅力を感じる。

・就職率からみても産業界には高専の魅力は広く知れ渡っていると思いますが、入り口の段階ではなかなか中学生やその保護者にその魅力が伝わっているとは言えないと思います。やはり倍率も上げていかないと、良い人材を確保出来なくなっていくと思います。

・オンライン形式でしたが、説明者の話も十分伝わりました。また参加者の意見交換も参考になりました。

・今後は、高校とも連携してビジネス教育を展開できたらいいと思います。

・高等専門学校の教育内容をよく理解することができた。工業高校と交流する必要があると感じた。

○コロナ禍での開催でしたが、産技高専の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

## 令和3年度 第32回東京都産業教育振興会作文コンクール

### (1) 入選者一覧

令和3年度の応募作品数は、「中学校の部」では25校122作品、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が12校90作品、専修学校が1校1作品で、全体では38校213作品でした。

昨年度（令和2年度）の応募作品数が、「中学校の部」では16校108作品、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が21校130作品、専修学校が1校1作品で、全体では38校239作品でしたので、比較すると応募作品数が若干減少しました（26作品減）。

今年度の応募作品数の減少には、昨年度から続いているコロナ禍により学校での就業体験やインターンシップ等の機会が設定できなかつたことなどが背景にあると考えられます。

それぞれの部の選考委員による第一次選考及び第二次選考を経て、「中学校の部」では19作品（最優秀賞1、優秀賞3、佳作15）、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が14作品（最優秀賞1、優秀賞2、佳作11）、専修学校が1作品（優秀賞1）、合計で34作品を入選作品として決定しました。

また、「イラストの部」には9作品の応募があり、1作品をイラスト賞として決定しました。

令和3年度の入選作品は、以下のとおりです。

#### 中学校の部

最優秀賞	地域社会の一員として	東京都立武蔵高等学校附属中学校	3年	二宮理緒
優秀賞	人間ならではの良さ	足立区立江南中学校	2年	田島夏子
優秀賞	生産者が見える食品と産業	江戸川区立松江第五中学校	3年	西尾心々和
優秀賞	創ることの喜び	町田市立真光寺中学校	3年	海野愛乃
佳作	技術の授業から学んだこと	中央区立銀座中学校	3年	谷野歩
佳作	職業とロボットの今、そして未来	中央区立銀座中学校	3年	山下美京
佳作	今の時代こそ知るべきこと	墨田区立寺島中学校	3年	榎原杏佳
佳作	理想の未来の実現のために	大田区立大森第六中学校	3年	上村結
佳作	私の先輩	大田区立大森第六中学校	3年	林佳菜子
佳作	一人のメリットとデメリット	大田区立六郷中学校	2年	木原心咲
佳作	将来の夢	大田区立六郷中学校	2年	矢野愛歩
佳作	縁の下の力持ち	北区立赤羽岩淵中学校	3年	石原佳菜子
佳作	技術部での経験を通して得たもの	北区立赤羽岩淵中学校	3年	中山真里
佳作	父への贈り物	北区立赤羽岩淵中学校	3年	三浦駿弥
佳作	人のつながりから夢へ	北区立桐ヶ丘中学校	2年	片寄優菜
佳作	学ぶ、そして成長	足立区立千寿桜堤中学校	2年	内田祐椛

佳 作 書道	調布市立第八中学校	1年 増 田 り ん
佳 作 食生活と日本の未来	町田市立真光寺中学校	2年 井 上 美 青
佳 作 肉じゃが作り	町田市立真光寺中学校	3年 澤 野 由梨佳

### 高等学校の部

最優秀賞 実習を終えて	愛国高等学校	3年 齊 藤 絵 舞
優 秀 賞 女性養豚経営者を目指して	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年 岩 倉 綾 野
優 秀 賞 大島×デザイン=夢	東京都立大島高等学校	3年 山 口 雅 人
佳 作 子どもたちの明るい未来の実現に向けて	東京都立農業高等学校	2年 樋 谷 咲 良
佳 作 私自身と夢の成長	東京都立農業高等学校	2年 松 葉 晶 代
佳 作 お弁当開発と販売実習から得たこと	東京都立八丈高等学校	1年 持 丸 瑠 菜
佳 作 東海上の花彩島～花が彩る島に～	東京都立大島高等学校	3年 山 口 海 人
佳 作 当たり前	東京都立葛飾商業高等学校	3年 篠 原 瑞 稀
佳 作 世のため、人のための料理店	東京都立江東商業高等学校	3年 小 山 鳳 虎
佳 作 未来へ向かう	愛国高等学校	2年 北 村 愛 心
佳 作 将来について	愛国高等学校	3年 永 田 郁 月
佳 作 実習を通して	愛国高等学校	3年 濱 口 瞳
佳 作 障害と向き合う	京華商業高等学校	2年 鈴 木 千 夏
佳 作 私の目指す教師像	京華商業高等学校	3年 矢 野 和加菜

### 専修学校の部

優 秀 賞 アスリートの活躍を食で支える現場体験	二葉栄養専門学校	1年 森 下 さおり
--------------------------	----------	------------

### イラストの部

イラスト賞	江戸川区立松江第五中学校	3年 吉 岡 綾 香
-------	--------------	------------

来年度（令和4年度）も作文コンクールを実施しますので、生徒及び学生の皆さんからたくさんのお応募があることを期待しています。



## (2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

### 地域社会の一員として

東京都立武蔵高等学校附属中学校 3年 二宮 理緒

「この施設を利用するようになってから歩けるようになったんだよ。本当にありがたいねえ。」

この言葉は、私の住む武蔵野市にある「コミュニティーセンター」略して「コミセン」に通う、あるおばあさんと話していた際に言われた言葉です。私はこの言葉を聞いて、改めて地域交流の場とそこで働く方たちがいることの大切さを実感しました。

皆さんは、コミュニティーセンターについてどれほど知っていますか。名前を聞いたことのある人は多いかもしれませんが、詳しく知らないという人がほとんどだと思います。一般的に、コミセンは地域の社会文化活動の中心となる、各種公共施設の総称のことです。武蔵野市のコミセンは、「自主三原則」と呼ばれる地域の人の自主参加・自主企画・自主運営で成り立っています。そのため、運営に参加してみたいと思った市民であれば、誰でも携わることができます。

私の母もコミセンの運営に携わっており、私も施設を利用するだけでなく、地域住民の交流を目的とした「コミセン祭り」などの行事を手伝った経験があります。その中で感じたことは、大きく分けて二つあります。

一つめは、そこで働く人々、運営や行事に携わるボランティアの方たちがとても生き生きしているということです。例えば、コミセン祭りを行うとき、何度も会議を重ねた後、前日の朝から設営や食品の調達をします。その姿を間近で見た私は、あるボランティアの方に、「大変そうですね。」と声を掛けたことがあります。すると予想に反して、「皆でお話しをしながら、地域の人がどのようにしたら喜んでくれるのかを考えるのが楽しいからまったく大変ではありませんよ。」という答えが返ってきました。振り返ってみると、私も祭りの手伝いをしているとき、大変さよりも楽しさを多く感じました。例えば、コミセン祭りで焼きそばの調理、販売担当として、チームで声を掛け合って作ったときのことです。普段関わることのない年代の人と話し、協力できたことは、私にとって楽しく、有意義でかけがえのない経験となりました。他にも、焼きそばをお客さんに渡すときに、「ありがとう」と一言返されるだけで喜びを感じ、それをきっかけに会話が生まれたときには温かい気持ちになりました。また、私たちの作った焼きそばを皆が美味しく食べている姿を見ると、努力の甲斐があったと感じ、もっと多くの人に喜んでもらいたいと思うようになりました。人のために行動することは、自分のために行動するよりも幸せを持続して感じられる、と聞いたことがあります。地域交流は訪れた人だけではなく、私たちボランティアも幸せにしてくれると実感しました。

コミセンの行事に携わる中での二つめの気づきは、コミセンで働いている人たちの年齢層が高いことです。仕事や子育て、介護が落ちつき、自分の時間に余裕のできた人たちが地域のために活躍しています。そして、そのような人たちにとってコミセンという場が生きがいとなり「健康寿命」を延ばすことにつながっていると実感しました。このことは本人にとっても、地域社会にとっても良いことだと思います。一方で、時間に余裕のない若者や現役世代の人にとっては、運営に関わるのが難しいという現状もあります。そのため、若い世代向けの行事は必然的に少なくなり、地域との関わる機会も減ってしまいます。このようなことから、どの世代の人でも地域のボランティアに参加しやすいような環境づくりをしていくことで、新しい視点を取り入れ、コミセンを誰にとっても居心地の良い施設にすることがで

きるのではないかと感じました。

冒頭で触れた、コミセンで私に声を掛けてくださった83歳のおばあさんは、ボランティアの方から声を掛けられて、79歳から卓球を習い始めたそうです。今までは家の周りを散歩することがやっとだったそうですが、週に二回、卓球の練習をすることが生きがいとなり、体力も付き、足腰も強くなったと嬉しそうに話してくれました。そして今ではボランティアの担い手として地域の行事にも参加しています。

これまでの地域交流の経験から、私は「優しさ」や「人の助けになることへの喜び」など、多くのことを学びました。残念ながら、現在、コミセンは新型コロナウイルス感染症の影響で以前のように活動ができていません。コミセンが再び地域の人々の憩いの場に戻ったときのために、私ができること—それはより多くの人にボランティアになることの重要性と楽しさを広めることだと考えます。幅広い年代、特に、若い世代にボランティアとして働いてもらうことは、これからもコミセンが地域と人をつなぐ役割を担い続けることにもつながると思います。母が私にきっかけを与えてくれたように、私も地域活動の輪を広めていきたいです。まずは、友達に声を掛け一緒にボランティア活動をすることで、楽しさを知ってもらいたいと思います。

社会とのつながりを感じられる、地域での活動を通じて、社会の課題を解決できる人材が増えることを願っています。そして、その地域での産業や自治体との協力によって、より良く、より魅力的な地域社会の実現に一步ずつ近づいていくことを信じています。ぜひ、皆さんにも地域社会の一員として、自分の住んでいる地域のことに関心を持ち、交流の場に足を運んでみてほしいと思います。そうすれば、有意義で楽しい時間に出会えるかもしれません。

\*\*\*\*\*

#### 高等学校の部 最優秀賞

## 実習を終えて

愛国高等学校 3年 齊藤 絵舞

私は衛生看護科に在籍し、看護学生として資格取得に向けて日々勉学に励んでいます。私が看護師になりたいと思い始めたのは、小学生の頃です。テレビやドラマ、実際に病院で目にした看護師の姿にとっても魅力を感じました。

小学生の高学年になった頃、祖母は認知症が進行し数分前の出来事も忘れてしまうようになりました。同じことを何度も言う祖母に、私は強く当たってしまっていました。優しくしなければいけないと頭では分かっているけど、祖母を目の前にするとなかなかできませんでした。その時、看護師としての知識があれば、祖母のことももっと理解し接することができるのではないかと考えるようになりました。

中学三年生の時、父が糖尿病になりました。毎食後にインスリンを打ちながら仕事を続けていた父は、その後膵臓がんが見つかりました。休むわけにはいかないと放射線治療を続けながら働き続けていたが、父は日に日にやつれていきました。何かしてあげたいと思うもののどうすれば良いのか、何と声を掛ければ良いのか私には分かりませんでした。いつも笑顔で元気だった父が、ほんの数か月で歩けなくなってしまったのを目の当たりにするのはとても悲しいことでした。その後家で倒れ入院した父は、ほとんど寝たままの状態となってしまいました。既のがんが色々な臓器に転移しており、どうしようもないと聞かされました。最後のお見舞いの日、父はもう話すこともできず荒い息をしていました。明日は学校だからと早めに家に帰った二時間後、父は亡くなりました。

もう少し長くいてあげれば良かった、辛そうにしていた父に何もしてあげられなかったと、父のこと

を思い出すたびに、今でも私は後悔しています。このことをきっかけに、私は絶対に看護師になろうと強く決意したのです。現在私は、病院での臨地実習に励んでいます。昨年高校二年生の秋に戴帽式を迎えたものの、新型コロナウイルスの影響で実習を実施することができませんでした。高校三年生になって、例年よりも少ない期間ではありますがようやく病院実習を行うことができました。Iクールめには循環器・心臓血管外科病棟での実習、IIクールめには回復期・リハビリテーション病棟での実習が各二週間行われました。

Iクールめの病棟で受け持たせて頂いた患者様は、認知症を患っており、患者様のもとへ行くたびに、自己紹介を繰り返しました。しかし事前に認知症について学んでいたため、祖母の時とは違いどのように接すれば良いかが分かっていました。繰り返してあっても、患者様が不安にならないように配慮することが何よりも大切なことだと改めて学びました。また、同じ話題を繰り返しお話しされていて、患者様についての自分が知りたい情報をなかなか聞き出すことができませんでした。患者様の気分を害することなく話題を切り替えるコミュニケーションが取れる方法を身に付けることも今後の課題の一つだと痛感しました。

IIクールめの病棟で受け持たせて頂いたのは、毎日リハビリテーションを行う患者様でした。腰と左手首を骨折している方で、手首にはまだ痺れがある状態でした。それを少しでも軽減しようと手浴の援助を計画しました。温めることで痺れが軽減すると考えたからです。ですが患者様は「あまり変わらないね。」とおっしゃいました。そこで、もう一度患者様の状態を考え援助を立て直し、改めて足浴を行うことにしました。患者様はリハビリで歩くことが多く、足の疲れを少しでも取ることでより積極的にリハビリに取り組むことができるのではないかと考えたからです。歩行のリハビリの前に足浴を行ったところ、患者様は「ありがとう、気持ちいいよ。」と喜んでくださいました。喜んでくださった患者様を見て、私も自然に笑顔になりました。足浴終了後リハビリ中の様子を見学すると、患者様は休憩もせず歩き続けており、リハビリ担当の方も驚いていました。リハビリ中歩いてみてどうだったかを患者様にお聞きすると、「足が軽くなったみたいで歩きやすかった。」と喜んでくださいました。それを聞いて、足浴を行って良かったと安心するとともに、自分の立てた計画が患者様のお役に立ったことに大きな喜びを感じました。

患者様それぞれに合わせた看護を考え、個別性を踏まえた看護を提供することはとても難しいことだということを、実習を通して改めて痛感しました。現在のような情勢の中であってこのように病院での臨地実習を実施できたのは、たくさんの方々のお陰があったからこそです。本当に感謝しています。小学校の頃からずっと魅力を感じていた看護師という職業。看護師になるまでの道のりは長く険しいものです。しかし、祖母や父の存在、そして患者様の笑顔があったからこそ、私は看護師という目標に向かって歩み続けることができます。これからも諦めることなく頑張っていこうと思います。

## (3) 応募校一覧

## &lt; 中学校の部 &gt;

番号	区分	学校名	応募者数	入選者数
1	中央区	銀座中学校	4	2
2		晴海中学校	1	
3	新宿区	西早稲田中学校	2	
4	文京区	第九中学校	1	
5	墨田区	両国中学校	7	
6		寺島中学校	6	1
7	大田区	大森第六中学校	10	2
8		六郷中学校	6	2
9	杉並区	松浜中学校	2	
10	北区	稲付中学校	10	
11		赤羽岩淵中学校	10	3
12		桐ヶ丘中学校	2	1
13		滝野川紅葉中学校	1	
14	荒川区	南千住第二中学校	3	
15	足立区	江南中学校	1	1
16		西新井中学校	10	
17		千寿桜堤中学校	7	1
18	江戸川区	松江第四中学校	10	
19		松江第五中学校	2	1
20	調布市	第八中学校	10	1
21	町田市	真光寺中学校	10	3
22	羽村市	羽村第二中学校	1	
23	都立	大泉高等学校附属中学校	2	
24		武蔵高等学校附属中学校	1	1
25	私立	愛国中学校	3	
合計			122	19

## &lt; 高等学校・専修学校等の部 &gt;

番号	学校名	応募者数	入選者数
1	東京都立農産高等学校	7	
2	東京都立農芸高等学校	8	
3	東京都立農業高等学校	10	2
4	東京都立瑞穂農芸高等学校	6	1
5	東京都立八丈高等学校	2	1
6	東京都立大島高等学校	4	2
7	東京都立葛飾商業高等学校	10	1
8	東京都立江東商業高等学校	4	1
9	東京都立忍岡高等学校	10	
10	愛国高等学校	9	4
11	京華商業高等学校	10	2
12	国際共立学園高等専修学校	10	
小計		90	14
1	二葉栄養専門学校	1	1
小計		1	1
合計		91	15

## &lt; まとめ &gt;

番号	区分	応募校数	応募者数	入選者数
1	中学校	25	122	19
2	高等学校	12	90	14
3	専修学校	1	1	1
合計		38	213	34

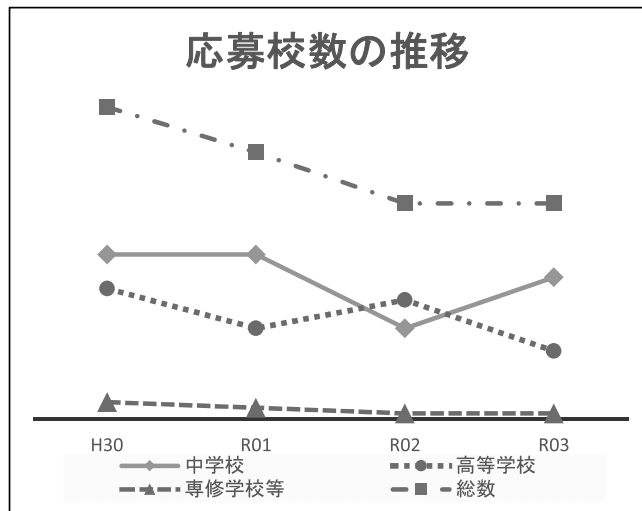
## &lt; イラストの部 &gt;

番号	区分	学校名	応募者数	入選者数
1	世田谷区	上祖師谷中学校	7	
2	江戸川区	松江第五中学校	2	1
合計			9	1

(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移

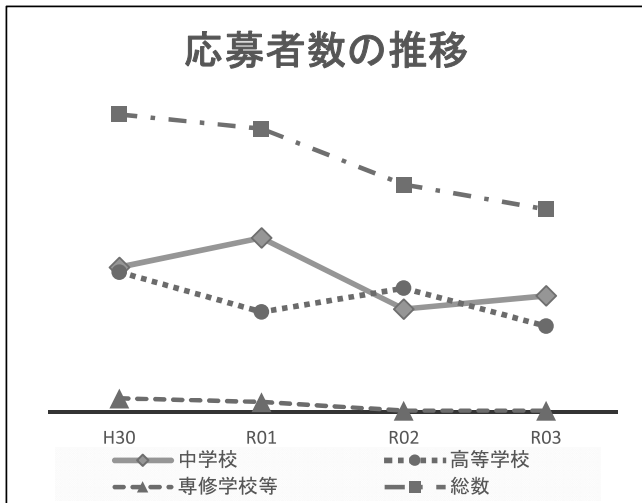
① 応募校数の推移

校種	H30	R01	R02	R03	平均
中学校	29	29	16	25	25
高等学校	23	16	21	12	18
専修学校等	3	2	1	1	2
合計	55	47	38	38	45



② 応募者数の推移

校種	H30	R01	R02	R03	平均
中学校	152	183	108	122	141
高等学校	147	105	130	90	118
専修学校等	14	10	1	1	7
合計	313	298	239	213	266



③ 入選者数の推移

校種	平成 30(2018) 年度			令和元(2019)年度			令和 2(2020)年度			令和 3(2021)年度			平均 %
	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	
中学校	152	22	14	183	19	10	108	18	17	122	19	16	14
高等学校	147	22	15	105	15	14	130	20	15	90	14	16	15
専修学校等	14	2	14	10	3	30	1	1	100	1	1	100	61
合計	313	46	15	298	37	12	239	39	16	213	34	16	15

## (5) 作文のテーマ別応募者数一覧

### ①作文の内容

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- 中学校における技術・家庭科の学習
- 高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- 勤労に関わる体験的な学習

### ②テーマ

作文の内容について、次のテーマ番号（ア～コ）から関係するものを選択し記述する。

- ア 授業等を通して学び得たこと
- イ 就業体験や現場実習等によって学び得たこと
- ウ 職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- エ つくることの喜び、ものづくりの喜び
- オ 働くことの喜び
- カ 学習に対する心構え
- キ 私の生きがい
- ク 私の進路、将来の夢
- ケ 私の職業観
- コ その他（産業教育に関わる内容のもの）

### ③テーマ別応募数とその割合

テーマ 番号	中学校の部						高等学校の部						専修学校等の部					
	R01		R02		R03		R01		R02		R03		R01		R02		R03	
	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)
ア	13	(7%)	8	(7%)	23	(19%)	32	(30%)	38	(29%)	27	(30%)	1	(10%)	0	(0%)	0	(0%)
イ	4	(2%)	21	(19%)	0	(0%)	7	(7%)	6	(5%)	7	(8%)	1	(10%)	0	(0%)	1	(100%)
ウ	93	(51%)	16	(15%)	13	(11%)	0	(0%)	11	(8%)	3	(3%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
エ	11	(6%)	5	(5%)	13	(11%)	2	(2%)	2	(2%)	3	(3%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
オ	8	(4%)	1	(1%)	4	(3%)	1	(1%)	1	(1%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
カ	2	(1%)	3	(3%)	2	(2%)	2	(2%)	4	(3%)	3	(3%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
キ	4	(2%)	2	(2%)	12	(10%)	0	(0%)	10	(8%)	6	(7%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
ク	35	(19%)	34	(31%)	45	(37%)	45	(43%)	45	(35%)	36	(40%)	3	(30%)	1	(100%)	0	(0%)
ケ	4	(2%)	12	(11%)	5	(4%)	6	(6%)	6	(5%)	1	(1%)	2	(20%)	0	(0%)	0	(0%)
コ	9	(5%)	6	(6%)	5	(4%)	10	(10%)	7	(5%)	4	(4%)	3	(30%)	0	(0%)	0	(0%)
計	183	(100%)	108	(100%)	122		105	(100%)	130	(100%)	90		10	(100%)	1	(100%)	1	(100%)

## 東京都産業教育振興会ロゴマークの商標登録について

### 1 ロゴマーク等の選考及び決定

東京都産業教育振興会では、令和元年7月1日から9月30日まで、当会のロゴマーク等を会員校の高校・高等専門学校・専修学校から募集し、14校から159作品の応募をいただきました。

### 2 選考結果

令和2年1月31日、応募作品について東京都産業教育振興会ロゴマーク審査会において厳正に審査し、最優秀賞1、優秀賞6、学校賞10を決定しました。

最優秀賞 黒岩風花さん 東京都立葛飾商業高等学校 3年（当時）



#### 作品に込めた思い・作品のコンセプト

三者一体となって育てる教育として三つの葉が連なるデザインをイメージしました。また、小さい葉がいずれ大きくなって新しい若葉を育てるようにと人材を育てる環境に見立てました。

### 3 ロゴマークの決定

令和2年2月10日、最優秀賞作品を原案として、商標等の確認作業を経てロゴマークを決定しました。



東京都産業教育振興会ロゴマーク

#### 4 商標登録

- (1) 令和2年2月19日 商標登録願出願
- (2) 令和3年2月15日 登録査定
- (3) 令和3年3月4日 登録料納付
- (4) 令和3年4月16日 商標登録（登録番号 第6378367号）

#### 5 ロゴマークの使用

ロゴマークは本会のホームページや刊行物、リーフレット、各種広報などで使用していきます。





## 本会の概要

# 令和3年度 事業経過報告

(令和4年2月20日現在)

### 1 会計監査

4月19日(月)午後3時～5時 都庁第二本庁舎16階16C会議室を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立合い)。

### 2 理事会

5月18日(火)オンラインによる開催

### 3 総会・講演会

6月29日(火)

- ・総会 オンラインによる開催
- ・講演会 演題「近代日本社会の創造者 渋沢栄一をさぐる」  
講師：井上 潤 氏

公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事・渋沢史料館館長

(総会・講演会の報告は会報第160号、会誌第59号に掲載)

### 4 委員会

- (1) 企画推進委員会(第1回) 7月8日(木) 全商会館3階中会議室で開催  
企画推進委員会(第2回) 11月16日(火) 書面による開催(オンライン会議併用)  
企画推進委員会(第3回) 1月13日(木) オンラインによる開催
- (2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 9月17日(金) 都庁第二本庁舎15階15B会議室で開催
- (3) 作文選考委員会  
全体会 5月14日(金) 書面による開催  
分科会(高等学校・専修学校等の部) 10月19日(火) 都庁第二本庁舎16階16C会議室で開催  
分科会(中学校の部) 10月21日(木) 都庁第二本庁舎15階15B会議室で開催

### 5 振興奨励事業

- (1) 教育功労者表彰：11月11日(木)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者(30名)、中学校技術・家庭科教育功労者(9名)の表彰式を挙行政した。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行った。(本誌 P 61～62)
- (2) 研究団体助成：産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。
- (3) 作文コンクール：中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は213点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞6名(中学校3名、高校2名、専修学校1名)、佳作26名(中学校15名、高校11名)計34名の入選者を選定した。  
表彰式は12月17日(金)に東京商工会議所で開催し、入選者及び「明日に生きる 第32号 ー作文コンクール入選作品集ー」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、作文応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。  
入選作品は「明日に生きる 第32号 ー作文コンクール入選作品集ー」として令和4年3月上旬に発行予定。
- (4) 優良卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行う。  
○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校	917名	中等教育学校（前期課程）	12名	
高等学校	201名	専修学校	97名	
高専・短大	14名			計 1,241名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校	計	110名
--------------	---	------

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は6事業に対して後援名義の使用を承認した。

## 6 産学連携事業

- (1) 東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業の連携を推進した。  
 (2) 東京商工会議所江戸川支部・葛飾支部と連携し、江戸川区・葛飾区の企業・専門高校・中学校との懇談会を開催した。(本誌 p44)

## 7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第1回）を7月2日（金）に都立八丈高等学校を会場にオンラインで開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等37名であった。(本誌 p62-63)  
 (2) 産学懇談会（第2回）を8月2日（月）に都立大島海洋国際高等学校を会場にオンラインで開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等29名であった。(本誌 p64-65)  
 (3) 産学懇談会（第3回）を11月30日（火）に都立産業技術高等専門学校の品川キャンパス、荒川キャンパスを会場にオンラインで開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等24名であった。(本誌 p66-67)

## 8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」第160号を9月1日に、第161号を1月12日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。  
 (2) 会誌「東京の産業教育」第59号を3月上旬に発行予定  
 (3) 作文コンクール入選作品集「明日に生きる」第32号を3月上旬に発行予定  
 (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議は中止となった。  
 (5) 文部科学省・大分県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第31回全国産業教育フェア埼玉大会は、10月30日（土）ウェスタ川越をメイン会場にオンラインで開催された。また、10月中旬から3月末日まで特設サイトから配信された。本会から会長及び都立新宿山吹高等学校、都立芝商業高等学校、都立千早高等学校、都立多摩工業高等学校が参加した。  
 第63回全国産業教育振興大会（埼玉大会）は動画配信により開催された。  
 (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月1回更新した。

## 9 会員増加運動の推進

産業界会員は1社が退会し、1社が休会した。また、新たに8社が入会した。学校会員は都立高校が1校入会し、専修学校が1校退会した。また、新たに中学校が8校入会した。個人会員は1名が退会した。

## 10 広報活動の推進

新たに会報電子版の作成に取り組み、2月末までに20回発行し、会員に送信した。

## 令和2年度 決算

総収入額 ¥2,799,657  
 総支出額 ¥1,941,369  
 差引額 ¥858,288

[収入の部]

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額	摘要
会費	2,321,000	2,313,000	△ 8,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,617,000
				① 国公立中学校 2,000 432校 864,000
				② 都立高校 全 6,000 52校 312,000
				定 3,000 31校 93,000
				③ 国私立高校 全 6,000 14校 84,000
				通 3,000 2校 6,000
				④ 短大・高専 3校 6,000 3校 18,000
				⑤ 専修学校 38校 6,000 40口 240,000
				2 産業界関係 696,000
				① 企業 47社 10,000 66口 660,000
② 個人 14人 2,000 18口 36,000				
会誌広告料	200,000	195,000	△ 5,000	「東京の産業教育」第58号広告費 全21社(校)の内17社(校)分
雑収入	352	9	△ 343	銀行利子
繰越金	291,648	291,648	0	前年度繰越
合計	2,813,000	2,799,657	△ 13,343	

[支出の部]

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額	摘要	
事務費	476,000	179,266	296,734		
項目	需用費	5,000	0	5,000 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費	
	役務費	470,000	179,266	290,734 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費	
	旅費	1,000	0	1,000 全国産業教育フェア(大分大会)	
会議費	60,000	32,358	27,642	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	1,972,000	1,664,745	307,255		
項目	振興奨励費	871,000	673,425	197,575	①教育功労者表彰 149,100
					②研究奨励助成 112,000
					③作文表彰等 205,280
					④永年会員表彰 10,395
					⑤表彰状印刷等 130,570
					⑥表彰状筆耕料 37,880
					⑦ロゴマーク募集 28,200
	情報連絡費	1,091,000	991,320	99,680	①会報発行(2回分) 104,720
					②会誌第58号発行 397,650
					③作文集第31号発行 295,350
					④HP更新費 193,600
					⑤全産協参加費 0
					⑥中央会図書費 0
					⑦作文集・会誌合本費 0
産学交流費	10,000	0	10,000	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	240,000	0	240,000	緊急対応	
合計	2,813,000	1,941,369	871,631		

(注)科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和3年度 予算

総収入額 ¥3,406,000  
 総支出額 ¥3,406,000  
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,297,000	2,321,000	△ 24,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,631,000
				① 国公立中学校 2,000 439校 878,000
				② 都立高校 全 6,000 53校 318,000
				定 3,000 31校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000 14校 84,000
				通 3,000 2校 6,000
				④ 高専・短大 3校 6,000 3校 18,000
				⑤ 専修学校 37校 6,000 39口 234,000
				2 産業界関係 会費 口数 666,000
				① 企業 46社 10,000 63口 630,000
② 個人 14名 2,000 18口 36,000				
会誌広告料	250,000	200,000	50,000	令和2年度広告料を含む
雑収入	712	352	360	預金利息等
繰越金	858,288	291,648	566,640	前年度繰越
合 計	3,406,000	2,813,000	593,000	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要	
事務費	506,000	476,000	30,000		
項 目	需用費	5,000	5,000	0	消耗品費等、資料管理費
	役務費	500,000	470,000	30,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	1,000	1,000	0	全国産業教育フェア（埼玉大会）
会議費	60,000	60,000	0	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,140,000	1,972,000	168,000		
項 目	振 興 奨励費	975,000	871,000	104,000	①教育功労者表彰 200,000
					②研究奨励助成 150,000
					③作文表彰等 370,000
					④永年会員表彰 10,000
					⑤表彰状印刷 200,000
					⑥表彰状筆耕料 45,000
	情 報 連絡費	1,155,000	1,091,000	64,000	①会報発行(2回分) 50,000
②会誌第59号発行 450,000					
③作文集第32号発行 400,000					
④HP更新費 220,000					
⑤全産協参加費 3,000					
⑥中央会図書費 2,000					
⑦作文集・会誌合本費 30,000					
産学交流費	10,000	10,000	0	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	635,000	240,000	395,000	緊急対応	
合 計	3,406,000	2,813,000	593,000		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和3年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

会 長	ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長 (元・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長、元・株式会社東京都民銀行 頭取)	西 澤 宏 繁
副 会 長	株式会社カナック企画相談役	金 子 昌 男
〃	東京商工会議所常務理事	小 林 治 彦
〃	☆ 東京都立第四商業高等学校長	高 石 公 一
理 事 長	東京都教育委員会教育長	藤 田 裕 司
常 任 理 事	東京都教育庁都立学校教育部長	谷 理 恵 子
〃	東京都教育庁都立学校教育部長 高等学校教育課長	落 合 真 人
理 事	☆ 公益社団法人経済同友会執行役	齋 藤 弘 憲
〃	一般社団法人東京経営者協会人材開発事業部長	海老澤 大 造
〃	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
〃	三和電気工業株式会社代表取締役会長	石 井 卓 爾
〃	株式会社昭和製作所取締役会長	舟久保 利 明
〃	文京区教育委員会教育長	加 藤 裕 一
〃	荒川区教育委員会教育長	高 梨 博 和
〃	武蔵野市教育委員会教育長	竹 内 道 則
〃	☆ 文京区教育委員会教育推進部学務課長	木 村 健
〃	☆ 足立区教育委員会事務局学校運営部学務課長	飯 塚 尚 美
〃	学校法人東京誠心学園理事長	廣 瀬 道
〃	学校法人小山学園理事長	山 本 匡
〃	☆ 岩倉高等学校長	森 田 勉
〃	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
〃	東京都立農芸高等学校長	小 堀 卓 二
〃	東京都立中野工業高等学校長	守 屋 文 俊
〃	東京都立第四商業高等学校長 (副会長兼任)	高 石 公 一
〃	東京都立赤羽北桜高等学校長	富 川 麗 子
〃	☆ 東京都立青梅総合高等学校長	鈴 木 信 也
〃	中央区立銀座中学校長	平 松 功 治
〃	墨田区立墨田中学校長	杉 浦 伸 一
〃	☆ 東京都教育庁指導部長	藤 井 大 輔
〃	☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	堀 川 勝 史
〃	☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	小 高 潤 子
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育部長のものづくり教育推進担当課長	吉 田 直 子
理事・事務局長	東京都教育庁都立学校教育部長 高等学校教育課課長代理 (計画担当)	多 田 緑
常 任 監 事	東京都教育庁都立学校教育部長 高等学校教育課課長代理 (管理担当)	長 沢 太 士
監 事	株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長	芦 澤 唯 志
〃	世田谷区立上祖師谷中学校長	柄 澤 茂 之

令和3年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立農芸高等学校長	小堀卓二
東京都立中野工業高等学校長	守屋文俊
東京都立第三商業高等学校長	皆川貢治郎
東京都立大江戸高等学校長	金澤正美
東京都立世田谷総合高等学校長	佐藤信孝
東京実業高等学校長	國分達夫
安部学院高等学校長	安部元彦
マリールイズ美容専門学校顧問	江原美規子
東京都立産業技術高等専門学校副校長	吉澤昌純
大田区立蒲田中学校副校長	保谷満
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	佐竹晶博
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	宮西真

作文選考委員会

東京都立農業高等学校長 (高校・専修学校等の部委員長)	齋藤義弘
東京都立多摩工業高等学校長	劔持利治
東京都立荒川商業高等学校長	新井智恵子
東京都立成瀬高等学校副校長	小川直哉
東京都立王子総合高等学校長	仁井田孝春
日本工業大学駒場高等学校教諭	友利麻衣
京華商業高等学校教諭	小口浩史
ハリウッド美容専門学校キャリアセンター長	橋田修
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	小林一人
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	宗川良子
江東区立深川第一中学校長 (中学校の部委員長)	佐川明夫
狛江市立狛江第二中学校長	猪瀬政幸
中央区立銀座中学校副校長	猪瀬政幸
江戸川区立松江第五中学校副校長	濱川一彦
世田谷区立上祖師谷中学校副校長	毛利慎治
町田市立真光寺中学校長	矢島加都美
荒川区立第五峡田小学校長	出井玲子
調布市立調布中学校副校長	北島陽子
小金井市立小金井第二中学校長	川井まさよ
足立区立伊興中学校長	千葉千登勢
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	宮西真
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	笠井淳子

# 東京都産業教育振興会会則

## 第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿2-8-1）内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

## 第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

## 第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

#### 第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

#### 第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

#### 第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

#### 第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

#### 第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

#### 第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度



## 産 業 界 会 員 名 簿 ( 5 4 )

50 音順

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
1	株式会社 明石スクールユニ フォームカンパニー	〒103-0006 中央区日本橋富沢町 5-5 03-5695-5300 http://www.akashi-suc.jp	専修卒 四大卒	富士ヨット詰襟学生服及び、別注学校制服・体育着・実習服・企業ユニフォームを製造している制服メーカーです。 学校オリジナル制服としては、50校超の都立高校制服や、私立学校制服、公立中学校・小学校の標準服を製造しております。またデザート体育着も好評をいただいております。
2	あきる野商工会	〒197-0804 あきる野市秋川 1-8 あきる野ルピア 3階 http://www.akiruno.ne.jp/	短大卒 四大卒	商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となっており、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。現在 1500 を超える事業者が会員となっており、経営に関する相談、講習会等の実施、部会活動、地域カードの発行、創業支援施設やアンテナショップの運営など様々な活動を行っています。
3	株式会社 秋月電子通商	〒158-0095 世田谷区瀬田 5-35-6	四大卒	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。 世界各国の最新機器の日本への紹介。
4	有限会社 飯吉製作所	〒124-0023 葛飾区東新小岩 5-14-22 03-3697-5645	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	株式会社 エイコー	〒124-0024 葛飾区新小岩 2-7-4 サンシティ新小岩	高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	エス・イー・シー エレベーター 株式会社	〒110-0016 台東区台東 3-18-3 03-5256-1171 https://secev.co.jp	高校卒 専修卒 短大卒 四大卒	エレベーター・エスカレーターの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・環境事業等を行っております。
7	株式会社 開倫塾	〒326-8505 栃木県足利市堀込町 145 0284-72-5945 http://www.kairin.co.jp	四大卒 大学院卒	創業 40 周年の学習塾。小学生・中学生・高校生を対象とします。北関東 3 県（栃木・群馬・茨城県）と東京都川の手地区（墨田・荒川・葛飾・足立区）に展開。自己学習能力の育成を教育目標とします。毎年 5 月、全国模擬授業大会を開催。NIE に力を入れています。
8	株式会社 カナック企画	〒125-0054 葛飾区高砂 1-21-4	高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒	弊社はメイン事業であるカー AV 取付キットビジネスで市場シェア約 6 割を占めており、オールインワン企業としてカーライフ事業を開拓し続けるリーディングカンパニーです。最近ではカーナビの大画面化が進み、益々弊社の重要性が高まり AV メーカーと車メーカー、それとユーザーの皆様のニーズに応えるべき商品の開発に力を入れています。もう一つの事業である鉄道グッズ事業では、大人でも使える新幹線をモチーフにした USB メモリや子供用のリュックサック、自転車ヘルメットなど色々な商品ラインナップを繰り広げ、事業を展開しております。
9	亀有信用金庫	〒125-8508 葛飾区亀有 3-13-1 03-3603-0185 http://www.shinkin.co.jp/ kameari/	短大卒 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 23 店舗を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
10	株式会社 川邑研究所	〒153-0063 目黒区目黒 1-5-6	専修卒 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。
11	株式会社 キクチ	〒140-0013 品川区南大井 6-11-7 キクチビル 03-3767-0673 <a href="http://kikuchi-corp.com/">http://kikuchi-corp.com/</a>	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス、設備管理サービス、電気計装工事、内装・補修工事、省エネソリューションビジネス。 キクチは、『人と地球と建物のより良い未来を切り拓く』ため、建物環境がいつでも安全・快適で省エネルギーであること、すなわち、『ビルの明日をまもる』ことを、企業使命と考えライフサイクルソリューションビジネスを展開しています。
12	株式会社 きらぼし銀行	〒106-0062 港区南青山 3-10-43	四大卒	きらぼし銀行は、2018年5月に東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京の3行が合併し、新たなスタートを切りました。 「首都圏における中小企業と個人のお客様のための金融グループとして、総合金融サービスを通じて、地域社会の発展に貢献します。」という経営理念を掲げ、お客さまの新しい価値を創造する“東京発プラットフォーム”として、さらなる飛躍を目指します。
13	株式会社 小葉印刷所	〒104-0042 中央区入船 2-7-4	—	創業90年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。 近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
14	株式会社 興銀不動産開発	〒125-0041 葛飾区東金町 5-7-6 <a href="https://www.kougin-fudousankaihatsu.co.jp">https://www.kougin-fudousankaihatsu.co.jp</a>	四大卒	平成2年創業以来30年、地元で根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。尚若い力を注入して活気ある会社運営を目指します。
15	国光施設工業 株式会社	〒144-0041 大田区羽田空港 1-7-1 <a href="http://www.kokko-shisetsu.co.jp/">http://www.kokko-shisetsu.co.jp/</a>	専修卒 高専卒	創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光）を計画段階から建設、メンテ及び設備取り壊しまで長期に亘り担当するエンジニアリング集団です。
16	三和電気計器 株式会社	〒101-0021 千代田区外神田 2-4-4	高校卒	1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。 高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
17	三和電気工業 株式会社	〒164-8522 中野区中野 4-15-9 03-5213-3035 <a href="http://www.snwd.co.jp/">http://www.snwd.co.jp/</a>	専修卒 四大卒 大学院卒	1947年に電気通信部品メーカーとして発足しました。光コネクタのパイオニアメーカーのひとつです。光コネクタのメーカーとしては日本及び海外のお客様に製品を提供しており、5G用製品など、現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。近年は信頼性の高さから、通信分野以外（新幹線等）で光トランシーバが好評を博しております。今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。
18	実教出版 株式会社	〒102-8377 千代田区五番町 5 03-3238-7777 <a href="https://www.jikkyo.co.jp/">https://www.jikkyo.co.jp/</a>	四大卒 大学院卒	高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
19	株式会社 昭和製作所	〒 143-0015 大田区大森西 2-17-8 03-3764-1621 <a href="http://www.showa-ss.jp">http://www.showa-ss.jp</a>	高校卒 四大卒	弊社は、昭和 27 年創立、現社長は 3 代目になります。インフラ等で用いられる材料の性質を調べるために様々な工作機械を用いて製作する「材料試験片」と、インフラそのものを壊さないで調べるための「非破壊試験片」を主として製作しています。その他に、工作機械加工以外の様々な社外技術を利用する試作品や特殊部品の製作も行います。2015 年に ISO9000、JISQ9100 の資格を取得し、2020 年に基準適合事業主（ユースエール）認定を受けています。
20	株式会社 鈴木塗装工務店	〒 120-0022 足立区柳原 2-30-14 03-3882-2828 <a href="http://www.suzukitosou.com">http://www.suzukitosou.com</a>	高校卒 専修卒 短大卒 四大卒	鉄道橋梁の塗装工事を発祥とし、創業 85 年以上の歴史があります。現在は、全国主要都市に支店・営業所を構え、ビル・マンションや工場等のリフォーム工事から橋梁などの大型構造物の塗装工事まで、様々な建造物の改修工事を行っています。また、安全・品質・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、お客様のご要望にお応えしております。
21	青和信用組合	〒 125-0054 葛飾区高砂 2-40-4	高校卒 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。
22	第一科学 株式会社	〒 113-0021 文京区本駒込 5-28-5	高校卒	高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売。
23	株式会社 第一成和事務所	〒 103-8214 中央区日本橋久松町 11-6 日本橋 TS ビル 8F 03-3669-2831 <a href="http://www.d-seiwa.co.jp">http://www.d-seiwa.co.jp</a>	四大卒	1957 年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。
24	株式会社 竹尾	〒 101-0054 千代田区神田錦町 3-12-6 03-3292-3622 <a href="http://www.takeo.co.jp/">http://www.takeo.co.jp/</a>	高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒	1899 年の創業以来、「紙の専門商社」として、一般印刷用紙とファインペーパーの販売を通して環境と文化に貢献してきました。特にファインペーパーでは、メーカーと共同開発し、国内市場の 60% をシェアし市場を牽引してきました。ファインペーパーとは色合いや風合いで人間の五感に訴える紙であり、書籍、パッケージ、カタログ、カレンダーやタグ等数多くの場面で使われております。また、神田の見本帖本店、青山見本帖、大阪の淀屋橋見本帖及び福岡見本帖にて紙の販売の他、紙、デザインとテクノロジーに関する情報を発信しています。
25	株式会社 チバダイス	〒 125-0054 葛飾区高砂 1-26-2 03-3696-4441 <a href="http://www.chibadies.co.jp">http://www.chibadies.co.jp</a>	高校卒 高専卒 専修卒 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの 3 割は海外との取引です。
26	株式会社 ツバサ・ 翼学院グループ	〒 125-0054 葛飾区高砂 8-28-12	短大卒 四大卒 大学院卒	学習障がい、不登校等を含め約 400 名の塾生が在籍（青砥駅前校、青砥北口校、青砥西口校、高砂校、水元校）。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して、生活訓練や SST などを行っています。また第一薬科大学付属高校学習センターとして高校卒業のサポート事業やベネッセと連携した英語教室などを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。第 7 回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成 28 年東京都経営革新奨励賞受賞。
27	鉄道機器 株式会社	〒 103-0021 中央区日本橋本石町 4-6-7 03-3271-5341	高校卒 高専卒 四大卒	大正 3 年創業。昭和 62 年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後は JR 各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に東北新幹線、九州新幹線、北陸新幹線、北海道新幹線用の高速分岐器の納入実績があり、海外にも輸出をしております。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
28	東京ガス 株式会社	〒105-8527 港区海岸 1-5-20	高校卒 高専卒 四大卒 大学院卒	東京ガスグループは1885年の創業以来135年余りにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。エネルギー業界も変革の時代を迎えており、東京ガスも電力・海外・新規サービス等、多様な事業を展開し、様々な側面から「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。
29	東京商工会議所	〒100-0005 千代田区丸の内 3-2-2 6F <a href="https://www.tokyo-cci.or.jp/">https://www.tokyo-cci.or.jp/</a>	四大卒	東京商工会議所は東京23区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。
30	東京書籍 株式会社	〒114-8524 北区堀船 2-17-1 <a href="https://www.tokyo-shoseki.co.jp/">https://www.tokyo-shoseki.co.jp/</a>	四大卒 大学院卒	1909（明治42）年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書やアプリなどのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。
31	公益社団法人 東京都専修学校 各種学校協会	〒151-0053 渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6F 03-3378-9601 <a href="https://tsk.or.jp">https://tsk.or.jp</a>	—	東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は321校（2021年11月現在）
32	有限会社 東京プリンテック	〒154-0023 世田谷区若林 1-23-4	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
33	ドリームガーデンズ 株式会社	〒114-0003 北区豊島 8-1-1 03-3927-1123 <a href="http://www.dream-gardens.co.jp">http://www.dream-gardens.co.jp</a>	短大卒 四大卒 大学院卒	1965年創業、「永遠に未完成の給食づくり」を企業理念として、未来を担う子供たちの健康と幸せのためのサポートをさせて頂いております。幼稚園給食のリーディングカンパニーとして日本一の生産食数を誇っており、東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県において、一日5万食を提供しております。
34	株式会社 日刊工業新聞社	〒103-8548 中央区日本橋小網町 14-1	四大卒 大学院卒	「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とする我が国唯一の産業総合紙。創刊は1915年（大正4）。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。
35	日本広告 株式会社	〒170-0001 豊島区西巣鴨 4-19-1 03-3918-3161 <a href="http://nihon-ad.c.ooco.jp">http://nihon-ad.c.ooco.jp</a>	高校卒 専修卒 四大卒	昭和20年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。
36	日本自動ドア 株式会社	〒165-0031 中野区上鷲宮 3-16-5	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
37	信川化学工業株式会社	本社 〒124-0022 葛飾区奥戸 2-20-18  石岡工場 〒315-0002 茨城県石岡市柏原 18-1 0299-23-7181	高校卒	当社は、射出成形によるプラスチック製品の製造をしております。 射出成形機を多数保有し、食品・医療・建設・機械・家電・自動車・日用品等様々な分野での実績がございます。 現在は、特殊密閉容器製造に力を入れております。
38	株式会社 箸勝本店	〒101-0021 千代田区外神田 3-1-15	—	明治43年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め300種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
39	株式会社 ハチオウ (八嬰)	〒130-0004 墨田区本所 4-29-2  03-3625-8077  <a href="https://www.8080.co.jp">https://www.8080.co.jp</a>	高校卒(予定) 高専卒(予定) 短大卒 四大卒 大学院卒	化学系廃棄物の処理、リサイクル、フロンガスの回収・破壊処理など、官公庁・大学・研究所・工場などからでる廃棄物の問題解決する会社です。化学系廃棄物処理という、化学知識や専門性が必要と思われませんが、文系出身社員も多数活躍していて、今後は高卒、高専卒も採用して行く所存です。私たちの仕事は、環境や人体を守ることに直接的に関係し、皆さんの生活にはなくてはならない存在です。ハチオウは化学物質の恩恵が、持続可能な社会と調和するために挑戦し続けます。
40	日野自動車株式会社	〒191-8660 日野市日野台 3-1-1	中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
41	株式会社 Five Rings	〒105-0004 港区新橋 3-9-10 5F  03-6402-4402	—	資産形成コンサルタント業。100年時代という言葉をよく目にしますが、弊社では10年以上前から「人生計画」「資産計画」の必要性を感じ、会社の将来、また家庭や人生のコンサルティングを行ってきました。 【経営支援事業】 ①経営計画：理念、目的、方針、PDCA ②人材：組織研修、パートナー③リスクマネジメント：人、金、生損保、融資④マーケティング⑤社会貢献 【資金形成事業】 仕事、家庭、お金、知識、健康を豊かなものにしていく 【エクスペリエンス事業】 人生を豊かにする活動すべて
42	ベストワールド株式会社 (休会中)	〒101-0047 千代田区内神田 1-7-4  03-3295-4111	四大卒	海外視察・研修旅行をお世話して50年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。
43	山崎教育システム株式会社	〒189-0003 東村山市久米川町 5-33-24	四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売（全国代理店350社）。
44	ヤマ産業株式会社	〒112-0015 文京区目白台 3-26-8	—	教育備品を販売して50年。学校より信用を得て、安定している。
45	株式会社 読売新聞東京本社	〒100-8055 千代田区大手町 1-7-1	四大卒 大学院卒	「読売新聞」は1874年（明治7年）11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売 KODOMO 新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
46	涼和綜合法律事務所 弁護士 飯田 豊浩	〒105-0001 港区虎ノ門 2-2-5 共同通信会館 9 階 03-3568-2418  <a href="http://www.ryowa-law.com/">http://www.ryowa-law.com/</a>	—	2003年に弁護士登録し、18年目を迎えました。 2011年以降、埼玉県内の地方自治体の教育委員会顧問として、学校や教育委員会からの様々なご依頼に対応すると共に、学校の法的対応に関する研修の講師も務めています。 学校で起きる諸問題への対応のほかにも、企業からのご依頼（契約書の作成・確認、債権回収、労務対応等）、個人からのご依頼（遺言・相続、離婚、不動産取引等）に幅広く対応すると共に、遺言や相続に関する講演も行っています。
47	ミクニ化学工業株式会社	〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-7-20 03-3697-2121	—	透明石けん・化粧石けんの商品企画及び製造販売、トイレタリー製品の製造販売を行っています。培ってきた技術と次世代に求められる先進性で、「売る商品」ではなく「売れる商品」を提供できるよう開発から製品まで社員全員で努力してきました。 私たちが作り出す石けんが「健やかで清潔でありたい」というお客様の思いに、少しでも役立つように製品作りに日々励んでおります。
48	株式会社 スカイウエーブ	〒124-0025 葛飾区西新小岩 4-7-8 03-5670-3168	—	創立50余年、住宅関連の金属加工を主として高い技術と豊富な実績があります。特に機械設備が充実しており、機械加工、板金加工、プレス加工、溶接などの金属加工の一連の工程をワンストップで受注できる体制があります。 葛飾区に本社工場を構え、茨城県にも工場を展開しています。
49	ダイヤユーキ株式会社	〒125-0053 葛飾区鎌倉 4-33-7 03-3671-2181	—	1978年の創業以来、一貫してアクリルとポリカーボネートの素材を扱っています。アクリルはプラスチックの中で、最も透明性が高く、ポリカーボネートは耐摩耗性に優れています。 これらの特性を生かした透明パイプ、丸棒、厚板、ブロック、半球ドーム等の製品の開発・販売をメインに、両素材を扱うプロの集団として、特色ある企業を目指しています。
50	有限会社 高橋木箱製作所	〒124-0022 葛飾区奥戸 2-7-7 03-3692-5111	—	昭和33年に各種プラント、精密機器、産業機械など木箱梱包会社として創業し、半世紀を超える歴史と経験を有しております。他社に先駆けてコンピュータソフトを導入し、梱包見積・設計システムを構築し、ソフトウェア事業を開発しました。梱包・包装技術の知見を活用してツーバイフォー住宅パネルの工場生産へと進化させています。また、北海道（日高市）では、森林事業も行っております。
51	株式会社 坂井電気	〒124-0023 葛飾区東新小岩 2-22-1 03-5698-6426（代表）  <a href="http://www.sakai-denki.com">http://www.sakai-denki.com</a>	高校卒 短大卒 四大卒	設立1979年 本社は葛飾区。支店は埼玉県さいたま市、千葉県佐倉市。電気通信工事業、電気工事業、電気定期調査 企業様との直接取引において長期の信頼関係を築いています。 経営理念は『社員のしあわせ』 能力や、やる気もある残念な人（もったいない人）をなくすため、それぞれの潜在力を発揮できるように考えます。
52	株式会社 日之出製作所	〒125-0052 葛飾区柴又 3-21-8 03-3607-1843	—	昭和33年創業、オイルシール及び工業用パッキンを主力にゴム成型加工、樹脂製品、機械加工の設計、製作を自社一環の生産体制のもとで、豊富な経験から技術を開発し、新しいニーズに着実に応えてきました。 近年業界は益々多様化をたどり、適格な対応を必要とされています。生産現場から出る技術と開発力を生かし、徹底した品質管理の元でユーザーの立場に立って考える小回りのきくメーカーとして歩み続けます。
53	株式会社 関口製作所	〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-15-1 03-3692-0357	—	堅実経営を信条に皆様と共に歩み、刻々と変わる社会、経済、環境の中で『顧客が満足する物作りを通じ社会に貢献する』ことを経営理念に「高品質、短納期、低コスト」の実践で、当社の金属加工・製品に厚い信頼をいただいております。
54	松川電気株式会社	〒124-0012 葛飾区東新小岩 3-16-6 03-3691-8611  <a href="http://www.matsukawa-denki.co.jp">http://www.matsukawa-denki.co.jp</a>	高校卒 四大卒	機械装置メーカー及び自動車メーカーの生産設備の電気工事・計装工事及び機械装置・試験装置をコントロールする制御盤の設計・制作を行っています。事業所として川崎営業所・相模原営業所及び本社工場があります。制御盤の制作については ISO9001 を平成17年に取得し現在まで継続しています。お客様の要望を的確に捉え対応することにより信頼を得ています。

## 私立高等学校会員名簿(16)

50音順

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	<b>愛国高等学校</b> 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 <a href="https://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/">https://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/</a>	全	普通科 (160) 商業科 (80) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	昭和13年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(2年課程)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科・栄養士資格)・保育専門学校(幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格)がある。
2	<b>安部学院高等学校</b> 〒114-0005 北区栄町 35-4 <a href="https://www.abe-gakuin.ed.jp/index.html">https://www.abe-gakuin.ed.jp/index.html</a>	全	商業科 (200)	1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満81年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。令和4年度(2022年度)の新入生から、小型ノートパソコンを導入し、授業の中で活用していきます。2年生からは簿記や秘書検定など、興味・得意分野に分かれて授業を選択出来る「科目選択制」になります。商業科等の検定試験で資格を取得し、さらに上級を目指します。卒業後の進学や就職にも取り組みながら、家庭的な校風の中で過ごします。
3	<b>岩倉高等学校</b> 〒110-0005 台東区上野 7-8-8 <a href="https://www.tky-iwakura-h.ed.jp">https://www.tky-iwakura-h.ed.jp</a>	全	普通科 (330) 7 限制 (130) 6 限制 (200) 運輸科 (120)	我が国初の鉄道学校として明治30年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成26年度から「男女共学」、「普通科・運輸科の2科システム」を実施し、学校の変革を進めている。令和4年度に普通科を7限制・6限制と改編し、進学教育に注力している。「正心第一」の校訓のもと、「仲間とともに、主体的に学び、考え、創造し、そして行動していく力を身につける」という教育目標を達成するため、充実した環境で多様な教育活動を展開している。
4	<b>NHK 学園高等学校</b> 〒186-8001 国立市富士見台 2-36-2 <a href="https://www.n-gaku.jp/sch/">https://www.n-gaku.jp/sch/</a>	通	普通科 (3475)	昭和38年(1963年)にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送(NHK高校講座)を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週3日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。
5	<b>大森学園高等学校</b> 〒143-0015 大田区大森西 3-2-12 <a href="https://www.omori-gakuen.ed.jp">https://www.omori-gakuen.ed.jp</a>	全	普通科 (280) 国立コース (40) 選抜コース (80) 総進コース (120) 英語コース (40) 工業科 (80) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース	昭和14年大森地区中小機械業者62工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。平成17年に普通科を設置し大森学園高等学校と現在の校名に変更。現在普通科は4コース。国立コースは5教科7科目に対応するカリキュラムで国公立大学、選抜コースは難関私立大学、総進コースは有名私立大学への進学を目指す。また英語コースはグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。工業科は1年次に工業各分野の基礎を学び、2年次より機械・電気・情報の3コースに分かれ、各種資格も取得しながら専門的技術と知識の習得を目指す。
6	<b>科学技術学園高等学校</b> 〒157-8562 世田谷区成城 1-11-1 <a href="https://tsushin.kagiko.ed.jp/">https://tsushin.kagiko.ed.jp/</a>	通	普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和52年現校名に変更する。企業内訓練校を中心とした技能連携コースと個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「eラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。また、様々な分野で海外へ留学する生徒も多数在籍している。
7	<b>蒲田女子高等学校</b> 〒144-8544 大田区本羽田 1-4-1 <a href="https://www.kanno.ac.jp/">https://www.kanno.ac.jp/</a>	全	普通科 特別進学コース (25) キャリアコース (145) 幼児教育コース (80)	漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」「人間生活を律する根本の筋金は道徳なり」との教育理念に基づき昭和16年に夫人の信衛によって設立。特別進学コースは、生徒一人ひとりに的確な学習計画を提供し、合格まで担当教員全員でサポート。個別指導でわかるまで徹底的に指導。キャリアコースは、14パターンのカリキュラムの中から学びたい授業展開を選択可能。幼児教育コースは、保育者に必要な知識・技術を学び幼稚園教諭と保育士資格の同時取得を目指す。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
8	京華商業高等学校 〒112-8612 文京区白山5-6-6 <a href="https://www.keika-c.ed.jp/">https://www.keika-c.ed.jp/</a>	全	商業科 (150)	創立者磯江潤が「豊かな実務知識をそなえた経済人の養成」を目的として1901年に設立された学校です。その精神を永きにわたり実践し、多くの優秀な人材を輩出してきました。生徒個々の可能性を大切に個性を伸ばすことはもちろん、資格取得に対応したカリキュラムの編成や放課後講習・夏期講習等を実施しています。自己肯定感を育てながら、進学実績も年々増加しています。実学教育を中心として人間形成に重きを置き、人生の宝物の獲得に主眼を置いた三年間は、卒業生たちの高い満足感に繋がっています。
9	昭和第一学園高等学校 〒190-0003 立川市栄町2-45-8 <a href="https://www.sdg.ed.jp">https://www.sdg.ed.jp</a>	全	普通科 (554) 特別選抜コース (34) 選抜進学コース (120) 総合進学コース (400)	1940(昭和15)年昭和第一工業学校として創立。1989(平成元)年より昭和第一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2018(平成30)年4月より普通科に新たなコースを設置、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す。工学科は2017(平成29)年度よりコースを統合。他分野を総合的に学びつつ進路希望に合わせて履修科目を選択できる。高大専連携により大学等の実習機材でデジタルなものづくりを学ぶ。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。
10	昭和鉄道高等学校 〒170-0011 豊島区池袋本町2-10-1	全	鉄道科 (200)	校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和3年(1928年)創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめる。現在まで20,000名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成16年(2004年)に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。
11	大成高等学校 〒181-0012 三鷹市上連雀6-7-5 <a href="https://www.taisei.ed.jp/">https://www.taisei.ed.jp/</a>	全	普通科: 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40)	1897年大成学館尋常中学校として創立以来、校名由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の個性や可能性をさらに磨き、将来社会に役立つ人間として大きく成長するように、一人ひとりを丁寧に育てる教育方針のもと発展している高等学校です。特に学んだことを活かすための知力を育て、人としての徳を重んじ、課題発見力、問題解決力を身につける教育および何事にも積極的にチャレンジしていく心の教育により、時代に合った人材育成を行っています。情報進学コースは時代を先取りしたカリキュラムが組み込まれているコースです。
12	中央学院大学中央高等学校 〒136-0071 江東区亀戸7-65-12 <a href="http://www.cguch.ed.jp/index.php">http://www.cguch.ed.jp/index.php</a>	全	普通科 (50) 商業科 (50)	本校は1900年(明治33年)に創立し、令和2年に120周年を迎えます。永い歴史と伝統の中で、「誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み 反省と研鑽を忘れるな」の建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。全生徒がタブレットを持ち、電子黒板兼用プロジェクターを活用したICT教育を実施し、進学においても中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導を行っています。
13	東京実業高等学校 〒144-0051 大田区西蒲田8-18-1	全	機械科 (135) 電気科: 電気コース (45) ゲームITコース (45) 普通科: ビジネスコース (180) 文理コース (90)	1922年創立の総合学園として各科・コースの生徒は目的を持って学校生活を送っており、特に各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定にも役立っています。また、1967年より国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との交換留学生制度を設けています。電気科ゲームITコースと文理コースの生徒は土曜日に特別授業を実施しています。
14	日本工業大学駒場高等学校 〒153-8508 目黒区駒場1-35-32 <a href="http://nit-komaba.ed.jp/">http://nit-komaba.ed.jp/</a>	全	普通科: 特進コース (35) 理数特進コース (35) 総合進学コース (175) 文理未来コース (70)	明治40年創立の本校は工業教育一筋に運営して来ましたが、平成20年に普通科3コース(特進・理数特進・総合進学)を併設して中堅進学校を目指す方途を選びました。この10年間の普通科運営の成果を基礎に3コースに加え「つくる喜びの体験」を大切にしながら「文理未来コース」を設け、令和3年度より普通科専一校として新たな目標に向かってスタートを切りました。「高い自己目標の実現と楽しい学校生活の調和」を目指すこと、周りには優しく、自己には厳しく律する勁い心を育む努力を続けること、を掲げ教育運営にあたっています。



	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
15	日野工業高等学園 〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 <a href="http://www.hino.co.jp/hinogakuen/">http://www.hino.co.jp/hinogakuen/</a>	通	(60)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内訓練校です。科学技術学園高等学校と連携し、高等学校教育を学びながら専門技能の習得を行います。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があり、生産職場での実習も行います。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。
16	広尾学園小石川高等学校 〒113-8665 文京区本駒込 2-29-1 <a href="https://hiroo-koishikawa.ed.jp/">https://hiroo-koishikawa.ed.jp/</a>	全	普通科 インターナショナル(AG) (40) インターナショナル(SG) (40) 本科(40)	2021年4月より校名を広尾学園小石川高等学校と変更し、新しい一歩をスタートしました。現代のグローバル化が進み多様性が求められる時代を生きる、これからの生徒たちのために、知識だけではなく、ものごとの本質を追求する学びを提供します。インターナショナルコースは、各分野の外国人教員が英語で授業を行うAGと、入学してから英語力を伸ばしていくSGが融合してクラスを構成。お互いに刺激しあいながら成長します。本科コースは、1年から本格的キャリア教育プログラムを経験して視野を広げ、学習習慣を確立します。

### 都立高等学校会員名簿(63)

#### 農業に関する学科

1	都立園芸高等学校 〒158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 【全日制】 <a href="http://www.metro.ed.jp/tokyo.jp/">http://www.metro.ed.jp/tokyo.jp/</a> 【定時制】 <a href="http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	園芸科(70) 食品科(35) 動物科(35)	1908年(明治41年)に創立し113年の歴史を有する、全国農業系高校の中心校です。100年前に日本からサクラを送ったお礼に米国から頂いた「ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、106年の樹齢を重ねています。さらに、徳川三代将軍家光遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にあります。全日制は園芸科、食品科、動物科があり、「体験・体感」を重視し、生徒の多様な進路を実現しています。進学が8割、就職が2割です。定時制園芸科では農業に関する資格取得に取組むとともに、大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間2年間の専門学習で卒業ができます。
		定	園芸科(30)	
2	都立農業高等学校 〒183-0056 府中市寿町 1-10-2 <a href="http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	【農業に関する学科】 都市園芸科(35) 緑地計画科(35) 食品科学科(35) 【家庭に関する学科】 服飾科(35) 食物科(35)	全日制課程の農業に関する学科(都市園芸科、緑地計画科、食品科学科)では、都立高校初の東京都GAP認証取得や、府中市と連携した環境保全活動に取り組んでいる。都立高校唯一の学科である家庭に関する学科の服飾科と食物科(調理師免許が取得できる)では、ファッションクリエイターや食生活の充実に貢献する調理師を育成している。定時制課程では、「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」の教育目標を達成するため、食品化学科と普通科において特色ある教育活動を実践し、生徒たちの進路実現を図っている。
		定	食品化学科(30) 普通科(30)	
3	都立農芸高等学校 〒167-0035 杉並区今川 3-25-1 <a href="http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	園芸科学科(35) 食品科学科(70) 緑地環境科(35)	明治33年創立。都立農業系高校の中で一番歴史のある学校です。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や農場など広大な校地を有し、生徒は夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取り組み、持続可能な産業社会を担う人材の育成を目指しています。都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作り、保育園・小学校等の児童との農場体験活動など、普段の学習を生かせる場も多く、生徒は主体性と自己有用感を育んでいます。都立高校唯一の馬術部を設置。東京都GAP、JGAP認証取得。
		定	農芸科(30)	
4	都立農産高等学校 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1	全	園芸デザイン科(70) 食品科(70)	東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の6次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FPJ検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどとおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。
		定	農産科(30)	
5	都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 <a href="http://www.mizuho-h.metro.tokyo.jp/">http://www.mizuho-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	畜産科学科(35) 園芸科学科(35) 食品科(35) 生活デザイン科(70)	生命(いのち)に学ぶ学校～生命(いのち)に学び夢を叶える～をキャッチコピーに、地域密着型の教育を推進している。園芸科学科の駅や町をはじめ都民広場での花壇作り。畜産科学科の移動動物園や動物ふれあい体験活動。食品科の江戸東京野菜を用いた「七色唐辛子」による地域活性化プロジェクト。生活デザイン科の高齢者施設や保育所等への訪問とボランティア活動。また、定時制課程の里山保全への取組や瑞穂町ボランティア、農業ボランティアなど、グローバル校としての活動は、地域の方々から感謝されるとともに大きな期待をもたれている。
		定	併合科(普通・農業)(30)	

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
<b>工業に関する学科</b>				
6	都立足立工業高等学校 〒123-0841 足立区西新井 4-30-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/adachikogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/adachikogyo-h/</a>	全	総合技術科 (140)	本校は、昭和38年に開校した工業高等学校で、平成9年に学科改編し総合技術科となった。 令和4年度の新学習指導要領導入に伴い、教育課程を見直し、新たに機械コース・電気システムコース・制御システムコース・情報コミュニケーションコースの4コースに再編成を行い、2年生から各コースを選択する。2年生全員のインターンシップでは足立区内の企業を中心に実施し、地域密着と地域連携を推進している。
7	都立荒川工業高等学校 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 <a href="http://www.arakawakogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.arakawakogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	電気科 (35) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	「ものづくりは、ひとづくりから」を教育理念に、人間力の育成を目指している。電気工事士などの資格取得など、産業社会を支える人材として活躍するためにも、ものづくりに関する技術・技能はもちろんのこと、社会人としての常識やマナーを確実に身に付ける取組を行っている。特に、運動系部活動や学校行事への積極的な参加を推奨し、仲間とともに目標に向かって努力することの大切さを体感させる充実した高校生活へと導く生徒支援体制を強化している。就職希望者の決定率は、例年100%である。
		定	電気・電子科 (30)	
8	都立葛西工業高等学校 〒134-0024 江戸川区一之江 7-68-1	全	機械科 (35) 電子科 (35) 建築科 (70) デュアルシステム科 (35)	昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より新しくなりました。機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になりました。 ①地域産業会と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元の「ねぶた祭」とおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポート等、様々な機関と連携し地域貢献をおとした、工業人・職業人の育成を目指しています。
9	都立北豊島工業高等学校 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 【全日制】 <a href="https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakogyo-h/</a> 【定時制】 <a href="http://www.kitatoshimakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/tei/">http://www.kitatoshimakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/tei/</a>	全	総合技術科 (140)	大正9年に創立され、令和2年に100周年を迎えた。社会に有用な人材育成を行い、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献出来る人材育成に取組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と連携したデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成している。さらに令和2年度よりPBL推進校、令和3年度は防災教育推進校として指定を受け新しい取組みを始めている。工業実習の設備拠点校としても指定を受けており、施設設備を整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。 定時制課程は機械科の単科であり、各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。
		定	機械科 (30)	
10	都立蔵前工業高等学校 〒111-0051 台東区蔵前 1-3-57	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	創立90年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only Oneのものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
		定	建築工学科 (30)	
11	都立工芸高等学校 〒113-0033 文京区本郷 1-3-9 <a href="http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only Oneのものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
		定	マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	
12	都立小金井工業高等学校 〒184-0004 小金井市本町 6-8-9	定	機械科 (30) 電気科・電子科 (30)	平成22年3月に全日制課程が閉課程となり、平成22年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成23年8月に完成した。平成23年9月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
13	都立杉並工業高等学校 〒167-0023 杉並区上井草 4-13-31	全	機械科 (70) 電子科 (35) 理工環境科 (35)	本校は、「学ぶ・創る・考える 未来のスペシャリストを目指して」「ものづくりの心をもって 将来を切り拓く、無限なる可能性」2つのスローガンを掲げ、58年の伝統の上に新しい伝統の上に新しい取り組みを重ね一人一人の夢の実現に向けた教育活動を行っています。「課題研究」を柱に普通教科と専門教科を融合体系化した教育課程を実践し、授業を通じて生徒の学力を伸ばしています。そして、部活動・特別活動を通じて、心身を鍛え、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を磨いています。
14	都立墨田工業高等学校 〒135-0004 江東区森下 5-1-7  http://www.sumida-th.metro.tokyo.jp/	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	令和2年に創立120年を迎えた伝統校である。全日制は、専門学科に4学科を設置した工業高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や各種検定試験の合格に向けた指導を行うほか、外部人材を活用した実践的な教育に取り組み、進路希望達成率100%を維持している。これまでに多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍しており、国内はもとより海外にも活躍の場を広げている。定時制は、総合技術科として4コースを設置し、全日制同様進路希望達成率100%を実現している。さらに、生徒一人一人に応じた実践的教育にも取り組んでいる。
		定	総合技術科 (30)	
15	都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 【全日制】 https://www.metro.ed.jp/sogokoka-h/ 【定時制】 https://www.metro.ed.jp/sogokoka-he/	全	機械・自動車科 (35) 電気・情報デザイン科(70) 建築・都市工学科 (70)	平成18年に2つの工業高校を発展的に統合して開校した。東京ドーム1.2個分の敷地を持つ恵まれた環境な環境の中で、全日制は、理工系大学進学を目指した教育課程を編成し、3年次には多数の選択科目を設定することで多様な希望進路実現を図る。部活動も活発で、運動系11、文化系12の団体が活動している。定時制は、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。部活動は全員加入、進路実現率は7年連続100%である。自校調理の給食がある。
		定	総合技術科 (30)	
16	都立田無工業高等学校 〒188-0013 西東京市向台町 1-9-1  http://www.tanashikougyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は昭和37年12月に開校し、創立59年目を迎える工業高校である。設置学科は機械・建築・都市工学の3学科からなり、都市工学科は全国でも数少ない学科である。また建築科は多摩地区では本校のみに設置されている。「地域との連携」「資格取得」に重点を置いた教育が本校の特色である。「デュアルシステム」を導入し体系的なキャリア教育を実践することで、多くの卒業生が地域産業の技術者として活躍している。Tokyo2020レガシーとして「ものづくり」を通じた障害者・高齢者理解教育の推進にも取り組んでいる。
17	都立多摩工業高等学校 〒197-0003 福生市熊川 215  http://www.tamakogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	機械科 (70) 電気科 (35) 環境化学 (35) デュアルシステム科 (35)	本校は、都立工業高校モデル校として、平成30年度より機械・電気・環境化学の3科すべてを学べるデュアルシステム科を開設した。地域企業の求める人材の育成につながる、産業界から評価されている。都立で唯一の「環境省認定エコアクション21」認証校であり、環境化学科は都内唯一の学科である。各科目とも資格取得に向けて積極的に指導が実践され成果を出している。多くの部活動で本校が会場校になるなど、活発に活動し大きな成果をあげている。
18	都立中野工業高等学校 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 【全日制】 https://www.metro.ed.jp/nakanokogyo-h/ 【定時制】 https://www.metro.ed.jp/nakanokogyo-he/	全	キャリア技術科 (140)	全日制課程は、工業高校としては2校目のエンカレッジスクールです。可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して社会人として必要な基礎・基本を身に付けるとともに、ものづくり(機械、食品工業、工業化学)を通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。また、定時制課程では、1年次後半から機械類型、食品工業タイプのいずれかを選択し、専門性を深めることができます。
		定	総合技術科 (30)	
19	都立練馬工業高等学校 〒179-8909 練馬区早宮 2-9-18  https://www.metro.ed.jp/nerimakogyo-h/	全	キャリア技術科 (175)	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では5系列(機械加工技術、自動車技術、電気設備技術、電子コンピュータ技術、デザイン工芸技術)から選択して、より専門的な学習を行います。令和4年度からは、学校法人小山学園(3つの専門学校)と高専連携(教育課程による授業連携)をスタートします。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
20	都立府中工業高等学校 〒183-0005 府中市若松町2-19-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/fuchukogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/fuchukogyo-h/</a>	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一種電気工事士17名、第二種電気工事士98名の合格者を輩出した。ITパスポート、DD2種等の合格者も増加し、実務に即した資格を取得させる教育活動を展開している。</li> <li>・部活動では、インターハイ出場の陸上競技部、都大会ベスト16の硬式野球部、パフォーマンスロボット全国大会出場のコンピュータ部をはじめ、サッカー部、卓球部、剣道部、バスケット部、軽音学部、自動車整備部等が活発に活動し、地域交流活動も含めて実績を上げている。</li> </ul>
21	都立本所工業高等学校 〒125-0035 葛飾区南水元4-21-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/honjokogyo-he/">https://www.metro.ed.jp/honjokogyo-he/</a>	定	総合技術科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、80年以上の伝統ある夜間定時制の工業高校です。1学年では、総合技術科として工業の基礎全般を学び、2学年からは機械・電気・電子の各類型に希望で分かれて専門知識や技術を学習します。</li> <li>・4年間にわたるキャリア教育を充実させ、生徒の意欲を引き出し進路実現に繋げる「面倒見のよい学校」です。</li> <li>・基礎学力の充実とものづくりの技術力向上を推進し、きめ細かい専門教育や生活指導、資格取得の推奨、校外学習、奉仕体験活動、文化祭、防災活動、インターンシップなど、地域連携を行いながら交流を深めていく学校です。</li> </ul>
22	都立町田工業高等学校 〒194-0035 町田市忠生1-20-2 <a href="http://www.machidakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.machidakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a>	全	総合情報科 (175)	本校は、きめ細かな指導体制と充実した施設・設備（特にPC台数やネットワーク環境）を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。1年では全系列に関連する工業基礎科目を学習し、2・3年では興味・関心、進路希望に基づき、情報デザイン、情報テクノロジー、電気システム、機械システムの4系列の中から一つに所属し、企業等との連携を通して専門性を深めるとともに社会人基礎力を高め、「Society5.0」で活躍できる技術者の育成を目指しています。

工業に関する学科（単位制）

23	都立六郷工科高等学校 〒144-8506 大田区東六郷2-18-2 <a href="http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/">http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/</a>	全 定	プロダクト工学科 (35) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35) ※在京外国人生徒選抜全学科 (各3名) 普通科 (30) 生産工学科 (30)	平成16年4月に開校し、全国初の東京版デュアルシステム、夜間定時制課程を設置しています。将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。令和2年度から日本工学院専門学校との教育連携によるAIシステム・eスポーツ等の先端技術を学べる新規講座を開設しました。先端技術を駆使した教育活動が学べる学校です。定時制は、3修制を取り入れた生産工学科と普通科があり、地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”に取組、16年の伝統を持つ学校行事です。
----	--	--------	--	--

科学技術科

24	都立科学技術高等学校 〒136-0072 江東区大島1-2-31	全	科学技術科 (210)	平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した新しいタイプの進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者・研究者として工学系、理学系、農学系、薬学系、医療系などの分野で活躍できる人材の育成を目指しています。機械・制御系、電子・情報系、化学・バイオ系などの科学技術の基礎的な知識や基本的な技能に関する幅広い学習と、理系大学進学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習、自ら深く考え他者と対話しながらまとめ外部に発表する力を身に付ける特色ある教育活動に力を入れています。
25	都立多摩科学技術高等学校 〒184-8581 小金井市本町6-8-9	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。

商業に関する学科

26	都立足立高等学校 〒120-0011 足立区中央本町1-3-9	定	普通科 (30) 商業科 (30)	学級数10、在籍生徒数約200名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級（各学年1学級）である。学校規模を生かし定時制単独の文化祭やスポーツ大会など、数多くの学校行事が行われている。運動部を中心に部活動も盛んであり、定通の全国大会にも出場している。定時制専用の情報処理教室があり、令和2年度に更新された。コンピュータ会計の資格取得の指導等も行っている。
----	---------------------------------------	---	----------------------	---

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
27	都立荒川商業高等学校 〒120-8528 足立区小台 2-1-31	全 定	閉校	定時制72期生、全日制60期生を最後の卒業生として、令和4年3月31日をもちまして、本校は閉校いたします。長年にわたり、本校の教育活動にご理解ご協力をいただいた全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。
28	都立五日市高等学校 〒190-0164 あきる野市五日市 894  http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/	全	普通科 (159)	東京の最西部に位置する本校は、令和4年度から地域に根差した「特色のある普通科」として出発します。全日制では、2年生からアウトドア、マネジメント、アドバンスの3類型に分かれ、地域の特色を生かした教育活動を行います。近隣の自治体、大学や企業等と連携し、地域に密着したテーマや課題を中心とした探究活動を経験的に学ぶ「五日市メソッド」により地域に貢献できる人材を育成しています。 定時制は小規模であり落ち着いた雰囲気での学習に取り組めます。全日制同様に地域と連携した取組を実践しています。
		定	普通科 (30)	
29	都立葛飾商業高等学校 〒125-0051 葛飾区新宿 3-14-1  http://www.katsushikashogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	ビジネス科 (210)	全日制は、60年の伝統を誇る地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現に取り組んでいる。また、健全育成に努めるとともに、資格取得指導と実学のビジネス教育の充実を図り、商品開発や店舗販売実習などを実施し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。29～31年度アクティブ・ラーニング推進校、30～31年度NIE実践校、31～令和3年度ALCMコミュニティ参加校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。なお、29年度より、JRC学校加盟校として、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。 定時制では進路実現を目指し、基礎学力〔葛商ミニマム〕の定着、資格取得の支援をしている。また、かつしか元気野菜の販売等を通じて社会体験を積ませている。
		定	普通科 (30) 商業科 (30)	
30	都立江東商業高等学校 〒136-0071 江東区亀戸 4-50-1  https://www.metro.ed.jp/kotosyogyo-h/	全	ビジネス科 (175)	本校は創立116年、都立商業高校として伝統と革新をキーワードとして「人材育成」に力を入れている歴史ある伝統校です。ビジネス三言語（IT、会計、英語）を重視して、実践的なビジネス教育に取り組んでおり、社会人としてのマナーを身に付け、充実した学校生活を目指しています。生徒に愛され、地域から親しまれ、都民の皆様信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動を推進しています。
31	都立芝商業高等学校 〒105-0022 港区海岸 1-8-25  https://cms.metro.ed.jp/sibasyogyo-h//	全	ビジネス科 (175)	創立97周年を迎えた東京都の商業高校の拠点校です。グローバル化する社会環境の中で自立することのできる人材を育成するために、1年生全員のインターンシップ、浜松町・竹芝地区の企業等との連携、福井県池田町との交流等、特色ある教育活動を展開しています。また、資格取得やマナー指導にも定評があり、これらの取組が評価され平成30年度にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しました。JR浜松町駅・都営地下鉄大門駅・ゆりかもめ竹芝駅徒歩5分に位置する、ビジネス教育には最適な環境にある伝統校です。
32	都立第一商業高等学校 〒150-0035 渋谷区鉢山町 8-1  https://www.metro.ed.jp/daiichishogyo-h/	全	ビジネス科 (210)	学校創立100年を超える商業の伝統校。東京都の商業高校のリーダーとして、簿記部や珠算部など毎年多くの商業系部活動が全国大会に進出している。令和3年度から4か年計画で、東京都教育委員会から地域探究推進校に指定され、國學院大学研究開発センターと連携し、同大が実施する「渋谷学」を導入して渋谷・代官山地域に関する探究学習を推進することで注目を集めている。大学・専門学校への進学者が約6割と商業高校でありながら進学希望者の多い学校としても知られている。
33	都立第三商業高等学校 〒135-0044 江東区越中島 3-3-1  http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	ビジネス科 (175)	全・定ともに、多くの卒業生が実業界や経済界の中枢で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次のMission Statement（使命宣言）を約束します。 ①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。 ②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。 ③卒業後の進路実現100%を目指します。 ④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。
		定	商業科 (30)	

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
34	都立第四商業高等学校 〒176-0021 練馬区貫井 3-45-19 <a href="http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a>	全	ビジネス科 (175)	一マナーの四商、資格の四商、実学の四商、社会人基礎力を養成する学校—昭和15年の開設から今日に至るまで、81年の伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。平成30年度より商業科と情報処理科が統合され「ビジネス科」となりました。令和4年度より新しいカリキュラムとなりますが、簿記、情報処理、ビジネスの各分野は、選択科目を通じて、系統的に学ぶことができ、ITパスポートや各種検定取得などで着実に力をつけることができます。また、大学や企業などの外部機関と連携して、調査・研究や商品開発を行うなど、実学のビジネス教育を推進しています。部活動では、関東大会出場のアーチェリー部の他、硬式野球部、サッカー部、女子バスケットボール部、女子ソフトボール部、吹奏楽部などが、活躍しています。
35	都立第五商業高等学校 〒186-0004 国立市中 3-4-1 【全日制】 <a href="http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-h/">http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-h/</a> 【定時制】 <a href="http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-he/">http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-he/</a>	全	ビジネス科 (210)	全日課程は、創立80年を迎えた多摩地区唯一の商業高校です。平成30年度からビジネス科へ改編し、「東京のビジネス」「ビジネスアイデア」「課題研究」を柱とし、これまで取り組んできた高度資格指導に加え、今まで以上に高大連携や地域連携等の充実を図り、新しいビジネス教育を推進します。また、大学進学指導と都立高校屈指の就職実績についてもさらに磨きをかけていきます。定時課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成28年度から標準服を制定しました。過去にパソコン部が全商ワープロ全国大会に4年連続出場しています。
		定	商業科 (30)	
ビジネスコミュニケーション科				
36	都立千早高等学校 〒171-0044 豊島区千早 3-46-21 <a href="http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/">http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。</li> <li>「使える英語」を目指して学校設定科目「多読と発表」を授業に取り入れている。英会話もイングリッシュキャンプ(1年)、海外修学旅行(2年)、海外ビジネス研修(希望者)などの学校行事で実践。</li> <li>新しいビジネス教育分野にNPO/NGOを学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。また、SDGsの取組を展開している。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学指導が特色。</li> </ul>
37	都立大田桜台高等学校 〒143-0027 大田区中馬込 3-11-10 <a href="http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/">http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	ビジネスコミュニケーション科 (175)	「使える英語」教育と「役立つビジネス」教育を学校教育の2本柱とした進学型専門高校です。13,000冊以上の英語図書を活用した「多読・多聴」の授業や、1年生英語合宿「イングリッシュ・サマーキャンプ」、2年生海外修学旅行、海外からの交流生受入れなどを通して、「使える英語」を楽しく学びます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション」等のビジネス科の特色ある授業や、各種コンテストへの出場、企業と連携したビジネスに関する研究活動などを通して、「役立つビジネス」を社会から学びます。さらに、ブックトーク・フェスティバル、百人一首大会などを行い、生徒の言語活動を推進しています。
家庭・福祉に関する学科				
38	都立忍岡高等学校 〒111-0053 台東区浅草橋 5-1-24 <a href="http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp/">http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp</a>	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	普通科と生活科学科を併置する全日制・単位制の学校として、平成18年度に改変された。生活科学科の目標は、「大学進学希望の実現」と「将来のスペシャリストとして必要な資質・能力の育成」である。単位制を活用した、多様な選択科目を設置するとともに、大学や専門学校と連携した模擬授業や大学教授・市民講師による専門性の高い授業を展開している。7・8限の自由選択科目では、茶道、華道、将棋、日本舞踊などの「日本の伝統文化」、中国語、フランス語、韓国語などの「語学」、「自己表現」力を高める朗読、モダンバレエなどの特色ある講座を設置している。
39	都立野津田高等学校 〒195-0063 町田市野津田町 2001 <a href="http://www.nozuta-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.nozuta-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a>	全	福祉科 (35)	<p>【福祉科の概要】平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。福祉科は、国家資格である介護福祉士の養成校として、多くの合格者を輩出している。</p> <p>【特色】・介護、福祉、医療などの専門的な知識・技術の習得。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動による地域との交流。</li> <li>福祉施設実習を通しての実践的な学習。</li> </ul>
40	都立赤羽北桜高等学校 〒115-0056 北区西が丘 3-14-20 <a href="https://www.metro.ed.jp/akabanehokuo-h/">https://www.metro.ed.jp/akabanehokuo-h/</a>	全	家庭学科：保育・栄養科 推薦 (42) 学力 (98) 家庭学科：調理科 推薦 (10) 学力 (25) 福祉学科：介護福祉科 推薦 (10) 学力 (25)	本校は、幼児教育・保育系や栄養・健康系の上級学校への進学を目指す「保育・栄養科」、調理師資格の取れる「調理科」、介護福祉士国家試験受験資格を得られる「介護福祉科」の3つの科を併せもつ専門高校です。3科ではそれぞれ、家庭分野、福祉分野のスペシャリストを目指して、基礎的・基本的な学力と専門的な知識や技術の定着と伸長を図る学習に取り組んでいます。また、探究活動の充実を図り、地域との連携をとおして、学んだことを生かして地域社会のために生かそうとする使命感と社会貢献しようとする志を育てていきます。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
<b>国際関係に関する学科</b>				
41	都立大島海洋国際高等学校 〒100-0211 大島町差木地字下原 996-1  http://www.metro.ed.jp/osimakaiyokokusai-h/	全	海洋国際科 (70)	「海に学び、未来を拓く。」というコンセプトの下、都内で唯一、水産・海洋関連分野を学ぶことができる学校です。学科改編により、「船舶運航系」「海洋生物系」「海洋産業系」「海洋探究系」を導入し、大学進学に向けたカリキュラムを編成しています。また、大型実習船「大島丸」で航海実習を行い、小型船舶操縦士や潜水関係の資格を取得することもできます。寄宿舎(ドミトリ)では、集団生活を通して協調性や規範意識、コミュニケーション能力を育成し、夜は「宅習」において、目標とする進路に向けた学習に取り組んでいます。
<b>併合科</b>				
42	都立大島高等学校 〒100-0101 大島町元町字八重の水 127  http://www.osima-h.metro.tokyo.jp/	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	併合科では、専門科目の基礎から応用まで実習を通して実践力を身に付けます。農林では野菜・畜産・草花・地域資源活用分野で地域産業振興を重視した学習活動を行います。特産のツバキに関しては、世界水準の学校椿園(平成28年ICS優秀つばき園認定)での研究も可能です。家政は生活産業のスペシャリスト育成に向けて、家庭科にかかわる内容を深く学び、より専門的な知識と高度な技術を身に着けます。全校の取組として、グローバル社会に対応できる人材育成や地域社会に貢献できる意識を涵養する活動もあります。
		定	普通科 (30)	
43	都立八丈高等学校 〒100-1401 八丈町大賀郷 3020  http://www.hachijo-h.metro.tokyo.jp/	全	普通科 (80) 併合科 (園芸・家政) (35)	教育目標は全日制課程「誠実」「慈愛」「自立」、定時制課程「自主」「健康」「民主」で70年の歴史のある伝統校です。八丈町はハワイと姉妹都市で、黄八丈、八丈太鼓と歌や踊り、海洋文化など、歴史と伝統、文化の町です。全・定ともに島留学生を受入れています。町や小・中学校との連携を大切にした系統的な学習を行う少人数授業が特色で、国公立大学等の受験から基礎基本の習得を目指す生徒まで、きめ細かく丁寧に指導します。「わかりやすい授業」から「生徒が自ら学びたい授業」を学校全体で目指しています。生徒の卒業後の進路は、国公立大学をはじめとする進学や、公務員を含む就職と多様です。生徒会活動や、全・定合同の八高祭などの学校行事も盛んです。詳細は本校ホームページやTwitterを御覧ください。
		定	普通科 (30)	
44	都立三宅高等学校 〒100-1211 三宅村坪田 4586  http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
<b>産業科</b>				
45	都立橋高等学校 〒131-0043 墨田区立花 4-29-7  https://www.metro.ed.jp/tachibana-h/	全	産業科 (210)	本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成19年4月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。また、令和4年度から「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金、染織などの伝統工芸に対して興味・関心を高める教育を本格的に進めていきます。
		定	産業科 (30)	
46	都立八王子桑志高等学校 〒193-0835 八王子市千人町 4-8-1  http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	日本初の産業科高校として、高度な資格取得や検定合格及び大学等への進学に力を入れ、「未来の産業人」を育てる学校です。教育課程は45分授業7時間授業により、専門教科の学習とともに、普通教科の学習を充実させることで大学進学にも対応しています。大学等への進学者は約80%で、令和2年度卒業生の現役合格者は、MARCH5名、日東駒専10名、多摩美術大学4名、武蔵野美術大学3名等です。就職希望者は、18名全員が合格しています。産業界との連携にも力を入れ、八王子商工会議所等と連携した企業展示会の開催をはじめ、八王子織物工業組合、八王子青年会議所、地元八王子市の商店等と連携した事業を展開しています。
<b>情報科 (単位制)</b>				
47	都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 新宿区山吹町 81  http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp	定	普通科 (100) 情報科 (65)	各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります(単位制)。定時制(普通科・情報科)と通信制(普通科)があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます(三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます(4部制)。情報科は、東京都唯一の「情報」の専門学科です。29～31年度はSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っています。昨年度は、国公立大や、早慶上理大・GMARCH等の難関私大に定通合わせて現役で30名以上が合格しています。
		通	普通科 (50)	

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
<b>総合学科</b>				
48	都立王子総合高等学校 〒114-0023 北区滝野川 3-54-7	全	総合学科 (236)	平成23年度開校、全日制総合学科高校 ○“Design your Dream” (自分らしく生きるために) をキャッチフレーズとしている。自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向けて意欲的に計画し、実行する行動力と態度を身に付けます。 ○「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。
49	都立青梅総合高等学校 〒198-0041 青梅市勝沼 1-60-1  <a href="https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/">https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/</a>	全	総合学科 (236)	平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校で、人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を設置しています。自立の心と個性を伸ばすことを教育目標とし、自己理解の深化及び職業観・勤労観の確立を図りながら、キャリア教育の視点を重視した教育活動を行います。また、「気づく力」「選ぶ力」「挑戦する姿勢」「やり抜く力」などを育てる教育活動を通じて、自己実現や社会貢献に向けて主体的にキャリアを切り開いていく、自立した社会人となる人材を育成します。
		定	総合学科 (90)	
50	都立葛飾総合高等学校 〒125-0035 葛飾区南水元 4-21-1  <a href="https://www.metro.ed.jp/katsushikasogo-h/">https://www.metro.ed.jp/katsushikasogo-h/</a>	全	総合学科 (196)	平成19年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成29年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの4系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開設して課題研究に取組ませ、卒業生全員に2万字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。
51	都立杉並総合高等学校 〒168-0073 杉並区下高井戸 5-17-1	全	総合学科 (236)	平成16年4月に、東京都で3番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化(1年次で中国語かハングル)、台湾修学旅行、姉妹校交流(オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内高高級職業高等学校、韓国の美林女子情報科学高等学校)、年間5回程度の海外訪問団受け入れ、年間5名程度の留學生の受け入れ、交換留学(オーストラリアとフランス)等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年2人程度が1年間の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の5系列を持つ。
52	都立世田谷総合高等学校 〒157-0076 世田谷区岡本 2-9-1  <a href="http://www.setagaya-sogo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html">http://www.setagaya-sogo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html</a>	全	総合学科 (236)	○平成20年4月開校。 ○幅広い6系列(社会・教養・環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり)に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー(身だしなみ、頭髪等)を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視。
53	都立つばさ総合高等学校 〒144-8533 大田区本羽田 3-11-5  <a href="http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/">http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (236)	平成14年に開校した都立2校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の5系列を配備し、生徒が適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて『自分だけの時間割』を編成して学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001(国際環境認証)を取得し、環境教育に力を入れ、平成21年度「文部科学大臣賞」、平成30年度「都教委オリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワード」等を受賞している。恵まれた施設のもと部活動も盛んであり、様々な地域連携活動を通して地域に愛され親しまれている学校である。
54	都立晴海総合高等学校 〒104-0053 中央区晴海 1-2-1  <a href="http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (276)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」や「課題研究」によりキャリア教育を充実させている。情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の6系列に多様な選択科目を設置し、国公立大学進学も視野に入れた生徒の学力向上と進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」によって、未来を切り拓き、夢の実現を目指す生徒を育成する高校である。



	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
55	<b>都立東久留米総合高等学校</b> 〒203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 <a href="http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (236)	平成19年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 全日制では、「25歳の自分創り」をスローガンに、生徒の夢の実現に向けキャリア教育の充実を図っている。国際・人文社会、自然科学探求、スポーツ、芸術・表現、看護・保育の5系列を設置。 定時制では、教養、情報・ビジネスの2系列を設置するとともに、三修制を実施。
		定	総合学科 (60)	
56	<b>都立若葉総合高等学校</b> 〒206-0822 稲城市坂浜 1434-3 <a href="https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/">https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/</a>	全	総合学科 (236)	平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を持つ。開校以来、「原石を宝石に、君の個性に輝きを！」をスローガンとして掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育活動に取り組んでいる。
57	<b>都立町田総合高等学校</b> 〒194-0037 町田市木曾西 3-5-1 <a href="http://www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp">http://www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp</a>	全	総合学科 (236)	○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校。 ○校訓「創」；「自分創り」に取り組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列、国際理解教育の基礎を成す「日本文化」の授業、社会と連携し体験を重視した教育活動。 ○「キャリア教育」を根幹に据えた進路指導、探究活動の推進。 ○海外修学旅行及び海外研修旅行の実施。 ○東京都教育委員会指定「学力向上研究校」
<b>総合学科 (チャレンジスクール)</b>				
58	<b>都立大江戸高等学校</b> 〒135-0015 江東区千石 3-2-11	定	総合学科 (180)	平成16年4月開校の三部制・単位制・総合学科の高校です。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行っています。体験学習や実習、行事などを重視し、少人数の授業で、丁寧な指導に取り組んでいます。「チャレンジする人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標の下、様々な専門家の支援を受け、一人一人の自立を支えています。
59	<b>都立桐ヶ丘高等学校</b> 〒115-0052 北区赤羽北 3-5-22 <a href="https://www.metro.ed.jp/kirigaoka-he/">https://www.metro.ed.jp/kirigaoka-he/</a>	定	総合学科 (180)	平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール（総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制高校）です。『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
60	<b>都立世田谷泉高等学校</b> 〒157-0061 世田谷区北鳥山 9-22-1 <a href="http://www.setagayaizumi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/">http://www.setagayaizumi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/</a>	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「であう」「みがく」「いきる」を教育目標として、生徒ひとりひとりを大切に、個々の生徒の能力や個性、適性を生かした教育課程を編成しています。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
61	<b>都立稔ヶ丘高等学校</b> 〒165-0031 中野区上鷺宮 5-11-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/">https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/</a>	定	総合学科 (240)	三部制のチャレンジスクールで、静かな学習環境の中で学んでいます。学校設定科目「コーピング」でコミュニケーション能力の向上を図るとともに、商業科目では簿記やマーケティングなどを開設しています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
62	都立六本木高等学校 〒106-0032 港区六本木 6-16-36 <a href="http://www.roppongi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/">http://www.roppongi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/</a>	定	総合学科 (180)	平成17年4月に開校したチャレンジスクール。小中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と3つの系列に属する特色のある学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。

普通教育を主とする学科 (単位制)

63	都立浅草高等学校 〒111-0024 台東区今戸 1-8-13	定	普通科 (240)	平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建ての校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと地域の伝統工芸や稲作体験のできる「体験学習」などを特色とする。
----	---------------------------------------	---	-----------	--

国立高等学校会員名簿 (1)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	東京工業大学附属科学技術 高等学校 〒108-0023 港区芝浦 3-3-6 <a href="https://www.g.hst.titech.ac.jp">https://www.g.hst.titech.ac.jp</a>	全	科学・技術科 (推薦60、一般140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザインの5分野に分かれる。

高等専門学校会員名簿 (1)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス 〒140-0011 品川区東大井 1-10-40 荒川キャンパス 〒116-8523 荒川区南千住 8-17-1 <a href="https://www.metro-cit.ac.jp">https://www.metro-cit.ac.jp</a>	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成を使命とし、本科5年一貫教育による実践的技術者、本科と専攻科7年一貫教育による総合的実践的技術者の育成を担う高等教育機関です。本科ものづくり工学科では品川キャンパスに機械システム、AIスマート、電気電子、情報システムの4工学コースが、荒川キャンパスに情報通信、ロボット、航空宇宙、医療福祉の4工学コースがあり、1年時には混合クラスとし、2年時より各コースに分かれます。また、専攻科創造工学専攻修了時には学士(機械工学、電気電子工学、情報工学)の学位が得られます。

## 専修学校会員名簿(37)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国学園保育専門学校 〒133-8585 江戸川区西小岩5-7-1 <a href="http://www.aikokuhosen.ac.jp">http://www.aikokuhosen.ac.jp</a>	昼	幼児教育科(50) 介護福祉士専攻科(募集停止中)	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校です。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得できます。学生は、完備された学園において、少人数制の中、現代社会のニーズに合った専門的な学びを楽しく熱心に修得しています。就職においても幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職しています。勤務先から専門に精通して明るく元気で、礼儀正しいと評判を得ています。今後も職業に直結した学びが深められるような教育を展開して行きます。
2	青山製図専門学校 〒150-0032 渋谷区鶯谷町7-9	昼 夜	建築工学科(30)、建築設計デザイン科(60)、住宅設計デザイン科(30)、建築インテリア工学科(30)、商空間デザイン科(30)、建築インテリアデザイン科(40)、建築設計研究科(100) 建築科(50) インテリア工学科(30)	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の9学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	御茶の水美術専門学校 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-3 <a href="https://senmon.ochabi.ac.jp">https://senmon.ochabi.ac.jp</a>	昼 夜	デザイン・アート科 3年制(100) 高度デザイン・アート科 4年制(15) デザインアートコース(夜間/社会人・学生対象) ・デザインアート思考®講座(15) ・ロジカルデッサン™講座(15) ・デザインのロジック講座(15)	ゼロからはじめてプロになる®。「産学連携」課題にプロジェクトベースドラーニングで挑む、実学中心の美術専門学校。御茶の水美術専門学校(OCHABI)は、全学科が文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けており、必修科目である「産学連携授業」では、ゼロから「SDGs」に貢献する商品やサービスを考え、実際に企業へプレゼンテーションしていきます。こうして繰り返しクリエイティブを軸としたプロジェクトベースドラーニングを行うことで、効果的に自分のクリエイティビティーを実社会で活かせるビジネススキルへと変換していきます。
4	香川調理製菓専門学校 〒170-8481 豊島区駒込3-24-3	昼	調理マイスター科(40) 調理師科(120) 製菓科(120)	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。
5	窪田理容美容専門学校 中野区中野4-11-1 <a href="https://www.kubota.ac.jp/">https://www.kubota.ac.jp/</a>	昼 夜 昼 通	美容学科(200) 美容学科トライチェンジコース(40) 理容学科(40) テクニカルスタイリスト科ビューティーコース(40) テクニカルスタイリスト科アーティストコース(40) 美容学科(160) 理容学科(40)	昭和25年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス業従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。 新たに理容師と美容師、両方の国家資格を取得できるダブルライセンスコースが開講し、「まつ毛エクステンション」のできる理容師、「シェービング」のできる美容師を養成しています。
6	国際共立学園高等専修学校 〒116-0013 荒川区西日暮里2-33-23 <a href="https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/">https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/</a>	昼	美容師科(3年制・40) 製菓衛生師・調理師科(3年制・32)	「学校法人国際共立学園」は、理容・美容の専門学校として67年の歴史を重ね、令和2年4月より「美容師科」と「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科をもつ「国際共立学園高等専修学校」を開校いたしました。本校は、「夢をかなえる人づくり」を教育テーマに掲げ、生徒一人一人の夢を実現させることを目指しています。「製菓衛生師・調理師科」は1つの学科で製菓衛生師と調理師の2つの資格を取得することができます。また、本校は大学入学資格も取得できます。
7	国際理容美容専門学校 〒116-0014 荒川区東日暮里5-17-12 <a href="http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/">http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/</a>	昼 通	理容科(2年・60) 美容科(2年・160) ビジネス美容科(2年・40) ビューティアーティスト科(2年・40) 理容科(3年・30) 理容科美容修得者コース(1.5年・10) 美容科(3年・100) 美容科理容修得者コース(1.5年・20)	国際共立学園は創立67年の伝統ある学園です。この歴史の中で実践し続けている教育の柱は「人間教育」です。職人の技術偏重主義に決して偏ることなく、あらゆる職業を通して、豊かな人間性を併せ持った職業人育成を目指して参りました。また、2020年には「美容師科」、「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科を持つ国際共立学園高等専修学校を新たに開校いたしました。本学園は「夢をかなえる人づくり」を教育のテーマに、これまでの教育実績をさらに進化させ、社会に貢献できる人間性豊かな職業人を育成して参ります。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
8	<p>新東京歯科技工士学校</p> <p>〒143-0016 大田区大森北 1-18-2</p> <p><a href="https://www.dt.ntdent.ac.jp/">https://www.dt.ntdent.ac.jp/</a></p>	昼	<p>歯科技工士科 I 部 (90)</p> <p>歯科技術予備教育科 (35)</p> <p>歯科技工士科午後部 (35)</p>	<p>新東京歯科技工士学校は、1980年開校以来、厚生労働省指定養成所として歯科医療の国家資格「歯科技工士」を取得した専門職を養成してきました。また、企業や医療関連団体と連携した教育が特長であることから、文部科学省から職業実践専門課程として認定され、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとしています。</p>
9	<p>中央工学校</p> <p>〒114-8543 北区王子本町 1-26-17</p> <p><a href="http://chuoko.ac.jp">http://chuoko.ac.jp</a></p>	<p>昼</p> <p>夜</p>	<p>建築学科 (60)、建築工学科 (60)、建築設計科 (180)、木造建築科 (60)、建築設備設計科 (40)、建築室内設計科 (60)、インテリアデザイン科 (40)、エンターテインメント科 (20) 土木建設科 (80)、造園デザイン科 (20)、測量科 (80)、地理空間情報科 (40)、CAD 設計開発科 (30)</p> <p>建築科 (80) 土木測量科 (40)</p>	<p>中央工学校は1909年(明治42年)に創立され、校歴112年を数えます。卒業生総数は10万人を超え、それぞれの分野で活躍しています。教育理念を『厳しい実務教育』と『人間涵養教育』とし、本格派の技術者の育成をしています。資格についても、建築系の学科では建築士の受験資格、土木・測量系の学科では測量士補が取得できるなどのカリキュラムを備えています。就職指導においては、クラス担任と就職指導の担当職員が、希望職種に就職できるようサポートしています。『就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。</p>
10	<p>東京 IT プログラミング &amp; 会計専門学校</p> <p>〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1</p>	昼	<p>会計士学科 (2年・51)</p> <p>税理士学科 (2年・40)</p> <p>情報処理科 (2年・40)</p> <p>IT ビジネス学科 (2年・40)</p> <p>情報メディア学科 (2年・40)</p>	<p>本校の最大の特色は、大学生でも現役合格がむずかしい公認会計士試験・税理士試験や高度情報処理試験に高校卒業生対象の専門課程から毎年多くの現役合格者を輩出していることです。その理由は、開学からずっと実施している楽しく学んで実力が身につく「ゼミ学習」にあります。</p>
11	<p>東京エアトラベル・ホテル専門学校</p> <p>〒184-8543 小金井市前原町 5-1-29</p> <p><a href="https://technosac.jp/air/">https://technosac.jp/air/</a></p>	昼	<p>エアラインサービス科 (80)、英語キャリア科 (40)、ホテル科 (60)、ブライダル科 (60)、総合ビジネス科 (20)、観光・ツーリズム科 (30)、鉄道交通科 (40)、研究科 (20)、大学併修学科 (20)</p>	<p>昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。本学ではテクノスならではのゼミをスタートしました。このゼミは学んだ専門知識を早速実践するという授業。学生が実際の社会問題に主体的に取り組み、課題を見つけ、それを解決していくという、実践力、協同力、企画・提案力も養われます。また、独自のWスクールシステムによって専門教育と大学の通信教育を併修。「高度専門士」と「学士」を同時に取得できます。</p>
12	<p>専門学校東京工科自動車大学校</p> <p>〒164-0001 中野区中野 6-21-16</p> <p><a href="https://car.ttc.ac.jp/">https://car.ttc.ac.jp/</a></p>	昼	<p>1級自動車整備科 (4年・50名)</p> <p>自動車整備科 (2年・100名)</p> <p>エンジンメンテナンス科 (2年・50名)</p>	<p>日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取れる」教育をしております。二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ100%を達成。平成26年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。</p>
13	<p>東京工学院専門学校</p> <p>〒184-8543 小金井市前原町 5-1-29</p> <p><a href="https://technosac.jp/eng/">https://technosac.jp/eng/</a></p>	昼	<p>コンサート・イベント科 (60)、音響芸術科 (40)、ミュージック科 (30)、映像メディア学科 (30)、声優・演劇科 (40)、ゲームクリエイター科 (40)、CGクリエイター科 (30)、デザイン科 (50)、アニメ・マンガ科 (70)、スポーツビジネス科 (60)、幼児保育学科 (40)、こども学科 (40)、教育専攻科 (40)、公務員科 (20)、建築学科 (40)、インテリアデザイン科 (20)、情報システム科 (40)、電気電子学科 (40)、航空学科 (20)、法律情報科 (30)、経営情報科 (30)、大学併修学科 (40)、研究科 (20)</p>	<p>昭和34年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外10大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を50年以上社会に送りだしている。本学ではテクノスならではのゼミをスタート。このゼミは学んだ専門知識を早速実践するという授業。学生が実際の社会問題に主体的に取り組み、課題を見つけ、それを解決していくという、実践力、協同力、企画・提案力も養われます。また、独自のWスクールシステムによって専門教育と大学の通信教育を併修。「高度専門士」と「学士」を同時に取得できます。</p>
14	<p>東京誠心調理師専門学校</p> <p>〒144-0052 大田区鎌田 3-21-4</p> <p><a href="https://www.seishingakuen.ac.jp/tokyo/">https://www.seishingakuen.ac.jp/tokyo/</a></p>	<p>専門</p> <p>高等</p>	<p>調理師科 2年制 (160)</p> <p>調理師科夜間部 2年制 (40)</p>	<p>1970年創立。2007年8月急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科2年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。この他、毎年2月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012年からは、週3日制の夜間部2年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学しやすい学科を設立。</p>

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
15	<b>専門学校 東京テクニカルカレッジ</b> 〒164-8787 中野区東中野 4-2-3  https://tec.ttc.ac.jp/	昼 建築監督科 (40)、建築科 (80)、インテリア科 (40)、IoT+AI科 (40)、データサイエンス+AI科 (40)、ゲームプログラミング科 (40)、情報処理科 (40)、Web 動画クリエイター科 (30)、環境テクノロジー科 (30)、バイオテクノロジー科 (30)	令和4年度募集学科及び募集人数 建築科 (40)	本校は1987年に国立市に開校し、2009年に現在の東中野校舎へ移転しました。 学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受けとめ、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、2014年には全学科が職業実践専門課程に認定され、企業や地域の皆様とともに専門人材の育成に尽力してまいりました。 授業シートとカルテを使い学習成果を確認しながら専門性を高める「ステップクリア授業」と仲間と仕事を進める力を養う問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト」が大きな特長です。
16	<b>東京デザインテクノロジーセンター専門学校</b> 〒169-0075 新宿区高田馬場 2-11-10  https://www.tech.ac.jp/	昼 スーパー IT 科 (120) IT・デザイン科 (120)		本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、ITを核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。
17	<b>東京美容専門学校</b> 〒161-8557 新宿区下落合 1-2-4  http://www.tahb.ac.jp	昼 美容総合科ヘアスタイリストコース (40) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容総合科ヘアメイクコース (40) (専門課程)	美容総合科ヘアスタイリストコース (40) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容総合科ヘアメイクコース (40) (専門課程)	本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に70年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
18	<b>東京法律公務員専門学校</b> 〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1	昼 法律学科 (4年・40)、法律学科 (2年・40)、法律ビジネス学科 (2年・40)、法律社会学科 (2年・40)、不動産ビジネス学科 (2年・37)、行政学科 (1年・72)		1983年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も充分に発揮されています。最大の特徴である「ゼミ学習」は、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中で理解がすすみます。さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。
19	<b>東京 YMCA 医療福祉専門学校</b> 〒186-0003 国立市富士見台 2-35-11	昼 社会福祉専門課程 介護福祉科 (2年) (80)  医療専門課程 作業療法学科 (3年) (30)		世界のYMCAに共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京YMCA学院によって1996年に設立されました。学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。
20	<b>日本ウェルネススポーツ専門学校</b> 〒179-0071 練馬区旭町 3-23-22  https://www.nihonwellness-sport.jp/	昼 スポーツトレーナー科 (40) 健康スポーツ科 (40) 健康福祉科 (37) ウェルネス IT 科 A (4月入学) (30) ウェルネス IT 科 B (10月入学) (30)		1998年(平成10年)4月に開校した、社会体育及び、情報技術に関する知識・技能を修得する専門教育を行い、その分野のスペシャリストを養成する学校です。 競技スポーツ、トレーナー養成そして幼児体育指導者養成で顕著な実績を挙げ、また卒業後は内部推薦で系列大学の3年次に進級することもできます。
21	<b>日本工学院専門学校</b> 〒144-8655 大田区西蒲田 5-23-22	昼 放送芸術科 (160)、声優・演劇科 (120)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (200)、ゲームクリエイター科四年制 (120)、ゲームクリエイター科 (120)、CG映像科 (120)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (360)、音響芸術科 (120)、ダンスパフォーマンス科 (80)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (80)、電子・電気科 (120)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40)		1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、各分野の第一線で活躍していることが本校の教育の何よりもの実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウとグレードの高い専門教育の実現のため、「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わり、より専門性を追求する学習環境を実現しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」の5つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造に貢献しています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
22	<p>日本工学院八王子 専門学校</p> <p>〒192-0983 八王子市片倉町 1404-1</p> <p><a href="https://www.neec.ac.jp/hachioji/">https://www.neec.ac.jp/hachioji/</a></p>	昼	放送芸術科 (80)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (80)、CG映像科 (80)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (40)、コンサート・イベント科 (160)、音響芸術科 (40)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一級自動車整備科 (25)、自動車整備科 (75)、応用生物学科 (40)、建築学科 (80)、建築設計科 (120)、土木・造園科 (40)、機械設計科 (40)、スポーツトレーナー科三年制 (80)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (80)、鍼灸科 (30)、柔道整復科 (30)、医療事務科 (40)	1947年に大田区蒲田に創立した創実学園を母体とし、1987年に八王子市に開校。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を整備しています。 充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、質の高い専門教育を実践。現在では、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「スポーツ・医療」の6つのカレッジに計32学科を設置し、専門力と人間力を併せ持った、社会に役立つ人材を育成しています。
23	<p>専門学校日本鉄道&amp;スポーツビジネスカレッジ</p> <p>〒166-8567 杉並区高円寺南 5-32-10</p>	昼	鉄道・トラベル学科 (2年・68) ビジネス総合学科 (2年・28) スポーツ学科 (2年・40)	本学の特色である「ゼミ学習」では、学生同士がお互いにおしえあうことにより学習意欲がわき、楽しい雰囲気の中で理解がすすみ、さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。資格を取って知識と技術、実習をとおして実践力を養っていきます。
24	<p>日本電子専門学校</p> <p>〒169-8522 新宿区百人町 1-25-4</p> <p><a href="https://www.jec.ac.jp/">https://www.jec.ac.jp/</a></p>	昼 夜	コンピュータグラフィックス科 (160)、CG映像制作科 (80)、コンピュータグラフィックス研究科 (40)、ゲーム制作研究科 (100)、ゲーム制作科 (160)、ゲーム企画科 (40)、アニメーション科 (50)、アニメーション研究科 (30)、グラフィックデザイン科(30)、AIシステム科(70)、Webデザイン科(30)、ゲーム・アプリケーション科 (40)、DXスペシャリスト科 (40)、情報処理科 (140)、情報システム開発科 (80)、高度情報処理科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (80)、電気工学科 (50)、電気工事技術科 (50)、電子応用工学科 (40)	1951年創立。CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の9分野に昼夜24学科を設置。創立時から続く『コンピュータ・電気・電子』教育を通して、産業界での知名度が非常に高く「伝統」「信頼」「実績」のある専門学校です。情報処理・CG・ゲーム・モバイルアプリ開発など、日本初の学科を多数開設。「職業教育」と「キャリア教育」を教育方針の2本柱として、世界で活躍できるスペシャリストを育成しています。
25	<p>日本動物専門学校</p> <p>〒166-8567 杉並区高円寺南 4-6-8</p>	昼	動物管理学科 (2年・160)	動物に関する知識と就職に役立つ幅広いビジネス知識を習得し、動物たちとふれあひながら、実践力を身につけます。 インターンシップでは、実際の現場で実践することにより、より一層成長することができます。「ゼミ学習」により楽しく学びながら実力をアップしていきます。
26	<p>専門学校 日本ホテルスクール</p> <p>〒164-0003 中野区東中野 3-15-14</p> <p><a href="https://www.jhs.ac.jp/">https://www.jhs.ac.jp/</a></p>	昼 夜	国際ホテル学科 (300) ホテル科・英語専攻科・ブライダル科 ※すべての科にカナダ・オーストラリア留学制度あり (希望者全員)	1972年、本校はホテルの育成を目的として開校した「プリンスホテルスクール」から始まりました。これまでにホテル・ブライダル分野における人材育成において日本を代表する教育機関として1万3千人の卒業生を輩出してきました。そして2021年に創立50周年を迎えました。
		夜	国際ホテル学科 (160) ホテル科・ブライダル科 ※すべての科にカナダ・オーストラリア留学制度あり (希望者全員)	「理論と実技の一体化によるサービスの創造」を具体化し、理論教育と実務教育、そして企業実習を行い、サービスから経営まで一貫した教育内容を備えています。 職業実践専門課程認定校、高等教育の修学支援新制度「高等教育無償化」対象機関として承認されています。
27	<p>日本美容専門学校</p> <p>〒169-0075 新宿区高田馬場 1-21-12</p>	昼 夜 昼 通	専門科 (400) 専門科 (120) 総合美容科 (30) 春生 (4月入学)・秋生 (10月入学) 計 200	本校は昭和29年、美容師の全国組織である「日本美容師会」を母体として優秀な美容師を世に送り出し美容業の安定・質的充実と美容師の地位向上をめざし、全国会員の協力により設立されました。以来、「美容を通じて近代の叡智を築く」という建学の精神に基づき豊かな教養と自由な発想を持った理想的な「美の実践者」を育成しています。
28	<p>ハリウッド美容 専門学校</p> <p>〒106-8541 港区六本木 6-4-1</p> <p><a href="https://www.hollywood.ac.jp">https://www.hollywood.ac.jp</a></p>	昼 通	美容総合科 ・高度ビューティーコース (高度専門課程 4年) ・ヘアメイクビューティーコース (専門課程 2年) ・トータルビューティコース (専門課程 2年) ・コスメビューティコース (専門課程 2年) ・ベーシックビューティコース (専門課程 1年) ・美容師通信教育コース (通信課程 3年)	95年前、日本の女性をハリウッドスターのように美しくすることをめざして美容学校・美容室・化粧品会社のハリウッドビューティグループを創立したトータルビューティのバイオニア校です。ビューティの最先端をリードする六本木ヒルズで、美容のすべてを学びます。90年以上の歴史と伝統の成果を結集した充実のカリキュラムと最新の設備で、夢を実現するための美容のプロフェッショナルを育成します。国内はもちろん海外でも活躍できる実践力をめざします。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
29	<b>二葉栄養専門学校</b> 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 2-11-2 <a href="https://furuya.ac.jp/nutrition/">https://furuya.ac.jp/nutrition/</a>	昼	管理栄養士学科 (4年・40) 栄養士科 (2年・120) 調理師科 (1年・76) 調理実践科 (2年・38)	学校法人古屋学園は1937年の開校以来、ファッション、調理、栄養、製菓分野に数多くの職業人を輩出してまいりました。2002年に東日本地区の専門学校では最初に管理栄養士学科を設置。2015年には管理栄養士学科と栄養士科、2017年には調理実践科が『職業実践専門課程』として認定され、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために企業等と連携し実習や実技の授業を重視した学園として文部科学省より認可を受けました。今後も、社会のニーズに応えられる専門知識と技量、幅広い教養・コミュニケーション能力を身につけた実践的かつ人間性豊かな栄養士・管理栄養士・調理師を養成いたします。
30	<b>二葉ファッションアカデミー</b> 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町 1-3-2 <a href="http://www.furuya.ac.jp">http://www.furuya.ac.jp</a>	昼・夜	令和4年度新入生の募集は行いません。	1937年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神のもと、学内ショップ及びブランドを有し、専門学校で唯一「東京コレクション」に参加する等、常にファッション界と連携した教育活動を展開しています。少人数制のきめ細やかな教育と産業界と直結した最先端教育が特徴です。
31	<b>マリールイズ美容専門学校</b> 〒160-0018 新宿区須賀町3番地 <a href="http://www.marie-louise.ac.jp">http://www.marie-louise.ac.jp</a>	昼	美容本科 (40)	「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」110年を迎える本校は、歴史を踏まえ「一に人格・二に技術」を教育の根幹に捉え「1学年40人」の少人数による指導の下で一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を育てたいと日々授業に取り組んでいます。美容師免許合格率6年平均95%、就職では約800社からの求人があり就職指導も手厚くサポートしております。授業内容は、入学後の6か月間はカットやメイクの美容基礎を学びその後は、自らの個性を重視し学生の「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っています。※高等教育の修学支援制度の対象校
32	<b>町田・デザイン専門学校</b> 〒194-0022 町田市森野1-26-8 <a href="http://www.mdc.ac.jp">http://www.mdc.ac.jp</a>	昼	建築デザイン科 (2年・40) インテリアデザイン科 (2年・40) グラフィックデザイン科 (3年・40) イラストレーション科 (2年・40) Web・CGアニメーション科 (3年・40) まんが科 (2年・40) コミックイラスト科 (2年・40)	都心や横浜へのアクセスが良い町田市に拠点を置き、1978年(昭和53年)創立の本校は、これまで優れたクリエイターを輩出しています。ピア・カウンセリング教育による教育力アップ×人間力の指導、ステップアップ方式による目に見える成果の習得など、本校独自の教育システムを開発しました。これら独自の教育システムは、学生一人ひとりの顔がしっかり見える本学だからこそ実現できる教育システムです。デザインを初めて学ぶことへの不安を安心に変えるために、基礎から応用まで無理なく進めていくステップアップ方式で入学から就職・プロデビューまで、丁寧にサポートしています。また、ピア・カウンセリング教育により、学生同士がふれあい、学びあう『仲間教育』を積極的に進めています。お互いの個性を認めながら、共同して物を創る。このお互いに育ちあう教育で、「思考力」と「人間力」を育み、社会を必要としている人材を育成します。
33	<b>武蔵野栄養専門学校</b> 〒171-0022 豊島区南池袋3-12-5 <a href="http://www.musashino-eiyou.ac.jp">http://www.musashino-eiyou.ac.jp</a>	昼	栄養科 (240)	本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」の育成に取組み、以来14,000名を超える卒業生を輩出している。平成26年度には文部科学省より職業実践専門課程に認定され、より一層実践的な職業教育の質の確保に取り組んでいる。また教育の理念として実社会での即戦力を養成するため、体感・体験・体得を重視し、「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」を踏まえ、「1. 努力 2. 誠実 3. 奉仕」を校訓に専門教育に加え徳育面を重視し情操豊かな人間性を持った栄養士の育成に取り組んでいる。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」において無償化の対象校に認定された。
34	<b>武蔵野東高等専修学校</b> 〒180-0013 武蔵野市西久保3-25-3 <a href="https://www.musashino-higashi.org/koto.php">https://www.musashino-higashi.org/koto.php</a>	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。
35	<b>専門学校読売自動車大学校</b> 〒136-0071 江東区亀戸2-28-5 <a href="https://www.yccm.ac.jp">https://www.yccm.ac.jp</a>	昼	1級整備学科 (4年・30) 自動車整備学科 (2年・120)	読売新聞社が1969年に設立。読売グループ各企業がバックアップ。読売新聞社独自の奨学金制度が充実。「高等教育修学支援制度」の文科省認定校でもあり、安心して学べる体制です。国家試験も就職も、毎年ほぼ100%の実績を残しています。自動車エンジニアとしての技術力だけでなく「人間力」の育成にも力を注いでいます。両学科とも「職業実践専門課程」認定校であり、企業連携を重視した実践的な教育体制です。さらに、1級整備学科は大学院入学資格も与えられる「高度専門士」が付与され、大学院進学者も輩出しています。

学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
36 読売理工医療福祉専門学校 文京区小石川 1-1 <a href="https://www.yomiuririkou.ac.jp">https://www.yomiuririkou.ac.jp</a>	昼	【工業専門課程】 放送映像学科 (2年制:80)、TVディレクター学科 (2年制:40)、建築学科 (2年制:40)、電気電子学科 (2年制:40)、クロスメディア情報学科 (2年制:40) 【医療専門課程】 臨床工学科 (3年制:40) 【社会福祉専門課程】 介護福祉学科 (2年制:40)	読売新聞社により1970年に創設、開校52年を迎え27,000名を超える卒業生を社会に送り出しています。工業・医療・福祉の3分野に昼間部と夜間部を併せ9学科を設置しており、すべての学科で卒業時に文部科学大臣から専門士の称号が付与されます。さらに7学科については職業実践専門課程の認定を受けております。また、高等教育の修学支援新制度の確認校になっております。 2020年4月、文京区小石川一丁目へ移転しました。最新工法による再開発ビル、実習機器と教育施設を一新し、次の50年に向けて新たなスタートを切りました。
	夜	【工業専門課程】 建築科 (2年制:40) 【医療専門課程】 臨床工学専攻科 (2年制:40)	
37 早稲田速記医療福祉専門学校 〒171-8543 豊島区高田 3-11-17 <a href="https://www.wasedasokki.jp/">https://www.wasedasokki.jp/</a>	昼	医療秘書科 (120)、医療事務IT科 (40)、診療情報管理科 (80) 医療事務科 (40)、くすり・調剤事務科 (40)、介護福祉科 (30)、看護科 (35)	1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。医療秘書教育の伝統校として、確かな教育力を誇ります。現場で必要とされる「専門性」と「社会性」を身につけた「社会に貢献できる人材の育成」に取り組んでおり、卒業後も、卒業生支援講座や再就職の支援を行い、学び、働き続ける卒業生を応援しています。また、正職員就職率が高いこともSOKKIの特徴の一つです。

### 短期大学会員名簿 (2)

学校名 / 所在地 / URL	課程	令和4年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1 愛国学園短期大学 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 <a href="https://www.aikoku-jc.ac.jp">https://www.aikoku-jc.ac.jp</a>	全	家政科： 生活デザイン専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	経済的に独立し、一家幸福の源泉となる女性の育成を目的とし、思考力、判断力、表現力を培い、主体性、多様性、協働性を養う教育を行っています。生活デザイン専攻では、家政学の幅広い知識と技能を身につけ、生活全般を自ら企画・創造する実践力を養います。レストランサービス技能検定や医療事務管理士など、衣食住・福祉などに係る様々な資格が取得可能です。食物栄養専攻では、栄養士として、食の専門知識・技能に加え、フードスペシャリストなどの資格も取得できます。他に、介護職員初任者研修終了資格などの取得を支援する講座なども設けています。
2 東京家政大学 短期大学部 〒173-8602 板橋区加賀 1-18-1 <a href="https://www.tokyo-kasei.ac.jp/">https://www.tokyo-kasei.ac.jp/</a>	全	保育科 (120) 栄養科 (80)	学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、約83%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受験資格)が取得でき、栄養士には約47%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。



## 中 学 校 等 会 員 名 簿 ( 4 3 9 )

## 公立中学校

千代田区	2校	麹町中学校	神田一橋中学校			
中央区	4校	晴海中学校	日本橋中学校	銀座中学校	佃中学校	
港区	10校	御成門中学校 赤坂中学校	白金の丘中学校 青山中学校	高松中学校 港陽中学校	港南中学校 六本木中学校	高陵中学校 三田中学校
新宿区	10校	牛込第一中学校 西新宿中学校	牛込第二中学校 四谷中学校	牛込第三中学校 西早稲田中学校	落合中学校 新宿中学校	落合第二中学校 新宿西戸山中学校
文京区	10校	第一中学校 第十中学校	第三中学校 文林中学校	第六中学校 茗台中学校	第八中学校 本郷台中学校	第九中学校 音羽中学校
台東区	7校	上野中学校 柏葉中学校	忍岡中学校 桜橋中学校	駒形中学校	浅草中学校	御徒町台東中学校
墨田区	10校	墨田中学校 吾嬬第二中学校	本所中学校 寺島中学校	両国中学校 文花中学校	豎川中学校 桜堤中学校	錦糸中学校 吾嬬立花中学校
江東区	23校	深川第一中学校 深川第六中学校 第三亀戸中学校 第三砂町中学校 東陽中学校	深川第二中学校 深川第七中学校 大島中学校 第四砂町中学校 大島西中学校	深川第三中学校 深川第八中学校 第二大島中学校 辰巳中学校 有明中学校	深川第四中学校 亀戸中学校 砂町中学校 南砂中学校	深川第五中学校 第二亀戸中学校 第二砂町中学校 第二南砂中学校
品川区	9校	東海中学校 荏原第一中学校	大崎中学校 荏原第五中学校	浜川中学校 荏原第六中学校	鈴ヶ森中学校 戸越台中学校	富士見台中学校
目黒区	9校	第一中学校 第十一中学校	第七中学校 東山中学校	第八中学校 目黒中央中学校	第九中学校 大鳥中学校	第十中学校
大田区	28校	大森第一中学校 貝塚中学校 大森第七中学校 羽田中学校 南六郷中学校 東蒲中学校	大森第二中学校 大森第四中学校 雪谷中学校 糀谷中学校 矢口中学校 蒲田中学校	大森第八中学校 大森第三中学校 大森第十中学校 出雲中学校 御園中学校 大森東中学校	馬込中学校 東調布中学校 大森第六中学校 六郷中学校 蓮沼中学校	馬込東中学校 田園調布中学校 石川台中学校 志茂田中学校 安方中学校
世田谷区	29校	太子堂中学校 緑丘中学校 弦巻中学校 深沢中学校 烏山中学校 喜多見中学校	桜丘中学校 駒留中学校 奥沢中学校 尾山台中学校 千歳中学校 三宿中学校	松沢中学校 梅丘中学校 八幡中学校 用賀中学校 芦花中学校 世田谷中学校	駒沢中学校 桜木中学校 玉川中学校 東深沢中学校 上祖師谷中学校 船橋希望中学校	北沢中学校 富士中学校 瀬田中学校 砧中学校 砧南中学校
渋谷区	8校	広尾中学校 松濤中学校	鉢山中学校 渋谷本町学園中学校	上原中学校 原宿外苑中学校	代々木中学校	笹塚中学校
中野区	9校	第二中学校 南中野中学校	第五中学校 中野中学校	第七中学校 中野東中学校	北中野中学校 明和中学校	緑野中学校
杉並区	23校	高円寺中学校 松溪中学校 井草中学校 高井戸中学校 和田中学校	高南中学校 天沼中学校 荻窪中学校 向陽中学校 西宮中学校	杉森中学校 東原中学校 神明中学校 松ノ木中学校 和泉中学校	阿佐ヶ谷中学校 中瀬中学校 宮前中学校 大宮中学校	東田中学校 井荻中学校 富士見丘中学校 泉南中学校
豊島区	8校	駒込中学校 巢鴨北中学校	西巢鴨中学校 明豊中学校	池袋中学校 西池袋中学校	千川中学校	千登世橋中学校
北区	12校	堀船中学校 王子桜中学校 滝野川紅葉中学校	稲付中学校 桐ヶ丘中学校 赤羽岩淵中学校	神谷中学校 明桜中学校	浮間中学校 十条富士見中学校	飛鳥中学校 田端中学校
荒川区	10校	第一中学校 第九中学校	第三中学校 尾久八幡中学校	第四中学校 南千住第二中学校	第五中学校 原中学校	第七中学校 諏訪台中学校
板橋区	1校	桜川中学校				
練馬区	33校	旭丘中学校 開進第二中学校 貫井中学校 石神井東中学校 大泉第二中学校 谷原中学校 光が丘第一中学校	豊玉中学校 開進第三中学校 田柄中学校 石神井西中学校 八坂中学校 三原台中学校 光が丘第二中学校	豊玉第二中学校 開進第四中学校 豊浜中学校 上石神井中学校 練馬東中学校 大泉北中学校 光が丘第三中学校	中村中学校 北町中学校 石神井中学校 大泉中学校 大泉西中学校 南が丘中学校	開進第一中学校 練馬中学校 石神井南中学校 大泉学園中学校 関中学校 大泉学園桜中学校

足立区	35校	第一中学校 第九中学校 第十四中学校 竹の塚中学校 西新井中学校 谷中中学校 入谷南中学校	第四中学校 第十中学校 江南中学校 東綾瀬中学校 入谷中学校 花保中学校 六月中学校	第五中学校 第十一中学校 新田中学校 花畑中学校 江北桜中学校 栗島中学校 千寿青葉中学校	第六中学校 第十二中学校 東島根中学校 蒲原中学校 伊興中学校 扇中学校 千寿桜堤中学校	第七中学校 第十三中学校 洲江中学校 青井中学校 花畑北中学校 加賀中学校 鹿浜菜の花中学校
葛飾区	24校	本田中学校 綾瀬中学校 双葉中学校 立石中学校 高砂中学校	金町中学校 上平井中学校 大道中学校 常盤中学校 東金町中学校	水元中学校 中川中学校 四ツ木中学校 一之台中学校 葛美中学校	新宿中学校 桜道中学校 小松中学校 青戸中学校 新小岩中学校	奥戸中学校 堀切中学校 亀有中学校 青葉中学校
江戸川区	33校	小松川第一中学校 松江第三中学校 瑞江中学校 小岩第二中学校 瑞江第三中学校 二之江中学校 清新第一中学校	小松川第二中学校 松江第四中学校 瑞江第二中学校 小岩第三中学校 葛西第三中学校 鹿骨中学校 南葛西第二中学校	小松川第三中学校 松江第五中学校 鹿本中学校 小岩第四中学校 松江第六中学校 南葛西中学校 清新第二中学校	松江第一中学校 葛西中学校 篠崎中学校 小岩第五中学校 篠崎第二中学校 西葛西中学校	松江第二中学校 葛西第二中学校 小岩第一中学校 上一色中学校 春江中学校 東葛西中学校
武蔵野市	6校	第一中学校 第六中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
青梅市	10校	第一中学校 第七中学校	第二中学校 霞台中学校	第三中学校 吹上中学校	西中学校 新町中学校	第六中学校 泉中学校
府中市	11校	府中第一中学校 府中第六中学校 浅間中学校	府中第二中学校 府中第七中学校	府中第三中学校 府中第八中学校	府中第四中学校 府中第九中学校	府中第五中学校 府中第十中学校
調布市	8校	調布中学校 第六中学校	神代中学校 第七中学校	第三中学校 第八中学校	第四中学校	第五中学校
町田市	1校	真光寺中学校				
国分寺市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
狛江市	4校	狛江第一中学校	狛江第二中学校	狛江第三中学校	狛江第四中学校	
東大和市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
多摩市	9校	多摩中学校 鶴牧中学校	東愛宕中学校 多摩永山中学校	和田中学校 落合中学校	諏訪中学校 青陵中学校	聖ヶ丘中学校
羽村市	3校	羽村第一中学校	羽村第二中学校	羽村第三中学校		
大島町	1校	第一中学校				
三宅村	1校	三宅中学校				
新島村	2校	新島中学校	式根島中学校			
神津島村	1校	神津中学校				
青ヶ島村	1校	青ヶ島中学校				

区立中等教育学校

千代田区	1校	九段中等教育学校
------	----	----------

区立義務教育学校

品川区	6校	日野学園 豊葉の杜学園	伊藤学園	八潮学園	荏原平塚学園	品川学園
江東区	1校	有明西学園				

都立中学校

5校	白鷗高等学校附属中学校	両国高等学校附属中学校	武蔵高等学校附属中学校	富士高等学校附属中学校	大泉高等学校附属中学校
----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

都立中等教育学校

5校	小石川中等教育学校	桜修館中等教育学校	立川国際中等教育学校	南多摩中等教育学校	三鷹中等教育学校
----	-----------	-----------	------------	-----------	----------

私立中学校

4校	愛国中学校	鷗友学園女子中学校	恵泉女学園中学校	武蔵野東中学校
----	-------	-----------	----------	---------

国立大学法人

2校	筑波大学附属中学校	東京学芸大学附属小金井中学校
----	-----------	----------------

個人会員名簿(13)

1. 堀居 英治	2. 齋藤 武捷	3. 倉持 俊義	4. 梶谷 正義	5. 内川 武雄
6. 松井 章朗	7. 花野 耕一	8. 富岡 逸郎	9. 森 健	10. 福島 正幸
11. 佐々木 健一	12. 手打 和明	13. 大塚 健一		

## 入会の御案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 都庁第二本庁舎 15階北側  
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内  
東京都産業教育振興会事務局  
TEL 03(5320)6729

## 編集後記

この2年間、新型コロナウイルス感染症は世界中で蔓延し、社会生活や経済活動に重大な影響を及ぼしました。我が国でも教育界は大きな影響を受けましたが、会員校は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、教育活動を工夫して行いました。そこで、本年度の特集テーマは、昨年度に引き続き「『新しい日常』における産業教育の推進—各学校・学科の取組—」とし、コロナ禍における会員校の実践を報告していただきました。

「新しい日常」において、産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

御多用にも拘わらず、原稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <https://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン（平成24年度本誌第50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品）  
製作者 川口彩花さん（東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科3年：当時）

ロゴマークデザイン（令和元年度東京都産業振興会ロゴマークコンクール最優秀作品）  
製作者 黒岩風花さん（東京都立葛飾商業高等学校3年：当時）

## 東京の産業教育 第59号

発行 令和4年（2022年）3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎15階北

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています